
シラバス

2021年度



聖マリアンナ医科大学看護専門学校

学籍番号	
氏名	

シラバス

聖マリアンナ医科大学 看護専門学校

目 次

基礎分野

宗教哲学	1
音楽	4
人間関係論Ⅰ	5
人間関係論Ⅱ	6
論理学	8
生物学	9
教育学	11
社会学	12
文化人類学	13
情報科学	15
スポーツ科学	17
英語Ⅰ	18
英語Ⅱ	19
外国語会話	20
文学	24
美術	25

専門基礎分野

人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）	27
人体の構造と機能Ⅱ（生理学）	29
人体の構造と機能Ⅲ（生化学）	32
人体の構造と機能Ⅳ（栄養学）	34
病気の発生とメカニズム（病理学）	36
微生物と病気（微生物学）	38
薬理作用と健康（薬理学）	40
疾病診断総論	41
疾病治療総論	42
疾病治療論Ⅰ	45
疾病治療論Ⅱ	50
疾病治療論Ⅲ	56
疾病治療論Ⅳ	61
臨床心理学	71
予防医学	73
医療と倫理	75
社会福祉論	76

医療関係法規Ⅰ	77
医療関係法規Ⅱ	79

専門分野Ⅰ

基礎看護学	81
-------	----

専門分野Ⅱ

成人看護学	111
老年看護学	127
小児看護学	139
母性看護学	151
精神看護学	163

統合分野

在宅看護論	175
看護の統合と実践	187

2021年度 看護技術マトリクス

基礎分野

専門基礎分野・専門分野の基礎的知識として役立てるとともに、キリスト教的人類愛を基盤とした豊かな人間性を養う。

科目名：宗教哲学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： キリスト教の立場から人間文化としての宗教を学び、建学の精神を理解する。			
学習目標： 1. 医療者が直面する具体的な事例に即して、生物学的な「生命」、一人ひとりのかけがえない「人生」、家庭「生活」、そしてそれらを取り巻く社会「生活」が、どのような意味で互いに深く結ばれており、なぜ切り離すことができないのかを説明することができるようになる。 2. 医療者が直面する具体的な事例に即して、どのようにすれば生命を粗末にせずすむか、生命を尊重するにはどのような配慮が必要かを説明することができるようになる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	オリエンテーション	「宗教哲学」の目的・内容・講義への取り組み方・成績評価等について理解する。 『聖書』	講義
2	いのちの未来	いのちの未来に対して課せられている私たちの責任を見つめる。 CD：風に立つライオン	講義
3	食べることと生きること	食事の摂り方をきっかけにして、いのちを大切にするための感性を磨く。 『うちは精肉店』	講義
4	聖書の生命観	いのちについて、人間について、聖書がどのように語っているのか概観する。 CD：ごらんよ 空の鳥	講義
5	旧約聖書から学ぶ人間の尊厳	旧約聖書の「創造物語」から人間の存在意義と相互の関わり的重要性について学ぶ。 CD：神のはからいは限りなく	講義
6	いのちを迎え入れるための配慮	いのちの始まりは一瞬ではない。いのちを迎え入れるために配慮すべきことを学ぶ。 『わたしがあなたを選びました』	講義
7	子どもを守る取り組み	子どもを守る欧米の様々な取り組みを知り、日本の課題を見つめる。 CD：いのちの歌	講義
8	ともに暮らす家を大切に	人間活動が他者と全生物に与える影響を見つめ総合的なエコロジーについて学ぶ。 CD：Heal the World	講義

回数	講義題目	内容	方法
9	新約聖書から学ぶ人間の尊厳	「よいサマリア人のたとえ話」を通して隣人愛に基づく人間の尊厳を理解する。	講義
10	care 中心の医療を目指す	cure 中心の医療が抱える諸問題、care 中心の医療が目指しているものを理解する。 CD：最後だと分かっていたなら	講義
11	自分らしい最期を迎える	最期まで自分らしく生きることの重要性を理解する CD：ゆずりは	講義
12	死を迎え入れるための配慮	QOD（終末の質）を向上させるために配慮すべきことを学ぶ。 『ではまた明日』	講義
13	死	諸宗教の教えや実践が示す「死」の捉え方を知る。 DVD：象の背中	講義
14	カトリック教会の死生観	カトリック教会が死をどのように捉え、死に関わろうとしているかを学ぶ。 CD：いのち永遠に	講義
15	「宗教哲学」まとめ	「いのちを大切にす道を選ぶ」ことにこだわる必要性を考える。	講義
<p>評価方法： 提出物の記述内容と提出状況とを総合的に評価する。</p>			
<p>評価基準： 60 点以上で単位修得</p>			
<p>参考文献： 井上洋治『キリスト教がよくわかる本』PHP 研究所、1991 医療法人聖粒会慈恵病院『「こうのとりのゆりかご」は問いかける』熊本日日新聞社、2013 E・キューブラー・ロス『続 死ぬ瞬間』読売新聞東京本社、2007 E・キューブラー・ロス『「死ぬ瞬間」と死後の生』中央公論新社、2016 教皇庁教理省『生命のはじまりに関する教書』カトリック中央協議会、1996 教皇フランシスコ『回勅 ラウダート・シ』カトリック中央協議会、2016 教皇ヨハネ・パウロ二世『回勅 いのちの福音』カトリック中央協議会、1996 小松奈美子『医療倫理の扉』北樹出版、2005 鮫島浩二『わたしがあなたを選びました』主婦の友社、2013 島蘭進『いのちを“つくって”もいいですか』亮有堂、2016 中村桂子・山岸敦『「生きている」を見つめる医療』講談社現代新書、2007 長島正・長島世津子『最後の授業－愛とケアの人間学』丸善プラネット、2011 西田英史『ではまた明日』草思社、1998</p>			

参考文献：

- 西智弘『だから、もう眠らせてほしい』晶文社、2020
- 日本カトリック司教団『生命、神のたまもの』カトリック中央協議会、1996
- 日本カトリック司教団『いのちへのまなざし（増補新版）』カトリック中央協議会、2017
- 日本カトリック司教協議会「今こそ原発の廃止を」編纂委員会
『今こそ原発の廃止を』カトリック中央協議会、2016
- 日本カトリック司教協議会社会司教委員会（編）
『なぜ教会は社会問題にかかわるのか Q&A』カトリック中央協議会、2012
- 棚島次郎『先端医療と向き合う』平凡社、2020
- 蓮田太二・柏木恭典『名前のない母子をみつめて』北大路書房、2016
- 蓮田太二『ゆりかごにそっと』方丈社、2018
- フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書』サンパウロ、2015
- 宮本顕二・宮本礼子『欧米に寝たきり老人はいない』中央公論社、2015年
- 本橋成一『うちは精肉店』農山漁村文化協会、2013
- 柳澤桂子『われわれはなぜ死ぬのか』草思社、2005
- 山下弘子『雨上がりに咲く向日葵のように』宝島社、2014
- 葉祥明『ひかりの世界』佼成出版社、2011

留意事項：

1. Google の Classroom を開き、「宗教哲学」の「授業」ページを見てください。
「宗教哲学1」から「宗教哲学15」というタイトルが並んでいます。各タイトル覧の中には、「課題」と「講義スライド」とが掲載されています。「宗教哲学2」以降の「課題」には、講義を受けるまでに読んでおくべき「準備資料」が添付されています。「準備資料」と「講義スライド」をダウンロード・印刷して目を通しておいてください。
2. 前もって「準備資料」を読み、講義を受けた後、「課題」の中に添付されている「提出用紙」に、「準備資料を読み、講義を学んで、あなたが気づいたこと、見えてきた自らの課題」を250字以上で書き、それを講義の翌朝9時までに Classroom 経由で提出してください。
3. 講義について分からないことや確認したいことがあれば、遠慮せずメールで問い合わせてください。登校が許される状況ならば、教育棟3階の教員室訪問を歓迎します。
授業中に近隣の人と話すことは禁じます。
4. 「提出用紙」には、専門知識がない中学生が読んでも理解できる文章を書いてください。主題ごとに段落分けをしていなかったり、適切な句読点がなかったり、誤字脱字は減点します。
5. 講義中、『新約聖書』を読みます。『新約聖書』または『聖書』をご用意ください。
どこの出版社のものでもかまいません。お家にあるならば、それを使ってください。

科目名：音楽	履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 楽は人の心に様々なことを感じさせたり、思い起こさせたりする。また何かを作り出す喜び、 苦しみも与えると言われているので、人をさらに深く理解するために音楽を学ぶ。			
学習目標：			
回数	講義題目	内容	方法
1	音楽とは	耳をすませば リトミック ハーモニーを楽しむ	講義
2	人と音楽とのかかわり	昔から愛されている唱歌を探る なつかしい歌の鑑賞	講義
3	合唱	聖歌	講義
4	合唱	聖歌	講義
5	合唱	聖歌	講義
6	合唱	聖歌	講義
7	合唱	聖歌	講義
	終了試験（1時間）	実技・レポート	試験
評価方法： 1. 二重奏 2. レポート			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： カトリック聖歌集、印刷教材			

科目名：人間関係論 I	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間関係の基盤となる自分自身を認識し、自己を活用できる力を育てる。			
学習目標： 1. 自分および他者について理解を深める。 2. 自分と他者との関わりについて考える。 3. 人間の多様性について理解を深める。 4. コミュニケーションスキルを体験し、自己活用について考える。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	1. 看護および対人関係において 自分を知ることの意味 2. 自分と他者 3. 自分の対人関係 4. コミュニケーションスキル 体験	1. 自己基盤力、自己活用、 リフレーミング 2. 私の名刺 3. 非言語的・言語的表現、 ストローク、対話診断 4. 話す・聴く、尋ねる、 アサーティブな表現	講義
2			講義
3			講義
4			講義
5			講義
6			講義
7			講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 出席状況と授業への参加度、授業毎の提出物			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
参考文献： 授業の中で提示する			

科目名：人間関係論Ⅱ		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（14回）
履修学年：2学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 自己・他者との人間関係、集団中での人間関係に焦点を当て、関係を促進するために必要とされる能力を身につける。			
学習目標： 1. 自分をどこまで知っているか、相手をどこまで受容できるか、演習をどうして理解する。 2. 対人スキル、カウンセリング・マインドを理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	人間関係論概論	授業オリエンテーション カウンセリング・心理支援について	講義
2	「看護すること、されること」	関係性の提供、依存と自立、大人として扱うこと	講義
3		事例を読んだの グループディスカッション	演習
4	「仕事をする事」	マネージメントすること、 権限や構造の認識、報告連絡相談	講義
5		事例を読んだの グループディスカッション	演習
6	「関係性について<1>」	関係をどうやって作っていくのか	講義
7		事例を読んだの グループディスカッション	演習
8	「関係性について<2>」	思いやりの意味、逆転移感情について、 傷ついた人をどう扱うのか	講義
9		事例を読んだの グループディスカッション	演習
10	「チームワークについて」	集団心理、ピアサポート、 ワークグループ	講義
11		事例を読んだの グループディスカッション	演習
12	「人間関係と自分自身について」	世代間伝達と転移、自分自身になること、 憧れを見つけること	講義
13		事例を読んだの グループディスカッション	演習
14	まとめ・終了試験	質疑応答と補足	演習

評価方法：

終了試験（筆記試験）おとび講義ごとの提出物により評価を行う。

評価基準：

60 点以上を合格とする。

講義資料は授業の際に配布します。

科目名：論理学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的：すじみちを立てて物事を考えることを学ぶ。			
学習目標： 1. 日本語の特徴を理解できる。 2. 相手の意見を理解でき、自分の意見を主張できる。			
回数	講義 題 目	内 容	方 法
1	文・段落の仕組み		講義
2	引用		講義
3	主張と理由		講義
4	批判		講義
5			講義
6			講義
7			講義
	終了試験（1 時間）	レポート作成	試験
評価方法： 課題作文、授業中の学習活動等による。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：プリント 参考文献：適宜紹介			

科目名：生物学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 1 5 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生物・生命現象の一般原理や基礎を理解し、生物としての人間を知る。			
学習目標： <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の機能・構造上の基本単位である細胞の化学成分や細胞膜の構造と機能について理解する。 2. 細胞内部の種々の構造とその機能、および細菌とウイルスの相違点について理解する。 3. 遺伝子としてのDNAの構造と、生物が子孫に遺伝情報を伝えるしくみおよびその法則性について理解する。 4. 遺伝情報が形質として発現する過程について理解する。 5. 遺伝情報の発現調節と細胞分化の関係を理解する。 6. 多細胞生物における細胞増殖のしくみについて理解する。 7. 生物が繁殖する為のしくみと、1 個の受精卵から種々の細胞や組織が分化する過程の概要を理解する。 			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	細胞の構造と機能①	1. 生命体を構成する物質 2. 生体膜の構造と機能	講義
2	細胞の構造と機能②	3. 細胞小器官の基本構造 4. 多細胞生物の体制 5. 細胞間結合	講義
3	遺伝子の構造と機能	1. DNAの構造 2. 転写 3. 翻訳	講義
4	細胞増殖	1. DNAの複製 2. 染色体の構造 3. 体細胞分裂	講義
5	生殖と発生①	1. 無性生殖と有性生殖 2. 減数分裂 3. 配偶子形成	講義
6	生殖と発生②	4. 受精 5. 発生	講義
7	遺伝のしくみ	1. メンデルの遺伝の法則 2. 人の遺伝病	講義
	終了試験（1 時間）		試験

評価方法：

筆記テストおよび授業態度により総合的に評価する。

評価基準：

60 点以上で単位修得

テキスト：

やさしい基礎生物学第2版 南雲保著 羊土社

科目名：教育学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：2 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間を人間たらしめる真の教育とは何か、それを実現するための教育の在り方とは何か、 について多面的に考察する。次に医療の倫理について考察する。			
学習目標： 今日のわが国の教育は、教育を規定する政治的、社会的、文化的諸条件の変動によって、 家庭、学校、社会の教育は変貌し混迷状態にある。教育力の回復は教育改革の中心課題とさ れている。わが国教育の歴史的発展を振り返り、問題点と解決策を検討する。 次に看護師の力量（資質・能力）について検討する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	教育の意義	1. 教育の必要性 2. 教育の領域 3. 教育の変貌	講義 DVD
2	教育の歴史	1. 教育の歴史（西洋） 2. 教育の歴史（日本）	講義 DVD
3			
4	学校教育の病理と 教育改革	1. 現代の教育 －校内暴力・いじめ・不登校－ 2. 家庭教育、学校教育はどう変わる のか 3. 教育者としてのあり方、 教師という仕事	講義 DVD
5			
6	医療の倫理	1. 医療の倫理 2. 看護師の力量	講義 DVD
7			
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 試験の成績、出欠状況、受講態度などを勘案して総合的に評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：適宜プリントを配布 参考文献：平野智美編著『教育の理論』 八千代出版 藤田英典著『誰のための「教育再生」か』 岩波新書 星野一正著『医療の倫理』 岩波新書			

科目名：社会学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 社会構造や人間の社会的な行動を理解し、社会の変動を考察する。			
学習目標： 1. 人間は、社会の中で他者との相互作用を通して自己概念が形成されていくことを理解する。 2. 生涯を通して個人が多様な集団に所属し、社会に影響していくことを理解する。 3. 社会学研究の実践を通して、社会のシステムや社会関係の形成について学ぶ。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	社会学概論	各講義題目に関連する事象（資料）を 基に、次の視点で学びを深める。 1. 自己の意見の明確化 2. 問題点の考察 3. 問題点に対する提案	講義
2	個人と社会		講義
3	集団と社会		講義
4	家族社会学		講義
5	地域社会学		講義
6	労働社会学		講義
7	社会調査		講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 1. 授業参加態度 2. 試験			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：印刷教材			

科目名：文化人類学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
<p>学習目的：</p> <p>グローバル化が進み、日本国内で生活しながらも世界の様々な文化を背景とする人々との接触が増え、世界で起こる出来事や気候変動など地球的課題を我々の日常生活から切り離して考えることは不可能となった。異文化認識の方法を学ぶとともに、自文化についても理解していくことが大切となる。</p> <p>本授業のなかでは文化人類学の視点より、世界の民族紛争や地球的課題など時事問題についてもわかりやすく解説していく。パンデミック、ポストパンデミックの時代は、分断を乗り越え人間の地球的連帯が不可欠となろう。文化人類学という学問の窓を通して、地球市民意識を養い育てていくことも大きな目的としたい。</p>			
<p>学習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化に対する基本的な見方を理解する。 2. 自文化と異文化について理解する。 3. 文化的性差、婚姻、家族について理解する。 4. 文化人類学の視点から、グローバルな視野を広げ、育む。 			
回数	講義題目	内容	方法
1	人間と文化	文化の定義・異文化理解とは何か	講義
2	文化人類学とは何か	その成立・研究対象・研究方法・研究目的について	講義
3	文化についての認識の仕方(1) 文化についての認識の仕方(2)	エスノセントリズム、オリエンタリズムなど 文化の多様性、文化多元主義、文化相対主義とその課題	講義
4	通過儀礼・儀礼の構造	ビデオ学習（通過儀礼）	講義
5	生殖と親子関係、婚姻、家族	生殖医療・技術の発展による家族の形の変化	講義
6	宗教と世界観	世界宗教と文化人類学で扱われてきた宗教	講義
7	人間の死と文化	文化によるとらえ方の違いはあるか	
	終了試験（1時間）		試験

評価方法：

1. 授業参加、学習態度を重視する。
授業終了前に授業の要約を書いてもらい、提出していただくこともある。
2. テスト（レポート形式）
与えられたテーマから選択し、決められたテスト時間内で論述する。

評価基準：

60点以上で単位修得

テキスト：「文化人類学」カレッジ版 医学書院

- 参考文献：竹沢尚一郎『人類学的思考の歴史』京都・世界思想社 2007
江淵 一公『文化人類学－伝統の現代』放送大学教育振興会 2000
祖父江孝男『文化人類学のすすめ』講談社学術文庫 1997
祖父江孝男『文化人類学入門』中央公論社＜中公新書＞（増補改訂版）1990
波平恵美子『病気と治療の文化人類学』海鳴社 1984
石田英一郎『文化人類学入門』講談社＜講談社現代文庫＞ 1976
Christie W.Kiefer『文化と看護のアクションリサーチ』医学書院 2010

科目名：情報科学（統計学も含む）		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 情報科学の必要性や統計上の基本的概念を理解し、データ処理方法やコンピューターの操作方法を身につける。			
学習目標： 1. 看護と情報科学のつながりを理解する。 2. データの読み方、まとめ方を理解する。 3. 看護研究におけるツールとして基礎的な統計手法を身につける。 4. コンピューター、特に表計算ソフトの基本操作を身につける。			
回数	講義題目	内容	方法
1	看護と情報科学	看護における統計的手法の有用性や学習すべき基礎項目をおさえる。	講義
2	データの形	データの形をはじめ、代表値など統計的記述の基礎を学ぶ。	講義
3	度数分布	単純集計表をもとに集団を分かり易く表す度数分布表を作成する。	講義
4	情報科学演習 1	表計算ソフト EXCEL の基本操作	講義
5	データの表し方	散布度を表す方法について学びグラフを作成する。	講義
6	クロス集計表とオッズ比	2 項目の分類尺度データの関連を表す。	講義
7	散布図と相関係数	2 項目の数量データの関連を表す相関係数 (積率相関係数、順位相関係数)	講義
8	情報科学演習 2	表計算ソフトを用いて統計的記述や関連を表す指標の算出法について演習する。	講義
9	集合と確率	和集合と積集合における加法定理、乗法定理や二項分布について学ぶ。	講義
10	確立分布	母集団と標本集団、正規分布とその他の分布	講義
11	情報科学演習 3	表計算ソフトを用いた統計的推測	講義
12	統計的推測 1	2 群間の割合の差の検定 (クロス集計表の検定)	講義
13	統計的推測 2	2 群間の平均値の差の検定	講義
14	総括	情報科学のまとめ	講義
15	まとめ 終了試験		試験

評価方法：

筆記試験、中間レポート、出席状況、受講態度を総合判定する。

評価基準：

60 点以上で単位修得

テキスト：縣 俊彦著『やさしい保健統計学』 南江堂

参考文献：加納克紀、高橋秀人著『基礎医学統計学』改訂第 6 版 南江堂

科目名：スポーツ科学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 身体活動（実技）を通じて、健康の維持増進と運動処方を学ぶ。			
学習目標： 1. 医療人として働くための体力、基礎体力をスポーツゲームを通じて構築する。 2. 日常生活の中での健康管理と、ライフワークの中でスポーツの果たす役割と効果。 3. 各種スポーツを通じて、そのスポーツの特性と技術を習得する。 4. スポーツゲームを通じて看護師として最も大切な、やさしさ、思いやり、さらに職場で必要な協調性などを学ぶ。			
回数	講義題目	内容	方法
1	理論	健康と体力、生涯スポーツとして続けるために。 生きて働くためになぜスポーツが必要か。	講義
2	実技	体育館 バレーボール バドミントン 卓球など	実技
3	実技		実技
4	実技		実技
5	実技		実技
6	実技		実技
7	実技		実技
	終了試験（1時間）		
評価方法： 1. 出席率と実技の取り組み方。 2. レポート。課題は別途			
評価基準： 60点以上単位修得			

科目名：英語 I		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 医療・看護用語を学ぶとともに、海外文献読解に必要な英語力を身につける。			
学習目標： 文脈に即した単語・熟語の意味の選択、及び英文の構造の把握ができるようになり、辞書を用いれば内容を正確に理解できるようになる。			
回数	講義 題 目	内 容	方 法
1	Unit 1: First Visit ①	初診時の英会話	講義
2	Unit 1: First Visit ②	問診票の記入、診療科・専門医の名称	講義
3	Unit 2: At the Examination Room ①	診察に関わる基本的な質問や応答	講義
4	Unit 2: At the Examination Room ②	読解「ノロウイルスによる感染症」	講義
5	Unit 3: Flu Symptoms ①	インフルエンザの症状・処置法	講義
6	Unit 3: Flu Symptoms ②	読解「タミフル」	講義
7	前半総復習	Units 1～3 の語彙・表現等の復習	講義
8	Unit 4: Pain Problems ①	痛みに関わる英語表現、薬の種類	講義
9	Unit 4: Pain Problems ②	読解「狂牛病」	講義
10	Unit 5: Stomachache ①	胃腸科に関する英語表現、検査用語	講義
11	Unit 5: Stomachache ②	読解「摂食障害」	講義
12	Unit 6: Abdominal Pain ①	腹痛を伴う病気の症状、処置法	講義
13	Unit 6: Abdominal Pain ②	読解「内分泌系ホルモン攪乱物質」	講義
14	後半総復習	Units 4～6 の語彙・表現等の復習	講義
15	まとめ 終了試験	全体の復習・終了試験	試験
評価方法： 試験、平常点			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 西原敏明、西原真弓、Tony Brown（著） 『Medical English Clinic -やさしい医療英語-』2010 年 センゲージラーニング			

科目名：英語Ⅱ		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：2学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 日常及び臨床で活用できる英会話とプレゼンテーションの技能を学ぶ。			
学習目標： 医療現場でよく使われるいいまわし、表現法を覚え、それをもとに状況に応じて英語でコミュニケーションをとれるようになる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	Unit 7: Urinalysis ①	腎機能や肝機能の検査、薬の呼称	講義
2	Unit 7: Urinalysis ②	読解「処方箋なしで店頭購入できる薬」	講義
3	Unit 8: Cholesterol ①	メタボリック症候群、臓器の名称	講義
4	Unit 8: Cholesterol ②	読解「メタボリック症候群」	講義
5	Unit 9: Anemia ①	貧血に関する英語表現、筋肉の名称	講義
6	Unit 9: Anemia ②	読解「バランスのとれた食事」	講義
7	前半総復習	Units 7～9 の語彙・表現等の復習	講義
8	Unit 10: Injury ①	怪我の処置、検査に関する用語、英語表現	講義
9	Unit 10: Injury ②	読解「健康に良いウォーキング」	講義
10	Unit 11: Operation Period ①	入院や手術の段取り、骨の名称	講義
11	Unit 11: Operation Period ②	読解「入院手順」	講義
12	Unit 12: Alcohol Poisoning ①	急性アルコール中毒、医療用語の略称	講義
13	Unit 12: Alcohol Poisoning ②	読解「アルコール中毒」	講義
14	後半総復習	Units 10～12 の語彙・表現等の復習	講義
15	まとめ 終了試験	全体の復習・終了試験	試験
評価方法： 試験、出席、平常点			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： 西原敏明、西原真弓、Tony Brown（著） 『Medical English Clinic やさしい医療英語ー』2010年 センゲージラーニング			

科目名：外国語会話（英語）	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 海外旅行を題材としたテキストを通じて、実用英語を習得すると共に異文化理解を深める。			
学習目標： 海外旅行のさまざまな場面で求められる英会話を学ぶ。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	On an Airplane	飛行機内でのアナウンスや時差などの表現を学ぶ	講義
2	At Immigration and Customs	入国手続きや税関での対応	講義
3	Getting Into a Hote	ホテルまでの交通手段を尋ねる表現	講義
4	Asking for Directions	目的地への行き方を尋ねる	講義
5	At a Bank	外貨への換金方法や トラベラーズチェックについて	講義
6	Placing a Phone Call	海外からの電話のかけ方。 コレクトコールの利用方法	講義
7	Review	復習とプレゼンテーション	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 筆記テスト			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：クラスごとに指示する。			

科目名：外国語会話（ドイツ語）	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： ドイツ語の初歩を学び、ドイツの生活や文化にも眼を向けることで、異文化への理解を深める。			
学習目標： ドイツで生活するさまざまな場面を仮定し、モデル会話に関連させて基本事項や文法、会話表現を学びます。また、各場面に関係する生活文化や歴史について知ることができる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	イントロダクション	ドイツ語とは	講義
2	あいさつ	基本的なあいさつ、発音の規則、アルファベット	講義
3	自己紹介	自己紹介の定型表現、基本動詞、基本構文、数字	講義
4	持ち物（1）	名刺の性・数・格	講義
5	持ち物（2）	複数形、人称代名詞、形容詞	講義
6	身体	身体や体調に関わる表現	講義
7	復習	学習内容の復習 さらにドイツ語をまなぶには	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 試験と出席・授業態度を総合的に評価します。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 谷澤優子ほか『クラッセ！ノイ（Klasse！neu）』（白水社、2018）			

科目名：外国語会話（フランス語）	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： フランス語を通してフランス文化の理解を深める。			
学習目標： 基本的な文法事項をおさえ、フランス語の会話表現を学ぶ。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	フランス語の基礎	言語の特徴・アルファベット	講義
2	あいさつ	さまざまなあいさつ表現	講義
3	数字	数に関する表現	講義
4	自己紹介（1）	国籍・基本動詞①	講義
5	自己紹介（2）	職業・基本動詞②	講義
6	好きなものについて	名詞と冠詞	講義
7	兄弟・姉妹について	否定文	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 小テストや試験の成績、および授業態度を総合的に評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 藤田知子 他著、『トライ！フランス語』、駿河台出版社			

科目名：外国語会話（中国語）	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 中国語を通して中国文化の理解を深める。			
学習目標： 現代中国語（普通話）の発音・文法・会話に関するごく基本的な内容を習得する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	発音編 語法・実践編	中国語の発音（声調・母音・子音）および挨拶に用いる簡単な会話を学ぶ。 中国語の基本的な文法を学び、それを実際に用いて短い会話を行ってみる。	講義
2			講義
3			講義
4			講義
5			講義
6			講義
			講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 試験、出席、平常点によって判定する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 医療系学生のための初級中国語 白帝社 中国語辞書を必携すること（具体的な事柄は初回に指示する）。			

科目名：文学	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 作者の表現を通して感じることにより、人間存在の多面性を自分なりに考察し、読む・聴く・書く・語ることの意味を考えるために学ぶ。			
学習目標： 1. 日本文学の作品に触れることで、古今の人間の思考・心情について理解を深める。 2. 文学作品を通して捉えられたことや思考したことについて、実際に表現してみる。 3. 正しい日本語の知識を身に付ける。 4. 新聞のコラム等を用いて文章読解力や表現力と小論文を作成し、国語の基礎力を養成する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	新聞のコラムを読解する①	1. 新聞のコラムの読解の仕方について ・実際に分析 ・要約文の作成	講義
2	新聞のコラムを読解する②	1. 新聞のコラムの読解の基礎 ・小論文の作成	講義
3	近代・現代の小説について①	1. 作家と作品について① 2. 作品とその鑑賞	講義
4	近代・現代の小説について②	1. 作家と作品について② 2. 作品とその鑑賞	講義
5	近代・現代の小説・エッセイについて	1. 作家と作品について③ 2. 作品とその鑑賞	講義
6	新聞のコラムを読解する③	1. 新聞・雑誌等の文章の分析	講義
7	国語・日本語の基礎知識養成のポイントとまとめ	1. 国語・日本語の知識と常識について	講義
	終了試験（1 時間）	レポート	試験
評価方法： 1. ジャンルによっては、個性豊かな作品を創作し提出していただく場合もある。 （例 詩・短歌・俳句など） 2. テーマや課題についてレポートを書いていただき、これらより総合的に評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト：こちらの用意するプリント使用。 参考文献：必要な資料に関しては適宜指示する。			

科目名：美術		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生活に身近なものの観察及び自分自身の観察。そして美術的感性を培い、それを通して将来に必要な条件を整えること。			
学習目標： 作品を通し、自分を表現できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	美術と医療 西洋美術史	右脳で描け 右脳で刺激すること	講義
	実技 1	グレースケールの作成 200 字レポート提出	実技
2	実技 2	石膏デッサン 正方形 円筒形 200 字レポート提出	実技
3	実技 3	色相環の作成 200 字レポート提出	実技
4	実技 4	第 115 回記念太平洋展覧会鑑賞 200 字レポート提出 写真 1 枚提出	実技
5	実技 5	セザンヌ、マチス、モネ、ピカソ他 有名作家の作品模写 (作品図録講師用意) 200 字レポート提出 模写 1 枚提出	実技
6	実技 6	コラージュ作品制作 200 字レポート提出 作品写真 1 枚提出	実技
7	実技 7	まとめ・提出準備	実技
	終了試験（1 時間）	終了試験（課題の提出） 全体として課題提出が期間内に できない場合は、指定日までに 看護専門学校事務係へ提出のこと。	試験

評価方法：

作品を通しての客観的評価

本来は、各自の個性の違いから、客観的な評価は不可能ではあるが、作品を通してどれだけ自分を表現できているかを見る。

評価基準：

60 点以上で単位修得

テキスト：高階 秀爾 著「カラー版 西洋美術史」 美術出版社

自作のテキスト「新基本色素シリーズ PCCS」

参考文献：絵画を読む」若桑みどり

「フレスコ画のルネサンス」宮下孝晴

「芸術家列伝」ジョルジョ・ヴァザーリ

専 門 基 礎 分 野

人間・保健・医療・福祉にかかわる基礎知識
や、医療倫理・国際協力の必要性を学び、看護
実践者としての幅広い視野を養う。

科目名：人体の構造と機能 I 解剖学		履修単位 2 単位	講義時間（回数） 60 時間（30 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人体の正常な構造を理解する。			
学習目標： 人体の構造について、各構造の名称を挙げ、説明することができる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	解剖学序論	1. 人体の構造と機能について 2. 構造から見た人体	講義
2	栄養の消化と吸収	1. 消化器系の構造（口、咽頭、食道） 2. 消化器系の構造（腹部消化管） 3. 膵臓、肝臓、胆嚢、腹膜の構造	講義
3			
4			
5			
6	呼吸と血液の循環	1. 呼吸器の構造 2. 循環器系の構造（体循環と肺循環、門脈系、リンパ系） 3. 末梢循環器系の構造	講義
7			
8			
9			
10			
11	尿の生成	1. 腎臓の構造 2. 排尿路の構造	講義
12			
	中間試験（1 時間）		試験
13	生殖	1. 男性生殖器の構造 2. 女性生殖器の構造	講義
14	体の支持と運動	1. 骨格とは 2. 骨の連結 3. 骨格筋 4. 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋	講義
15			
16			
17			
18	情報の受容と処理	1. 神経系の構造（自律神経、末梢神経） 2. 脊髄と脳の構造 3. 内分泌系の構造 （視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体）	講義
19			
20			
21			
22			

回数	講義題目	内容	方法
23	外部の環境からの防御	1. 眼の構造 2. 耳の構造 3. 鼻の構造 4. 皮膚の構造	講義
24			
25	解剖学実習	1. 解剖見学導入 2. 解剖見学1回目 3. 解剖見学振り返り 4. 解剖見学2回目	見学実習
26			
27			
28			
29			
30	終了試験（1時間）		試験
<p>評価方法：</p> <p>12回目終了後に中間試験を、29回目終了後に終了試験を実施する。 出席および授業態度、実習態度等を総合的に評価する。</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト：</p> <p>林正健二著 『解剖生理学（ナーシング・グラフィカー 人体の構造と機能－）』 メディカ出版</p>			
<p>留意事項：</p> <p>人体の構造と機能Ⅰを単位習得する上で、解剖見学は必須の学習となる。解剖見学を行うことにより、人体の構造の理解が深化し、命の尊厳について考える機会となる。学習の機会を与えてくださったご献体者およびご遺族に、感謝と畏敬の念をもち、見学実習をすること。また、参加時は、理解を深められるように学習をして臨むこと。</p>			

科目名：人体の構造と機能Ⅱ 生理学		履修単位 2単位	講義時間（回数） 60時間（30回）
履修学年：1学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人体の各臓器の機能を理解し、それらが統合されて体内環境の恒常性が保たれるしくみを理解する。			
学習目標： 3年間の看護課程を学ぶ基礎として、また将来看護の仕事をする上で、解剖学、生理学、生化学は、決定的に重要な核となる科目であり、本校では「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ」として学ぶ。特に人体生理学の知識は、呼吸、血液循環、意識状態、体温など患者の状態を把握してその変化に対処する上で臨床上も不可欠である。日常の学習の積み重ねによって、実力として身に付けることを目標とする。			
回数	講義題目	内容	方法
1	人体の素材としての細胞・組織	1. 細胞の構造 2. 細胞膜の構造と機能 3. 体液とホメオスタシス	講義
2	呼吸と血液の循環	1. 内呼吸と外呼吸、呼吸運動	講義
3		2. 呼吸気量、ガス交換	
4		3. 肺の循環と血流、呼吸運動の調節 4. 呼吸器系の病態生理 (換気障害、拡散障害など)	
5	心臓と血液の循環	1. 循環器系の構成 (体循環と肺循環、門脈系、リンパ系)	講義
6		2. 心臓の拍出機能	
7		3. 血液の循環とその調節 (血圧、血流量、微小循環)	
8		4. リンパ管	
9		5. 血液の組成と機能	
10		6. 循環器系の病態生理 (浮腫、チアノーゼ、起立性低血圧、うっ血性、心不全、急性心不全、高血圧など)	
11	尿の生成と体液の調節	1. 腎臓の機能	講義
12		2. 尿生成のメカニズム	
13		3. クリアランスと糸球体濾過量	
14		4. 腎臓から分泌される生理活性物質 5. 尿の貯蔵と排尿 6. 体液の調節 (水の出納、酸塩基平衡、脱水、電解質異常など)	
	中間試験（1時間）		試験

回数	講義題目	内容	方法
15	栄養の消化と吸収	1. 口、咽頭、食道の機能 2. 腹部消化管の機能 (胃、小腸における消化、 栄養素の消化吸収大腸の機能) 3. 膵臓、肝臓、胆嚢、腹膜の機能 4. 消化器系の病態生理 (栄養障害、嘔気、嘔吐、下痢、 イレウス、黄疸など)	講義
16			
17			
18	体温とその調節	1. 熱の出納 2. 体温の分布と測定 3. 体温調節 4. 発熱 5. 高体温と低体温	講義
19	内臓機能の調節	1. 内分泌系の機能 (ホルモンの種類と作用機序など) 2. 内分泌系の病態生理 (糖代謝、カルシウム代謝、 ストレスとホルモン、乳汁分泌、 高血圧をきたすホルモンなど) 3. 生殖機能	講義
20			
21			
22			
23			
24	情報の受容と処理	1. 自律神経の機能 2. 脊髄の機能 (脊髄反射、屈曲反射、 内臓反射、脊髄神経の機能) 3. 脳の機能 (脳幹、小脳、間脳、 大脳、脳室と髄液、脳脊髄液の 循環、脳神経の機能) 4. 脳の高次機能 (脳波、睡眠、記憶など) 5. 筋の収縮 (骨格筋、不随意筋) 6. 脳神経の病態生理 (脳浮腫、けいれんなど)	講義
25			
26			
27			
28	感覚器系	1. 感覚機能と上行伝導路 (種類、性質、受容器、伝道路) 2. 視覚 (視野と視力、色覚、 遠近調節、明暗順応など) 3. 聴覚と平衡覚 4. 味覚と嗅覚 5. 皮膚の機能	講義
29			
30	終了試験		試験

評価方法： 14 回目終了後に中間試験を、29 回目終了後に終了試験を実施する。
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 系統看護学講座 人体の構造と機能[1]「解剖生理学」 医学書院 その他、随時プリントを配布する。
留意事項： 授業をよく聞いてノートをしっかり取るようにして欲しい。わからないことはそのまま放置せずに質問に来ること。

科目名：人体の構造と機能Ⅲ 生化学		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 生体を構成する物質（生体分子）とその化学反応である代謝について学び、生命を担うエネルギー獲得のしくみを理解する。			
学習目標： 1. 身体をつくる生体分子の構造・性質・働き・代謝を理解する。 2. 代謝によるエネルギー獲得のしくみを理解する。 3. 代謝の異常から疾患にいたるしくみを理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
プレ学習	生化学の学び方	生化学の基礎：分子－構造式を理解する－親水性／疎水性	補習講義
プレ学習			
1	生体高分子：構造・性質・働き	1. タンパク質 2. 糖質 3. 核酸	講義
2			
3	生体触媒	1. 酵素 2. ビタミンと補酵素	講義
4			
5	糖質の代謝	1. 糖質の消化と吸収 2. 解糖系、クエン酸回路、酸化リン酸化 3. 糖新生 4. ペントースリン酸経路 5. グリコーゲン代謝 6. ヘキソース代謝	講義
6			
7			
8	脂質の代謝	1. 脂肪の消化と吸収 2. リポタンパク質：脂質の血中輸送 3. 脂肪酸のβ酸化 4. ケトン体代謝 5. 脂肪酸・脂肪の生合成 6. コレステロールの生合成と利用 7. エイコサノイドの生合成と作用	講義
9			
10			
11			
12	アミノ酸の代謝 ポルフィリンの代謝	1. タンパク質の消化と吸収 2. アミノ酸の異化代謝 3. 尿素回路 4. 含窒素分子の生合成 5. 非必須アミノ酸の生合成 6. ポルフィリンの代謝	講義
13			

回数	講義題目	内容	方法
14	代謝の異常	糖尿病	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法： 講義内容の理解度を筆記テストにより評価する。</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト： 系統看護学講座（専門基礎分野）人体の構造と機能②「生化学」第14版 医学書院</p>			
<p>留意事項：</p> <p>ヒトの身体の構造と機能の理解を目指し、基礎医学の一翼を担う生化学の基礎を学ぶ。理解することが必須で、暗記では対応できない。易しい科目ではないので、心して臨むこと。</p> <p>この科目では、まず、身体をつくる主要な生体分子の構造と機能を学び、次に、それら生体分子の細胞内での代謝（化学変化）を学ぶ。生体は、食事で摂取した栄養素を消化・吸収し、代謝によりエネルギーを得て、成長し、恒常性を維持しつつ命を繋ぐ。</p> <p>生化学の学びは建築の工程に似る。まず、「プレ生化学」の2コマで高校化学の範囲から生化学の基礎となる事柄を学び、これが3コマ目以降の足場となる。その後も、前の講義内容を足場として、知識を積み上げていくので、この科目では予習・復習が欠かせない。勤勉に励むこと。</p> <p>講義のファイル（PowerPoint）はwebclassにupするので、病欠などで受講できなかった内容は、次の講義までに自身で補い、理解しておかなければならない。身体をつくる多数の分子、システムを自ら関連付けて整理し、生体分子が担う生命のstoryを頭の中に構築すること。</p> <p>理解を伴わない暗記は、応用できないので役に立たない。自身のレベルアップに、限られた時間を使っているかを常に意識しつつ学ぶこと。</p>			

科目名：人体の構造と機能IV 栄養学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間にとっての栄養の意義を理解し、食事療法の基本について学ぶ。			
学習目標： 1. 栄養素の重要性や代謝について理解する。 2. 健康体作りのための食生活を理解する。 3. 臨床栄養について学び、患者への栄養管理や食事指導を理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	食事と看護 栄養の基礎知識	1. 栄養とは 2. 栄養学の歴史 3. 看護と栄養 4. 糖質 5. 脂質	講義
2	栄養の基礎知識	1. タンパク質 2. ビタミン 3. ミネラル 4. 食物繊維等	講義
3	栄養の基礎知識	1. 食物の消化と栄養素の吸収 2. エネルギー代謝	講義
4	疾病別食事療法	1. 病院食 2. 経腸栄養 3. 循環器疾患	講義
5	疾病別食事療法	1. 消化器疾患 2. 栄養・代謝疾患 3. 糖尿病交換表	講義
6	疾病別食事療法	1. 腎臓疾患 2. 血液疾患 3. 咀嚼・嚥下障害 4. 術前・術後 5. がん	講義
7	ライフステージと栄養 疾患別食事療法	1. 乳児期 2. 成人期 3. 妊娠期 4. 高齢期 5. 疾患と病院食	講義
	終了試験（1時間）		試験

評価方法： 筆記試験
評価基準： 60点以上で単位修得
テキスト： 「糖尿病治療のための食品交換法」文光堂 系統看護学講座 人体の構造と機能[3]「栄養学」医学書院

科目名：病気の発生とメカニズム (病理学)		履修単位 1 単位	講義時間 (回数) 30 時間 (15 回)
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 疾病の原因・経過・特に疾病による形態的、機能的変化について理解する。			
学習目標： 1. 病気はどのように発生するのか、その原因は何か、を知る。 2. 代表的疾患・症状の発生とそのメカニズムを理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	I. 病理学概要	1. 病理学とは 2. 病気とは 3. 老化とは 4. 死と病理学 5. まとめ	講義
2	II. 細胞傷害・再生	1. 適応と傷害 2. 変性と細胞死 3. 酸化ストレス 4. 生体内色素 5. 鉄代謝と赤血球 6. 萎縮・肥大・化生 7. 細胞・組織の形成 8. 症例をとおして学ぶ 9. まとめ	講義
3	III. 炎症	1. 炎症 2. 炎症巣の構造 3. 炎症を制御する液性因子 4. 急性炎症 5. 急性炎症の種々相	講義
4		6. 慢性炎症 7. 慢性炎症の形態像 8. 症例をとおして学ぶ 9. まとめ	講義
5	IV. 免疫 －免疫系・アレルギー・移植－	1. 免疫の概要 2. 免疫とアレルギー	講義
6		3. 自己免疫疾患 4. 移植免疫 5. 免疫不全 6. 症例をとおして学ぶ 7. まとめ	講義
7	V. 循環障害	1. 浮腫 2. 充血とうっ血 3. 出血 4. 血栓・血栓症	講義

回数	講義題目	内容	方法
8		5. 塞栓と梗塞 6. ショック 7. 症例を通して学ぶ 8. まとめ	講義
9	VI. 先天異常・遺伝性疾患	1. 先天異常とは 2. 遺伝 3. 先天異常 4. 症例を通して学ぶ 5. まとめ	講義
10	VII. 感染症	1. 感染症とは 2. 病原体と主な感染症	講義
11		3. 感染症の治療 4. 感染症の原状 5. 感染症予防と感染制御対策 6. 症例を通して学ぶ 7. まとめ	講義
12	VIII. 代謝異常	1. 脂質代謝異常 2. 糖質代謝異常 3. たんぱく質代謝異常 4. 核酸代謝異常 5. 生活習慣病	講義
13	IX. 腫瘍	1. 腫瘍とは 2. 腫瘍の名称 3. 腫瘍の形態的特徴 4. 腫瘍の分類 5. 腫瘍の種類	講義
14		6. 腫瘍の増殖 7. 腫瘍により引き起こされる病態 8. 悪性度と病期など 9. 腫瘍の原因 10. 腫瘍発生メカニズム 11. 腫瘍と臨床病理学 12. 症例を通して学ぶ 13. まとめ	講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： カラーで学べる病理学 ノーヴェルヒロカワ			

科目名：微生物と病気 (微生物学)	履修単位 1単位	講義時間(回数) 30時間(15回)	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
<p>学習目的：</p> <p>微生物は、自然界の水や土壌またヒトを含む多くの動植物の身体にさえ生息している。しかし病原微生物となりうるのはその一部に過ぎない。ところが、病原微生物は常に姿を変えて、新たな感染症として医療現場に出現してくる。変化を続ける感染症と闘うために必要な知識と病原微生物とは何か学ぶ。</p>			
<p>学習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類を識別する。 2. 病原微生物の名前から感染症名と微生物の特徴を説明する。 3. 感染症のタイプ(消化管感染症、呼吸器感染症など)ごとに病原微生物を分類してその特徴を説明する。 4. 様々な感染経路や感染様式の違いや特徴を説明する。 5. 感染予防と病院内での感染制御に必要な基礎技術を説明する。 			
回数	講義題目	内容	方法
1	微生物と微生物学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類 2. 微生物と人間 3. 微生物学の対象と目的 4. 微生物学の歩み 	講義
2	感染と感染症	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物感染の機構 2. 感染の成り立ちから発症・治癒まで 	講義
3	細菌の性質	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌とはどのような生物なのか 2. 細菌感染の機構 	講義
4	真菌・原虫の性質	<ol style="list-style-type: none"> 1. 真菌(酵母・糸状菌)とはどのような生物なのか 2. 原虫(原生動物)とはどのような生物なのか 3. 真菌・原虫感染の機構 	講義
5	ウイルスの性質	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスとはどのような生物なのか 2. ウイルス感染の機構 	講義
6	人獣共通・節足動物媒介性病原体	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と動物が感染する病気とは 2. 吸血性昆虫(節足動物)が運ぶ病原体 	講義
7	免疫不全の種類とそれに関わる病原体・感染症	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己免疫のしくみ 2. 獲得免疫のしくみ 3. 粘膜免疫のしくみ 4. 感染源・感染経路からみた感染症 	講義

回数	講義題目	内容	方法
8	敗血症の原因となる病原体	1. 局所感染から全身感染 2. 病原体が血液中に出現する感染症	講義
9	呼吸器感染症の病原体	1. 飛沫・飛沫核感染により発症する感染症	講義
10	中枢神経系感染症の病原体 ・消化器感染症の病原体	1. 脳脊髄の感染症 2. 経口感染により発生する感染症	講義
11	接触感染・創傷感染する病原体	1. 尿路感染 2. 性行為感染症 3. 皮膚組織の感染症 4. 嫌気性菌感染症	講義
12	バイオハザードの防止	1. バイオハザードとバイオセーフティ 2. 滅菌・消毒の意義と定義 3. 滅菌法 4. 消毒と消毒薬	講義
13	日和見感染症・院内感染症	1. 易感染性宿主と日和見感染症	講義
14	病院における感染症患者への対処 と感染予防策のガイドライン		講義
	まとめ・終了試験		試験

評価方法：

学習目的に示した内容に対して、終了試験により評価する。

評価基準：

60点以上で単位修得

テキスト：

系統看護学講座「微生物学」医学書院

疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学、南嶋洋一、吉田真一

参考文献：

「細菌の逆襲」吉川昌之介（中公新書；1234）

「現代の感染症」相川正道・永倉貢一（岩波新書；513）

「ウイルス vs 人体」山本三毅夫・山本直樹（講談社現代新書；1370）

「感染症の時代」井上 栄（講談社現代新書；1523）

「エイズの生命科学」生田 哲（講談社現代新書；1290）

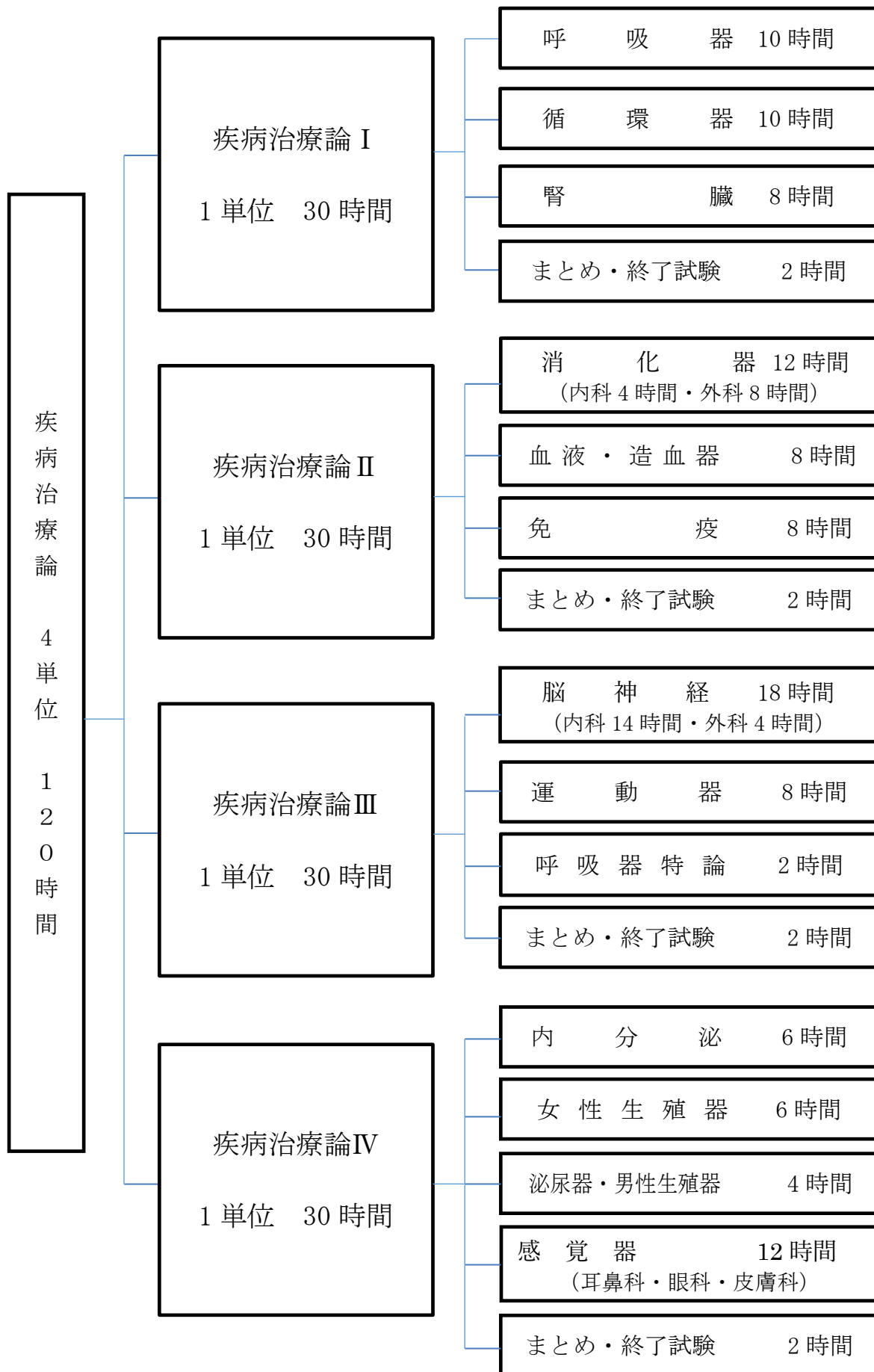
科目名：薬理作用と健康 薬理学		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 薬物の特徴、薬理作用について理解し、医薬品の管理、取り扱いについて学ぶ。			
学習目標： 1. 薬理学を学ぶ目的を知り、薬物の生体に及ぼす影響について理解する。 2. 薬物を安全に取り扱う基本について理解する。 3. 各系統別に用いられる治療薬の基本的薬理作用について理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	薬理学とは		講義
2	薬の分類と法令		講義
3	薬の生体内の作用と薬効	1. 与薬経路と吸収 2. 分布・代謝・排泄	講義
4	薬の副作用、調剤と処方箋		講義
5	各系統別の薬物の特徴・作用機序・副作用	1. 中枢神経系作用薬物 2. 末梢神経系作用薬物 3. 循環・血液系作用薬物 4. 呼吸器系作用薬物 5. 消化器系作用薬物 6. 泌尿・生殖器系作用薬物 7. 皮膚作用薬物 8. ホルモン 9. ビタミン 10. 化学療法の基礎知識 11. 消毒薬と防腐薬 12. 生物学的製剤	講義
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14	薬物中毒とその処置		講義
15	まとめ・終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・： 系統看護学講座/疾病のなりたちと回復の促進[3]「薬理学」 医学書院			

科目名：疾病診断総論		履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）
履修学年：1学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な医学診断について学ぶ。			
学習目標： 1. 診療における臨床検査の役割が理解できる。 2. 臨床検査に関する基本的知識が理解できる。 3. 診療における画像診断の役割が理解できる。 4. 画像診断に関する基本的知識が理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	臨床検査	1. 診療における臨床検査の役割 2. 臨床検査各論 1) 尿検査 2) 血液検査 3) 血液化学検査 4) 免疫・血清検査ホルモン検査 5) 負荷検査 6) ホルモン検査 7) 生理機能検査 (心電図・呼吸機能・脳波)	講義
2			
3			
4			
5	画像診断 画像診断的介入的治療	1. 診療における画像診断の役割 2. X線診断 3. 血管造影 4. MRI 5. 超音波診断 6. 核医学診断	講義
6			
7			
	終了試験		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： オールカラーやさしくわかる看護師のための検査値パーフェクト辞典 ナツメ社 系統看護学講座 「臨床放射線医学」 医学書院			
留意事項：			

科目名：疾病治療総論	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（14回）	
履修学年：1学年	開講時期：後期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 放射線治療に関する基本的知識が理解できる。 2. 麻酔に関する基本的知識が理解できる。 3. 疼痛コントロールの基本的知識が理解できる。 4. 手術侵襲と生体の反応に関する基本的知識が理解できる。 5. 総合リハビリテーションの考え方を理解し、基本的な知識と技術を学ぶ。			
回数	講義題目	内容	方法
1	放射線治療	1. 放射線治療総論	講義
2		2. 放射線治療の方法	講義
3	手術と麻酔法 手術療法と生体侵襲	1. 手術法	講義
4		2. 麻酔法とは 3. 麻酔の種類 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔	講義
5		4. 体液管理と輸血療法 5. 疼痛のコントロール 6. 手術による全身への侵襲と回復過程 7. 手術侵襲に対する生体反応	講義
6		1) ホメオスタシス 2) バイタルサインズ 8. 手術侵襲に対する生体反応の推移	講義
7		9. サイトカインによる生体反応	講義
8	リハビリテーション	1. リハビリテーションの歴史と基本的理念	講義
9		2. 疾病・身体的障害と心理的適応	講義
10		3. リハビリテーション看護と看護師の役割	講義
11		4. リハビリテーションにおける評価	講義
12		5. リハビリテーション療法の実際 6. 障害別リハビリテーションの実際	講義
13		7. 補装具と設備	講義
14		8. リハビリテーションと社会支援	講義
	まとめ・終了試験		試験

評価方法： 筆記試験
評価基準： 60点以上で単位修得
テキスト・参考文献： 系統看護学講座 「臨床放射線医学」 医学書院 系統看護学講座 「臨床外科看護総論」 医学書院 系統看護学講座 「臨床外科看護各論」 医学書院 ナーシングセレクション No11 リハビリテーション看護 学研メディカル 秀潤社
留意事項：

疾病治療論の構造



科目名：疾病治療論 I		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 呼吸器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 循環器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 3. 腎臓系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～5	呼吸器	1. 呼吸器の構造と機能 1) 肺 2) 気管・気管支・肺胞 3) 縦隔・胸膜・横隔膜 2. 肺炎 1) 肺炎の診断と検査 (1) 肺炎の病態 ①肺炎の原因と分類 ②肺炎の症状 ③肺炎の診断 ・胸部 X 線 ・血液検査（白血球・CRP・血沈・血液ガス） 2) 肺炎の治療肺炎およびその治療により起こりやすい合併症	講義
		3. 気管支喘息 1) 気管支喘息の病態 (1) 気管支喘息の病型 (2) 気管支喘息の症状 (3) 気管支喘息の診断 ①呼吸機能検査（ピークフロー） ②血液検査（血清総 IgE） ③喀痰検査（好中球）・皮膚テスト 2) 気管支喘息の治療 (1) 慢性安定期の治療 (2) 急性喘息発作時の治療 3) 気管支喘息および治療により起こりやすい合併症	講義
		4. 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 1) 慢性閉塞性肺疾患の診断と検査 (1) 慢性閉塞性肺疾患の定義 (2) 慢性閉塞性肺疾患の原因と病態 (3) 慢性閉塞性肺疾患の症状 (4) 慢性閉塞性肺疾患の診断 ①肺 CT ②呼吸機能検査（ピークフロー） 2) 慢性閉塞性肺疾患の治療と管 理 (1) 薬物療法 (2) リハビリテーション (3) 生活習慣の改善 3) 慢性閉塞性肺疾患およびその治療により起こりやすい合併症	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
1～5	呼吸器	5. 気胸 1) 気胸の診断と検査 (1) 気胸の原因の分類 (2) 気胸の症状 (3) 気胸の診断 ①胸部 X-P ②胸部 CT 2) 気胸の治療 (1) 胸腔ドレナージ (2) 手術療法 3) 気胸およびその治療に起こりやすい合併症	講義
		6. 肺がん 1) 肺がんの診断と検査 (1) 肺がんの分類 (2) 肺がんの症状 (3) 肺がんの病期 (4) 肺がんの検査 ①喀痰細胞診 ②腫瘍生検 ③腫瘍マーカー (CEA/CA19-9/NSE ProGRP/CYFRA21-1) ④胸部 X-P ⑤胸部 CT ⑥胸部 MRI ⑦FDG-PET 2) 肺がんの治療と合併症 (1) 局所療法とその合併症 ①手術療法 ②放射線療法 (2) 先進療法とその合併症 ①化学療法 ②分子標的治療 ③免疫療法	講義
6～10	循環器	1. 循環器の構造と機能 1) 心臓の構造 2) 心臓の電気活動 3) 心臓のポンプ機能 4) 血管の構造 5) 循環の調整 2. 心不全 1) 心不全の診断と検査 (1) 心不全の原因と病態 (心不全が生じるメカニズムを含む) ①心不全の症状と臨床所見 ②心不全の診断 ・胸部 X-P (CTR) ・心臓超音波検査 ・血液ガス分析 ・血中 ANP 値、BNP 値 ・肺動脈楔入圧 ・心拍出量 2) 心不全の治療 (1) 薬物療法 (2) 心室再同期療法 (3) I A B P、P C P S	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
6～10	循環器	<p>3. 不整脈</p> <p>1) 不整脈の診断と検査</p> <p>(1) 不整脈の病態と心電図所見</p> <p>①期外収縮</p> <p>②発作性頻脈</p> <p>③心房細動</p> <p>④心房粗動</p> <p>⑤洞房ブロック</p> <p>⑥房室ブロック</p> <p>⑦心室内電動障害</p> <p>⑧WPW 症候群</p> <p>⑨洞機能不全症候群</p> <p>2) 不整脈の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 電気的除細動</p> <p>(3) カテーテルアブレーション</p>	講義
		<p>4. 狭心症</p> <p>1) 狭心症の診断と検査</p> <p>(1) 狭心症の概念と検査</p> <p>①狭心症の分類</p> <p>②狭心症の症状</p> <p>③狭心症の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準 12 誘導心電図 ・運動負荷心電図 ・心筋血流シンチ ・ホルダー心電図 ・心エコー ・心臓カテーテル <p>2) 狭心症の治療</p> <p>(1) 冠危険因子への対応 (生活習慣の改善)</p> <p>(2) 薬物療法</p> <p>(3) 経皮的冠状動脈インターベンションと合併症</p> <p>3) 狭心症とその治療により起こりやすい合併症</p>	講義
		<p>5. 心筋梗塞</p> <p>1) 心筋梗塞の診断と検査</p> <p>(1) 心筋梗塞の概念と検査</p> <p>①心筋梗塞の分類</p> <p>②心筋梗塞の症状</p> <p>③心筋梗塞の病態生理</p> <p>④心筋梗塞の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準 12 誘導心電図 ・逸脱酵素およびタンパク質 ・トロポニン T 検査 ・核医学 ・心エコー ・カテーテル検査と冠状動脈造影検査 <p>2) 心筋梗塞の合併症</p> <p>3) 心筋梗塞の治療</p> <p>(1) 初期治療</p> <p>(2) 再灌流療法 (IVT、PTCR)</p> <p>(3) 冠状動脈バイパス術と合併症</p> <p>(4) 合併症の治療</p> <p>(5) リハビリテーション</p>	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
11～14	腎臓	1. 腎臓の構造と機能 2. 高血圧 1) 高血圧の診断と検査 (1) 高血圧症の病態 ①高血圧症の基準 ②高血圧症の影響 ③高血圧症の分類 (2) 高血圧症の診断 ①腹部 CT ②血糖検査 ③血清脂質値 2) 高血圧の治療 (1) 生活習慣の改善 (2) 薬物療法	講義
		3. 急性腎不全 1) 急性腎不全の診断と検査 (1) 急性腎不全の病理 ①診断分類と病期 ②急性腎不全の症状 ③急性腎不全の診断 ・血液検査 2) 急性腎不全の治療 (1) 食事療法 (2) 薬物療法 (3) 透析療法 3) 急性腎不全とその治療に伴う合併症	講義
		4. 慢性腎不全 1) 慢性腎不全の診断と検査 (1) 慢性腎不全の病態 ①診断分類と病期 (2) 慢性腎不全の症状 (3) 慢性腎不全の診断 ①血液検査 2) 慢性腎不全の治療 (1) 食事療法 (2) 薬物療法 (3) 透析療法 (4) 腎移植 3) 慢性腎不全とその治療に伴う合併症	講義
		5. ネフローゼ症候群 1) ネフローゼ症候群の診断と検査 (1) ネフローゼ症候群の診断分類と原因 (2) ネフローゼ症候群の症状 (3) ネフローゼ症候群の診断 ①血液検査 ②尿検査 ③腎生検 2) ネフローゼ症候群の治療 (1) 食事療法 (2) 安静療法 (3) 薬物療法 3) ネフローゼ症候群とその治療に伴う合併症	講義
		終了試験 (1 時間)	

評価方法： 筆記試験
評価基準： 60点以上で単位修得
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

科目名：疾病治療論Ⅱ		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：後期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 消化器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 血液・造血器の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 3. 免疫系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～2	消化器 (内科)	1. 消化器の構造と機能 *疾患ごとに、その臓器の構造と機能も含めて説明を行う。 2. 胃・十二指腸潰瘍 1) 胃・十二指腸潰瘍の構造と機能 2) 胃・十二指腸潰瘍の診断と検査 (1) 胃・十二指腸潰瘍の病態と発生機序 (2) 胃・十二指腸潰瘍の症状 (3) 胃・十二指腸潰瘍の診断 ・X線検査 ・内視鏡検査 3) 胃・十二指腸潰瘍の治療 (1) ヘリコバクターピロリ感染と除菌 (2) 薬物療法 (3) 手術療法 4) 胃・十二指腸潰瘍の治療に伴う合併症と治療	講義
		3. 潰瘍性大腸炎・クローン病 1) 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断と検査 (1) 潰瘍性大腸炎・クローン病の病態 (2) 潰瘍性大腸炎・クローン病の鑑別点 (3) 潰瘍性大腸炎・クローン病の症状 (4) 潰瘍性大腸炎・クローン病の診断 ・血液検査・内視鏡検査 ・注腸検査 2) 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療 (1) 活動期の治療 (2) 緩解期の治療 3) 潰瘍性大腸炎・クローン病とその治療に伴う合併症と治療	講義
		4. 慢性肝炎・肝硬変 1) 肝臓の構造と機能 2) 慢性肝炎・肝硬変の診断と検査 (1) 慢性肝炎・肝硬変の病態・種類・分類 (2) 慢性肝炎・肝硬変の症状 (3) 慢性肝炎・肝硬変の診断 ・ICG検査・超音波検査 ・肝生検	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
1～2	消化器 (内科)	3) 慢性肝炎・肝硬変の治療 ・薬物療法 ・食事療法 4) 慢性肝炎・肝硬変および治療により起こりやすい合併症と治療 5) 門脈圧亢進の診断と検査 (1) 門脈圧亢進の病態・種類・分類 (2) 門脈圧亢進の症状 (3) 門脈圧亢進の診断 ・内視鏡検査 ・血液検査 6) 門脈圧亢進の治療 ・内視鏡的静脈瘤結紮術、内視鏡的硬化療法 ・食事療法 ・腹水のコントロール 7) 門脈圧亢進およびその治療により起こりやすい合併症と治療 8) 肝性脳症の診断と検査 (1) 肝性脳症の病態・種類・分類 (2) 肝性脳症の症状 (3) 肝性脳症の診断 ・血中アンモニア 9) 肝性脳症の治療 ・アミノ酸製剤の投与 ・非吸収性抗生物質の投与 10) 肝性脳症およびその治療により起こりやすい合併症と治療	講義
3～6	消化器 (外科)	1. 胃癌 1) 胃の構造と機能 2) 胃癌の診断と検査 (1) 胃癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 胃癌の症状 (3) 胃癌の診断 ・X線造影検査 ・内視鏡検査 ・CEA、CA19-9 3) 胃癌の治療 ・胃切除の切除範囲と再建方法 4) 胃切除後に起こりやすい合併症とその治療 2. 食道癌 1) 食道の構造と機能 2) 食道癌の診断と検査 (1) 食道癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 食道癌の症状 (3) 食道癌の診断 ・X線造影検査 ・内視鏡検査 ・色素内視鏡検査 ・生検 3) 食道癌の治療 ・癌の進行度に応じた治療法 4) 食道切除後に起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
3～6	消化器 (外科)	3. イレウス 1) 腸の構造と機能 2) イレウスの診断と検査 (1) イレウスの病態・種類・分類 (2) イレウスの症状 (3) イレウスの診断 ・腹部単純 X 線検査 ・超音波検査 3) イレウスの治療 (1) 保存療法 (イレウス管) (2) 手術療法 4) イレウスの治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		4. 大腸癌 1) 大腸の構造と機能 2) 大腸癌の診断と検査 (1) 大腸癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 大腸癌の症状 (3) 大腸癌の診断 ・便潜血検査 ・X 線造影検査 ・内視鏡検査 ・腫瘍マーカー 3) 大腸癌の治療 ・切除範囲と再建方法 4) 大腸切除後に起こりやすい合併症とその治療	
		5. 肝臓癌 1) 肝臓癌の診断と検査 (1) 肝細胞癌の病態、分類 (2) 肝細胞癌の症状 2) 肝細胞癌の診断 ・超音波検査 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・血管造影検査 ・血液検査 3) 肝細胞癌の治療 ・肝切除術 ・肝動脈塞栓術 ・経皮的エタノール注入療法 4) 肝細胞癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 胆石症・胆嚢炎 1) 胆嚢・胆管の構造と機能 2) 胆石症・胆嚢炎の診断と検査 (1) 胆石症・胆嚢炎の病態 ・原因 ・発生機序 (2) 胆石症・胆嚢炎の症状 (3) 胆石症・胆嚢炎の診断 ・血液検査 ・X 線検査 ・超音波検査 ・CT 検査 3) 胆石症・胆嚢炎の治療 ・PTCD (PTGBD) ・胆嚢切除術 (開腹・腹腔鏡手術) 4) 胆石症・胆嚢炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
3～6	消化器 (外科)	7. 胆嚢・胆管癌 1) 胆嚢・胆管癌の診断と検査 (1) 胆嚢・胆管癌の病態 ・種類 ・発生部位 ・分類 (2) 胆嚢・胆管癌の症状 (3) 胆嚢・胆管癌の診断 2) 胆嚢・胆管癌の治療 ・切除範囲と再建法 3) 胆嚢・胆管切除術後に起こりやすい合併症とその治療	講義
		8. 急性膵炎 1) 膵臓の構造と機能 2) 急性膵炎の診断と検査 (1) 急性膵炎の病態 ・原因 ・発生機序 (2) 急性膵炎の症状 (3) 急性膵炎の診断 ・血液、尿検査 ・X線検査 ・超音波検査 ・CT検査 3) 急性膵炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		9. 膵臓癌 1) 膵臓癌の病態 2) 膵臓癌の症状 3) 膵臓癌の診断 ・超音波検査 ・CT検査 ・MRI検査 ・腫瘍マーカー ・内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) 4) 膵臓癌の治療と予後	講義
7～10	血液・ 造血器	1. 血液の産生と血球の動き 2. 貧血 1) 貧血の診断と検査 (1) 貧血の病態、種類 (2) 貧血の症状 (3) 貧血の診断 ・血液検査 2) 貧血の治療 ・貧血の病態に応じた治療法 3) 貧血の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		3. 白血病 (急性、慢性、成人 T 細胞白血病を含む) 1) 白血病の診断と検査 (1) 白血病の病態、種類 (2) 白血病の症状 (3) 白血病の診断 ・血液検査 ・骨髄穿刺 2) 白血病の治療 ・化学療法 ・骨髄移植 3) 白血病の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
7～10	血液・造血器	<p>4. 骨髄異形成症候群</p> <p>1) 骨髄異形成症候群の診断と検査</p> <p>(1) 骨髄異形成症候群の病態、種類</p> <p>(2) 骨髄異形成症候群の症状</p> <p>(3) 骨髄異形成症候群の診断</p> <p>・血液検査 ・骨髄穿刺</p> <p>2) 骨髄異形成症候群の治療</p> <p>3) 骨髄異形成症候群の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
11～14	免疫	<p>1. 免疫系の構造と機能</p> <p>1) 免疫とは</p> <p>2) 免疫系の構造と機能</p> <p>2. I・II・III・IV型アレルギー反応とメカニズム</p> <p>1) I型アレルギー反応とメカニズム</p> <p>2) II型アレルギー反応とメカニズム</p> <p>3) III型アレルギー反応とメカニズム</p> <p>4) IV型アレルギー反応とメカニズム</p>	講義
		<p>3. 全身性エリテマトーデス</p> <p>1) 全身性エリテマトーデスの診断と検査</p> <p>(1) 全身性エリテマトーデスの病態</p> <p>(2) 全身性エリテマトーデスの症状</p> <p>(全身、呼吸、腎、皮膚、粘膜、精神症状)</p> <p>(3) 全身性エリテマトーデスの診断</p> <p>・血液検査 ・尿検査 ・免疫学的検査</p> <p>2) 全身性エリテマトーデスの治療</p> <p>(全身性エリテマトーデスの病態に応じた治療法)</p> <p>3) 全身性エリテマトーデスの治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>4. 関節リウマチ</p> <p>1) 関節リウマチの診断と検査</p> <p>(1) 関節リウマチの病態</p> <p>(2) 関節リウマチの症状</p> <p>・関節症状と全身症状</p> <p>(3) 関節リウマチの診断基準</p> <p>2) 関節リウマチの治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>・抗リウマチ薬 ・生物製剤</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>(3) リハビリテーション</p> <p>3) 関節リウマチの治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
11～14	免疫	5. AIDS 1) AIDS の診断と検査 (1) AIDS の病態 (2) AIDS の症状 (3) AIDS の診断 2) AIDS の治療 3) AIDE の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 多発性筋炎・皮膚筋炎 1) 多発性筋炎・皮膚筋炎の診断と検査 (1) 多発性筋炎・皮膚筋炎の病態 (2) 多発性筋炎・皮膚筋炎の症状 (3) 多発性筋炎・皮膚筋炎の診断 ・血清酵素・ミオグロブリン ・心電図・心エコー ・心筋シンチ・X-P 検査・CT 検査	講義
		2) 多発性筋炎・皮膚筋炎の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 (3) 生活指導 (4) リハビリテーション 3) 多発性筋炎・皮膚筋炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
15	終了試験 (1時間)		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学[5] 消化器 医学書院 ナーシングセレクション No2 消化器疾患 学研メディカル 秀潤社 系統看護学講座 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			

科目名：疾病治療論Ⅲ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 脳・神経系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 運動器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～7	脳神経 (内科)	1. 脳神経の構造と機能 1) 脳神経系の構造と機能 2) 脳と血管系の構造と機能	講義
		2. 脳梗塞 1) 脳梗塞の診断と検査 (1) 脳梗塞の病態（脳血栓と脳梗塞） ・主要な梗塞部位と血管 (2) 脳梗塞の症状 ①意識障害 ②高次脳機能障害 ・失語・構音障害・失行と失認 ③運動麻痺 ・運動失調・不随意運動・痙攣 ・筋委縮 ④感覚機能障害 ・視野障害 ⑤反射運動の障害 ・対光反射の障害・嚥下障害 ・排泄障害・呼吸障害 ⑥頭蓋内圧亢進 ⑦髄膜刺激症状 (3) 脳梗塞の診断 ・神経学的診断・CT 検査・MRI 検査	講義
		2) 脳梗塞の治療 (1) 超急性期の特徴と治療 (2) 急性期の特徴と治療 (3) 回復期の特徴と治療 (4) 慢性期の特徴と治療 3) 脳梗塞の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		3. 筋委縮性側索硬化症 1) 筋委縮性側索硬化症の診断と検査 (1) 筋委縮性側索硬化症の病態 (2) 筋委縮性側索硬化症の症状 (3) 筋委縮性側索硬化症の診断 ・神経学的診断 ・筋電図 ・MRI 検査 2) 筋委縮性側索硬化症の治療 3) 筋委縮性側索硬化症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
1～7	脳神経 (内科)	4. パーキンソン病 1) パーキンソン病の診断と検査 (1) パーキンソン病の病態 (2) パーキンソン病の症状と原因疾患 (3) パーキンソン病の診断 2) パーキンソン病の治療 ・薬物療法 3) パーキンソン病の治療により起こりやすい合併症と その治療	講義
		5. 脊髄小脳変性症 1) 脊髄小脳変性症の診断と検査 (1) 脊髄小脳変性症の病態 (2) 脊髄小脳変性症の症状 (3) 脊髄小脳変性症の診断 ・神経学的診断 2) 脊髄小脳変性症の治療 ・薬物療法 3) 脊髄小脳変性症の治療により起こりやすい合併症と その治療	講義
		6. 多発性硬化症 1) 多発性硬化症の診断と検査 (1) 多発性硬化症の病態・種類・分類 (2) 多発性硬化症の症状 (3) 多発性硬化症の診断 ・MRI 検査 ・脳脊髄液検査 ・誘発電位検査 2) 多発性硬化症の治療 ・薬物療法 ・リハビリテーション 3) 多発性硬化症の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
8～9	脳神経 (外科)	1. クモ膜下出血 1) 脳血管系の構造と機能 2) クモ膜下出血の診断と検査 (1) クモ膜下出血の病態と原因 ・発生機序 (2) クモ膜下出血の症状 (3) クモ膜下出血の診断 ・CT 検査 ・髄液検査 ・脳血管撮影検査 3) クモ膜下出血の治療 ・手術療法 4) クモ膜下出血の術後に起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
8～9	脳神経 (外科)	<p>2. 脳腫瘍 (グリオーマ、下垂体腺腫、聴神経鞘腫について)</p> <p>1) 脳腫瘍の診断と検査 (1) 脳腫瘍の病態 ・発生機序 (2) 脳腫瘍の症状 (3) 脳腫瘍の診断 ・CT 検査 ・髄液検査 等</p> <p>2) 脳腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3) 脳腫瘍の術後に起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
10～13	運動器	<p>1. 運動器の構造と機能 1) 骨、関節、筋群、腱、靭帯の構造と機能</p> <p>2. 骨粗鬆症と骨折 1) 骨粗鬆症のメカニズム 2) 骨折の診断と検査 (1) 骨折の病態と分類 ①原因 ②機転、形態、転位 ③骨治癒の病態生理 ・仮骨の発生と癒合 3) 骨折の症状 (1) 局所症状 (2) 全身症状 4) 骨折の治療 (1) 整復 (2) 固定 (外固定と骨接合術) (3) 後治療 (4) 各種骨折と治療の特徴</p>	講義
		<p>3. 脱臼 1) 脱臼の診断と検査 (1) 脱臼の病態と分類 ・脱臼の原因 (2) 各種脱臼の症状 (3) 脱臼の診断 ・X-P 検査 2) 脱臼の治療 3) 脱臼の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
10～13	運動器	<p>4. 変形性関節症</p> <p>1) 変形性股関節症</p> <p>(1) 変形性股関節症の診断と検査</p> <p>①変形性股関節症の病態と分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変形性股関節症の原因 <p>②変形性股関節症の症状</p> <p>③変形性股関節症の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・X-P 検査 <p>(2) 変形性股関節症の治療</p> <p>①保存療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所安静、筋力訓練、牽引 <p>②手術療法</p> <p>(3) 変形性股関節症の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <p>2) 変形性膝関節症</p> <p>(1) 変形性膝関節症の診断と検査</p> <p>①変形性膝関節症の病態と分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変形性膝関節症の原因 <p>②変形性膝関節症の症状</p> <p>③変形性膝関節症の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・X-P 検査 <p>(2) 変形性膝関節症の治療</p> <p>①保存療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重コントロール、大腿四頭筋の筋力強化 ・関節内薬剤注入療法 <p>②手術療法</p> <p>(3) 変形性膝関節症の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <p>3) その他の変形性関節症</p>	講義
		<p>5. 椎間板ヘルニア</p> <p>1) 椎間板ヘルニアの診断と検査</p> <p>(1) 椎間板ヘルニアの病態と分類</p> <p>(2) 椎間板ヘルニアの症状</p> <p>(3) 椎間板ヘルニアの診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CT 検査 ・脊髄造影検査 <p>2) 椎間板ヘルニアの治療</p> <p>(1) 保存療法</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 椎間板ヘルニアの治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
10～13	運動器	<p>6. 変形性脊椎症</p> <p>1) 変形性脊椎症の診断と検査</p> <p>(1) 変形性脊椎症の病態と分類</p> <p>(2) 変形性脊椎症の症状</p> <p>(3) 変形性脊椎症の診断</p> <p>・X-P 検査 ・CT 検査</p> <p>2) 変形性脊椎症の治療</p> <p>(1) 保存療法</p> <p>・コルセット装着 ・理学療法</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 変形性脊椎症の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>7. 脊髄損傷</p> <p>1) 脊髄損傷の診断と検査</p> <p>(1) 脊髄損傷の原因と病態</p> <p>(2) 脊髄損傷の症状</p> <p>①損傷位置と症状</p> <p>・脊髄高位</p> <p>・麻痺の特徴</p> <p>・ホルネル徴候</p> <p>②脊髄ショック</p> <p>(3) 脊髄損傷の診断</p> <p>・X-P 検査・CT 検査・MRI 検査</p> <p>2) 脊髄損傷の治療</p> <p>(1) 損傷脊髄の安静</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 脊髄損傷の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
14	運動器特論	<p>1. 運動器特論</p> <p>1) 包帯法演習</p>	演習
15	終了試験 (1時間)		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 脳・神経・脊髄イラストレイテッド 学研メディカル 秀潤社 系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 『根拠がわかる基礎看護技術』 メヂカルフレンド社			

科目名：疾病治療論Ⅳ		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 代表的な系統別の疾患の病態と診断・治療について学ぶ。			
学習目標： 1. 内分泌系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 2. 女性生殖器・乳腺の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 3. 泌尿器・男性生殖器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。 4. 感覚器系の代表的な疾患の病態と診断・治療について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	内分泌	1. 代謝・内分泌器官の構造と機能 1) フィードバック機構 2) CRH・ACTH・コルチゾール系 3) TRH・TSH・甲状腺ホルモン系 2. 成長ホルモン産生腫瘍（巨人症・先端巨大症） 1) 成長ホルモン産生腫瘍（巨人症・先端巨大症）の診断と検査 （1）成長ホルモン産生腫瘍の病態 （2）成長ホルモン産生腫瘍の症状 （3）成長ホルモン産生腫瘍の診断 ・血中ホルモン値 ・尿中ホルモン値 ・ソマトメジン C ・75gOGTT ・X線検査 ・MRI 検査 ・プロモクリチン負荷試験 2) 成長ホルモン産生腫瘍の治療 （1）手術療法 3) 成長ホルモン産生腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		3. ATCH 産生腫瘍（クッシング病） 1) ATCH 産生腫瘍（クッシング病）の診断と検査 （1）ATCH 産生腫瘍の病態 （2）ATCH 産生腫瘍の症状 （3）ATCH 産生腫瘍の診断 ・血中 ACTH ・コルチゾール値 ・MRI 検査 2) ATCH 産生腫瘍の治療 （1）手術療法 （2）薬物療法 （3）放射線療法 3) ATCH 産生腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	内分泌	<p>4. 慢性甲状腺炎（橋本病）</p> <p>1) 慢性甲状腺炎（橋本病）の診断と検査</p> <p>(1) 慢性甲状腺炎の病態</p> <p>(2) 慢性甲状腺炎の症状</p> <p>(3) 慢性甲状腺炎の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液検査（ZTT、TTT） ・γグロブリン・甲状腺自己抗体 <p>2) 慢性甲状腺炎の治療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レボチロキシンナトリウム ・生活指導 <p>3) 慢性甲状腺炎の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>5. バセドウ病</p> <p>1) バセドウ病の診断と検査</p> <p>(1) バセドウ病の病態</p> <p>(2) バセドウ病の症状</p> <p>(3) バセドウ病の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊離ホルモン・TSH受容体抗体 <p>2) バセドウ病の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 放射線治療</p> <p>(3) 手術療法</p> <p>(4) 生活指導</p> <p>3) バセドウ病の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>6. 甲状腺腫瘍</p> <p>1) 甲状腺腫瘍の診断と検査</p> <p>(1) 甲状腺腫瘍の病態</p> <p>(2) 甲状腺腫瘍の症状</p> <p>(3) 甲状腺腫瘍の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査 ・穿刺吸引細胞診 ・血液検査（サイログロブリン） <p>2) 甲状腺腫瘍の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>(2) 放射線療法</p> <p>(3) エタノール注入</p> <p>3) 甲状腺腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	
		<p>7. 原発性アルドステロン病</p> <p>1) 原発性アルドステロン病の診断と検査</p> <p>(1) 原発性アルドステロン病の病態</p> <p>(2) 原発性アルドステロン病の症状</p> <p>(3) 原発性アルドステロン病の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液検査・副腎シンチグラフィ <p>2) 原発性アルドステロン病の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>(2) 薬物療法</p> <p>3) 原発性アルドステロン病の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	

回数	講義題目	内 容	方 法
1～3	内分泌	<p>8. クッシング症候群</p> <p>1) クッシング症候群の診断と検査</p> <p>(1) クッシング症候群の病態</p> <p>(2) クッシング症候群の症状</p> <p>(3) クッシング症候群の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液検査 ・CT 検査 ・副腎シンチグラフィ <p>2) クッシング症候群の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>(2) 薬物療法</p> <p>3) クッシング症候群の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <hr/> <p>9. 褐色細胞腫</p> <p>1) 褐色細胞腫の診断と検査</p> <p>(1) 褐色細胞腫の病態</p> <p>(2) 褐色細胞腫の症状</p> <p>(3) 褐色細胞腫の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液検査・尿検査・CT 検査 ・MRI 検査・シンチグラフィ <p>2) 褐色細胞腫の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>3) 褐色細胞腫の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <hr/> <p>10. 糖尿病</p> <p>1) 膵臓の構造と機能</p> <p>2) 糖尿病の診断と検査</p> <p>(1) 糖尿病の病態と分類</p> <p>(2) 糖尿病の症状</p> <p>(3) 糖尿病の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空腹時血糖 ・75 g OGTT ・HbA1 c <p>3) 糖尿病の治療</p> <p>(1) 食事療法</p> <p>(2) 運動療法</p> <p>(3) 薬物療法</p> <p>4) 糖尿病の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <p>(1) 薬物療法と低血糖</p> <p>(2) 糖尿病性網膜症</p> <p>(3) 糖尿病性腎症</p> <p>(4) 糖尿病の救急治療</p>	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
4～5	女性生殖器 (婦人科)	1. 女性生殖器の構造と機能 2. 子宮筋腫 1) 子宮筋腫の診断と検査 (1) 子宮筋腫の病態と発生部位 (2) 子宮筋腫の症状 (3) 子宮筋腫の診断 ・内診・超音波検査・CT 検査 ・MRI 検査・子宮卵管造影検査・子宮鏡 2) 子宮筋腫の治療 (1) 手術療法 (2) 薬物療法	講義
		3. 子宮内膜症 1) 子宮内膜症の発生部位 2) 子宮内膜症の症状 3) 子宮内膜症の診断 ・超音波検査 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・腹腔鏡検査 ・腫瘍マーカー 4) 子宮内膜症の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法	講義
		4. 卵巣腫瘍 1) 卵巣の構造と機能 2) 卵巣の良性腫瘍とその診断・治療 3) 卵巣の悪性腫瘍とその診断・治療	講義
		5. 子宮頸癌 1) 子宮頸癌の診断と検査 (1) 子宮頸癌の病態と進行期の分類 (2) 子宮頸癌の症状 (3) 子宮頸癌の診断 ・内診 ・細胞診 ・CT 検査 ・MR-I 検査 ・腫瘍マーカー 2) 子宮頸癌の治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法 3) 子宮頸癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	
		6. 子宮体癌 1) 子宮体癌の診断と検査 (1) 子宮体癌の病態と進行期の分類 (2) 子宮体癌の症状 (3) 子宮体癌の診断 ・内診 ・細胞診 ・CT 検査 ・MRI 検査 ・腫瘍マーカー 2) 子宮体癌の治療 (1) 手術療法 (2) 化学療法 3) 子宮体癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	

回数	講義題目	内 容	方 法
6	女性生殖器 (乳腺)	1. 乳房の構造と機能 2. 乳癌 1) 乳癌の診断と検査 (1) 乳癌の病態と危険因子 (2) 乳癌の症状 (3) 乳癌の診断 ・問診　・視診細胞診 ・マンモグラフィー　・CT 検査 ・MRI 検査　・超音波検査 ・生検 2) 乳癌の治療 (1) 手術療法 (2) ホルモン療法 (3) 化学療法 (4) 分子標的治療 3) 乳癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
7～8	泌尿器・ 男性生殖器	1. 男性生殖器の構造と機能 2. 前立腺肥大症 1) 前立腺肥大症の診断と検査 (1) 前立腺肥大症の病態 (2) 前立腺肥大症の症状 (3) 前立腺肥大症の診断 ・触診（直腸診）・超音波検査 ・内視鏡検査 2) 前立腺肥大症の治療 (1) 薬物療法 (2) 手術療法 (3) 化学療法 (4) 分子標的治療 3) 前立腺肥大症の治療により起こりやすい合併症とその治療 3. 尿路結石症 1) 尿路結石症の診断と検査 (1) 尿路結石症の病態と原因 (2) 尿路結石症の症状 (3) 尿路結石症の診断 ・尿検査・X線検査・CT 2 2) 尿路結石症の治療 (1) 保存療法 (2) 体外衝撃波碎石術 (3) 経皮的腎（尿管）碎石術・経尿道尿管碎石術 (4) 手術療法 3) 尿路結石の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
7～8	泌尿器・ 男性生殖器	4. 腎臓癌 1) 腎臓癌の診断と検査 (1) 腎臓癌の病態と原因 (2) 腎臓癌の症状 (3) 腎臓癌の診断 ・尿検査 ・超音波検査 ・CT検査 ・MRI検査 2) 腎臓癌の治療 (1) 手術療法 (2) 免疫療法 3) 腎臓癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. 膀胱腫瘍 1) 膀胱腫瘍の診断と検査 (1) 膀胱腫瘍の病態とグレード (2) 膀胱腫瘍の症状 (3) 膀胱腫瘍の診断 ・膀胱鏡・超音波検査・CT検査・MRI検査・経尿道的生検 2) 膀胱腫瘍の治療 (1) 手術療法 (2) 膀胱内注入療法 3) 膀胱腫瘍の治療により起こりやすい合併症とその治療 (1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法	講義
		6. 前立腺癌 1. 前立腺癌の診断と検査 1) 前立腺癌の病態 2) 前立腺癌の症状 3) 前立腺癌の診断 2. 前立腺癌の治療 1) 手術療法 2) 放射線治療 3) 化学療法 3. 前立腺癌の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
9～10	感覚器 (耳鼻科)	1. 耳鼻咽喉系の構造と機能 2. 難聴 1) 難聴の診断と検査 (1) 難聴の病態と原因 ・音響外傷 ・薬物によるもの ・老人性 ・突発性 (2) 難聴の症状 (原因毎の特徴) (3) 難聴の診断 ・聴力検査 2) 難聴の治療 (1) 薬物療法 (2) 補聴器の使用 (3) 星状神経節ブロック (4) 高圧酸素療法 3) 難聴の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義

回数	講義題目	内 容	方 法
9～10	感覚器 (耳鼻科)	<p>3. メニエール病</p> <p>1) メニエール病の診断と検査</p> <p>(1) メニエール病の病態</p> <p>(2) メニエール病の症状</p> <p>(3) メニエール病の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問診 <p>2) メニエール病の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>3) メニエール病の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>4. 中耳炎</p> <p>1) 中耳炎の診断と検査</p> <p>(1) 中耳炎の病態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性化膿性中耳炎・滲出性中耳炎・慢性中耳炎 <p>(2) 中耳炎の症状</p> <p>(3) 中耳炎の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耳鏡検査 <p>2) 中耳炎の治療</p> <p>(1) 保存療法</p> <p>(2) 鼓膜切開・鼓室形成・基本手術</p> <p>3) 中耳炎の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	
		<p>5. 鼻出血</p> <p>1) 鼻出血の診断と検査</p> <p>(1) 鼻出血の病態</p> <p>(2) 鼻出血の症状</p> <p>(3) 鼻出血の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視診 <p>2) 鼻出血の治療</p> <p>(1) 止血</p> <p>3) 鼻出血の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>6. 鼻アレルギー</p> <p>1) 鼻アレルギーの診断と検査</p> <p>(1) 鼻アレルギーの病態</p> <p>(2) 鼻アレルギーの症状</p> <p>(3) 鼻アレルギーの診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視診 ・皮内反応 ・鼻粘膜誘発試験 ・RAST 法 <p>2) 鼻アレルギーの治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 電気凝固術</p> <p>(3) 手術療法</p> <p>3) 鼻アレルギーの治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	
		<p>7. 咽頭癌</p> <p>1) 咽頭癌の診断と検査</p> <p>(1) 咽頭癌の病態</p> <p>(2) 咽頭癌の症状</p> <p>(3) 咽頭癌の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視診 (ファイバースコープ) <p>2) 咽頭癌の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>(2) 放射線療法</p> <p>(3) 化学療法</p> <p>3) 咽頭癌の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	

回数	講義題目	内 容	方 法
11～12	感覚器 (眼科)	<p>1. 眼の構造と機能</p> <p>2. 白内障</p> <p>1) 白内障の診断と検査</p> <p>(1) 白内障の病態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人性、先天性、外傷性、併発性、後発性、全身疾患に合併する白内障の特徴 <p>(2) 白内障の症状</p> <p>(3) 白内障の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細隙灯顕微鏡検査 <p>2) 白内障の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 白内障の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>3. 黄斑円孔</p> <p>1) 黄斑円孔の診断と検査</p> <p>(1) 黄斑円孔の病態</p> <p>(2) 黄斑円孔の症状</p> <p>(3) 黄斑円孔の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細隙灯顕微鏡検査 <p>2) 黄斑円孔の治療</p> <p>(1) 手術療法</p> <p>3) 黄斑円孔の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>4. 緑内障</p> <p>1) 緑内障の診断と検査</p> <p>(1) 緑内障の病態と原因</p> <p>(2) 緑内障の症状</p> <p>(3) 緑内障の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細隙灯顕微鏡検査 ・眼圧検査 <p>2) 緑内障の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 緑内障の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	講義
		<p>5. 網膜剥離</p> <p>1) 網膜剥離の診断と検査</p> <p>(1) 網膜剥離の病態と原因</p> <p>(2) 網膜剥離の症状</p> <p>(3) 網膜剥離の診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細隙灯顕微鏡検査 ・眼圧検査 <p>2) 網膜剥離の治療</p> <p>(1) 薬物療法</p> <p>(2) 手術療法</p> <p>3) 網膜剥離の治療により起こりやすい合併症とその治療</p> <p>(3) 悪性黒色細胞腫の診断</p> <p>2) 悪性黒色細胞腫の治療</p> <p>(1) 化学療法</p> <p>3) 悪性黒色細胞腫の治療により起こりやすい合併症とその治療</p>	

回数	講義題目	内 容	方 法
13～14	感覚器 (皮膚科)	1. 皮膚の構造と機能 2. 発疹の種類と形態 3. 皮膚病変の呼び方 4. アトピー性皮膚炎 1) アトピー性皮膚炎の診断と検査 (1) アトピー性皮膚炎の病態と診断基準 (2) アトピー性皮膚炎の症状 (3) アトピー性皮膚炎の診断 2) アトピー性皮膚炎の治療 (1) 薬物療法 3) アトピー性皮膚炎の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		5. 疥癬 1) 疥癬の診断と検査 (1) 疥癬の病態 (2) 疥癬の症状 (3) 疥癬の診断 ・直接鏡検 2) 疥癬の治療 (1) 薬物療法 3) 疥癬の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		6. 単純疱疹・帯状疱疹 1) 単純疱疹・帯状疱疹の診断と検査 (1) 単純疱疹・帯状疱疹の病態 (2) 単純疱疹・帯状疱疹の症状 (3) 単純疱疹・帯状疱疹の診断 2) 単純疱疹・帯状疱疹の治療 (1) 薬物療法 3) 単純疱疹・帯状疱疹の治療により起こりやすい合併症とその治療	
		7. 熱傷 1) 熱傷の診断と検査 (1) 熱傷の病態 ①熱傷面積の算定方法 ②熱傷深度の分類 (2) 熱傷の症状 (3) 熱傷の診断 2) 熱傷の治療 (1) 冷却 (2) 創部の被覆 (3) 輸液療法 (4) 浮腫部減張切開 3) 熱傷の治療により起こりやすい合併症とその治療	講義
		8. 悪性黒色細胞腫 1) 悪性黒色細胞腫の診断と検査 (1) 悪性黒色細胞腫の病態と病型 (2) 悪性黒色細胞腫の症状	
15	終了試験 (1時間)		試験

評価方法：

筆記試験

評価基準：

60 点以上で単位修得

テキスト：

系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院

系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院

系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院

系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院

系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 医学書院

系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院

科目名：臨床心理学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）	
履修学年：2学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
<p>学習目的：</p> <p>心理学は「こころ」のしくみや働きを科学的に研究する学問です。つまり、私たちの何気ない行動や思考の背景にあるメカニズムを明らかにしようとする学問です。</p> <p>このような身近な学問ですが、目には見えない「こころ」の切り口は数多く、心理学の研究領域は広範囲にわたっています。そういった多くの心理学の中に、心のケアを研究する臨床心理学があります。本講義では、日常における身近な具体例などを提示しながら、基礎的な心理学、及び応用・実践的な心理学の知識を理解することを目的としています。</p>			
<p>学習目標：</p> <p>基礎的、及び応用・実践的な心理学の知識を理解し、「こころ」について主体的に考えられるようになること。</p>			
回数	講義題目	内容	方法
1	心理学概説	1. 心理学とは －心理“学”に触れる－ 2. 人の「こころ」が関与している分野 3. ストレスについて	講義
2	生理・感覚心理学	1. 身体や脳のしくみから見た「こころ」 2. 感情がどのように生じるか 3. 「眠り」について	講義
3	知覚心理学①	1. ものの見え方 －図と地、群化の法則－ 2. 不思議な図形－錯覚①－	講義
4	知覚心理学②	1. 運動の知覚 2. 注意の向け方－知覚の選択性－ 3. 不思議な図形－錯覚②－	講義
5	欲求と動機づけ	1. マズローの欲求理論 2. 原因帰属 3. フラストレーションへの対応 －防衛機制－	講義
6	学習心理学	1. 条件づけ 2. 般化と弁別 3. 記憶の仕組みと種類	講義
7	社会心理学	1. 対人認知と対人関係 2. 状況の力の影響	講義
8	発達心理学①	1. 発達とは 2. エリクソンのライフサイクル論① －胎生期から児童・学童期－	講義

回数	講義題目	内容	方法
9	発達心理学②	1. エリクソンのライフサイクル論② －思春期・青年期から老年期－ 2. 「死」の心理学	講義
10	臨床心理学の変遷	1. 臨床心理学とは 2. 「こころ」の病への関わり方の歴史	講義
11	臨床心理学の両論①	1. 心理アセスメントとは 2. 心理検査法と面接法と観察法	講義
12	臨床心理学の両論②	1. 心理療法とは 2. 正常と異常 3. 臨床心理学が実践されている領域	講義
13	臨床心理学の理論①	1. 精神分析誕生の流れ 2. 精神分析的な考え方	講義
14	臨床心理学の理論②	1. 行動療法誕生の流れ 2. 行動療法・認知行動療法の考え方	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法： 全体講義終了後に試験を行う。</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト： 「心理学」有斐閣</p> <p>参考文献： 「心理学」鹿取廣人・杉本敏夫 編（東京大学出版会：1996） 「精神医学ハンドブック」小此木敬吾 他 編（創元社：1998）</p>			

科目名：予防医学	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）	
履修学年：2学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 人間を取り巻く環境の現状を理解して、人間のあり方、健康増進のための保健活動について学ぶ。			
学習目標： 1. 予防医学の意義を理解する。 2. 環境と健康の関わりを学ぶ。 3. 保健活動を学ぶ。			
回数	講義題目	内容	方法
1	予防医学の概念	生活習慣病の予防対策と健康増進 健康日本21	講義
2	健康指標と予防	人口問題、人口動向、人口動態 健康状態と受療状況、保健統計、 国民生活基礎調査	講義
3	疫学	疫学的方法による健康の理解	講義
4	地球環境 生活環境	水、空気、土壌、気圧、温度 電離放射線、非電離放射線、公害、 熱中症、化学的要因	講義
5	産業保健	産業保健活動、職業病、産業看護 労働衛生、復職支援	講義
6	食品保健	健康栄養、食品管理、食中毒、検疫	講義
7	感染症	感染症法、感染症の動向、感染症予防 (経路別予防対策)、予防接種、 サーベイランス、	講義
8	母子保健・福祉	保健活動、虐待対策	講義
9	学校保健・国際保健	保健活動、学校環境衛生基準、 国際協力	講義
10	老人保健・福祉	保健活動、介護保険制度、虐待対策	講義
11	精神保健・福祉	保健活動と福祉	講義
12	障害者福祉	I C F、障害者福祉活動、虐待対策	講義
13	地域保健・成人保健	自治体による保健活動、特定健診	講義
14	保健医療制度	医療保険制度、保険診療、国民医療費	講義
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法： マークシート テスト
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： シンプル衛生公衆衛生学 参考文献： 国民衛生の動向 2015/2016 （厚生労働統計協会）

科目名：医療と倫理	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 医学・医療とは何かを学び、医療人としての倫理観を考える。			
学習目標： 1. 患者の権利、自己決定を理解する。 2. インフォームド・コンセントにおける看護師の役割を理解する。 3. 医療の場における、生命倫理的問題を理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	医療と倫理	概論	講義
2	医療と人権 患者の権利	自己決定権、延命治療の中止	講義
3	インフォームド・コンセント	看護師としての関わり	講義
4			
5	生命倫理の諸問題	鎮静、DNAR など	講義
6			
7	まとめ	国家試験問題を中心にまとめ	講義
	終了試験（1 時間）		試験
評価方法： 試験及びレポート			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 「臨床緩和ケア」 青海社 参考文献： 塩野 寛「生命倫理への招待」南山堂 星野一正「医療の倫理」岩波新書			

科目名：社会福祉論	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）	
履修学年：2 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 関連領域としてのライフサイクルにおける社会福祉、とくに社会保障制度と社会福祉の諸サービスを体系的に理解し、保健医療領域との連携を学ぶ。			
学習目標： 1. 生活と社会福祉の観点から、社会福祉の概念や定義を学ぶ。 2. 社会保障制度の歴史・目的・機能・制度体系を理解する。 3. 社会福祉の諸制度と施策を具体的に学ぶ。 4. 実際の事例から、福祉と看護の役割と連携を学ぶ。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	生活と福祉	なぜ社会福祉を学ぶのか 生活における社会福祉	講義
2	社会保障制度	社会保障制度の概念と歴史的発展 目的と機能	講義
3	日本の社会保険制度	医療保険制度	講義
4		介護保険制度	講義
5		年金保険制度	講義
6		雇用保険制度	講義
7	社会福祉	日本の社会福祉の歴史	講義
8		生活保護法	講義
9		児童福祉	講義
10		障害児福祉	講義
11		障害者福祉	講義
12		高齢者福祉	講義
13		その他（地域福祉、行政機関）	講義
14	事例	医療保健と福祉の連携	講義
15	終了試験		試験
評価方法：出席・試験・レポート提出などから総合的に評価する			
評価基準：60 点以上で単位修得			
テキスト：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会福祉 医学書院 参考文献：適宜紹介する			

科目名：医療関係法規Ⅰ 看護医療に係る法律の基礎	履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）	
履修学年：2学年	開講時期：		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 法の理念をもとに看護領域に直接・間接で関わる法規について学ぶ。			
学習目標： 1. 法の基礎知識を学ぶ。 2. 看護の職域と法的責任について理解する。 3. 看護領域で必要な関係法規を学ぶ。			
回数	講義題目	内容	方法
1	法の概念 医療法規総論	1. 成文法と不文法、法の概念 2. 医療法、臓器移植法、 個人情報保護法	講義
2	医事法規	1. 保健師助産師看護師法 2. 医師法 3. その他の医療従事者に関する 法規	講義
3	薬務関連法規 労働衛生法規 (社会基盤整備を含む) 環境関連法規	1. 薬機法、薬剤師法 2. その他の薬務関連法規 3. 労働基準法、 その他の労働衛生法規 4. 環境基本法、 その他の公害防止法規	講義
4	保健衛生法規	1. 地域保健法、健康増進法 2. 精神保健福祉法 3. 母子保健法、母体保護法 4. 学校保健安全法 5. がん対策基本法	講義
5	生活衛生法規	1. 食品衛生法 2. 水道法、下水道法 3. 廃棄物処理法、墓地埋葬法 4. その他の生活衛生関連法規 5. 感染症法、検疫法、予防接種法	講義
6	社会保険法規 (労災、雇用を除く)	1. 健康保険法 2. 介護保険法 3. 高齢者医療確保法 4. その他の社会保険法規	講義
7	福祉関連法規	1. 児童福祉法、児童虐待防止法 2. 老人福祉法、高齢者虐待防止法 3. 障害者基本法、 障害者総合支援法、 障害者虐待防止法 4. 母子及び寡婦福祉法 5. 生活保護法 6. その他の福祉関連法規	講義
	終了試験（1時間）		試験

評価方法： マークシート テスト
評価基準： 60 点以上で単位修得
テキスト： 系統看護学講座 看護関係法令(医学書院) 参考文献： 国民衛生の動向 2015/2016 (厚生労働統計協会)

科目名：医療関係法規Ⅱ 看護と医療過誤		履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）
履修学年：3学年		開講時期：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 臨床で必要とされ、医療安全につながる薬物の知識・副作用について学ぶ。			
学習目標： 1. 医薬品開発と医薬品の適性使用について理解する。 2. 医療過誤、看護の職域と法的責任について理解する。 3. 各薬剤の作用と重要な有害反応について理解する。 4. 各薬剤を安全に取り扱う使用法と対応について理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	薬物療法と起こりうる危険	1. 臨床薬理	講義
2		2. 倫理について 3. 医薬品開発と臨床研究 4. 薬物動態学	講義
3		5. 薬物相互作用と健康被害 6. 個人差(遺伝的背景) 7. 有害反応とは 8. 医薬品使用時の注意 (依存、耐性、中毒、妊婦への投与、小児への投与、高齢者への投与)	講義
4		9. 肝、腎障害時の薬物療法 10. 医薬品に関する法律 (薬事法(GCP含む)、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法) 11. CRCについて	講義
5	悪性腫瘍治療薬の取り扱い	1. がんを使用する薬 (化学療法、インターフェロン、急性骨髄性白血病)の薬理作用と有害反応 2. がん性疼痛に使用する薬 (オピオイド鎮痛薬等)の薬理作用と有害作用 3. 安全面で重要な事と看護における注意点	講義
	副腎皮質ホルモン薬の取り扱い	1. 主なステロイド 2. ステロイドの基本知識 3. ステロイドの薬理作用 4. ステロイドの投与方法 5. ステロイドの薬物有害反応 6. 安全面で重要な事と看護における注意点	講義

回数	講義題目	内容	方法
6	虚血性心疾患治療薬の取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1. 狭心症治療薬（硝酸薬、カルシウム拮抗薬、β遮断薬）の薬理作用と有害反応 2. 心筋梗塞治療薬（血栓溶解薬、抗血小板薬、β遮断薬、ACE阻害薬）の薬理作用と有害反応 3. 心不全治療薬（カテコラミン、ジギタリス製剤、利尿薬）の薬理作用と有害反応 4. 安全面で重要な事と看護における注意点 	講義
	ホルモン療法時の薬の取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1. インスリン、糖尿病治療薬 2. 女性ホルモン、男性ホルモン 3. 骨粗鬆症治療薬 4. 全身性エリトマトーデス治療薬 5. 甲状腺治療薬 6. 安全面で重要な事と看護における注意点 	講義
7	中枢神経系薬の取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗てんかん薬の有害反応 2. パーキンソン病薬の有害反応 3. 向精神薬の有害反応 4. 睡眠薬の有害反応 5. 急性期脳血管障害（脳浮腫、血漿増量、脳保護、など）の有害反応 6. 全身麻酔薬 7. 安全面で重要な事と看護における注意点 	講義
	血液製剤の取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品投与に関連する緊急状態（ショックの原因医薬品、救命救急時における注意） 2. ショック時に対して使用する薬（輸液製剤、赤血球濃厚液、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤） 3. 安全面で重要な事と看護における注意点 	講義
	終了試験（1時間）		試験
評価方法： 筆記試験			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト： 系統看護学講座「薬理学」医学書院			

専門基礎分野Ⅰ

基礎的理論や基礎的技術を学び、各看護学
および統合分野の基盤となる能力を養う。

基 礎 看 護 学

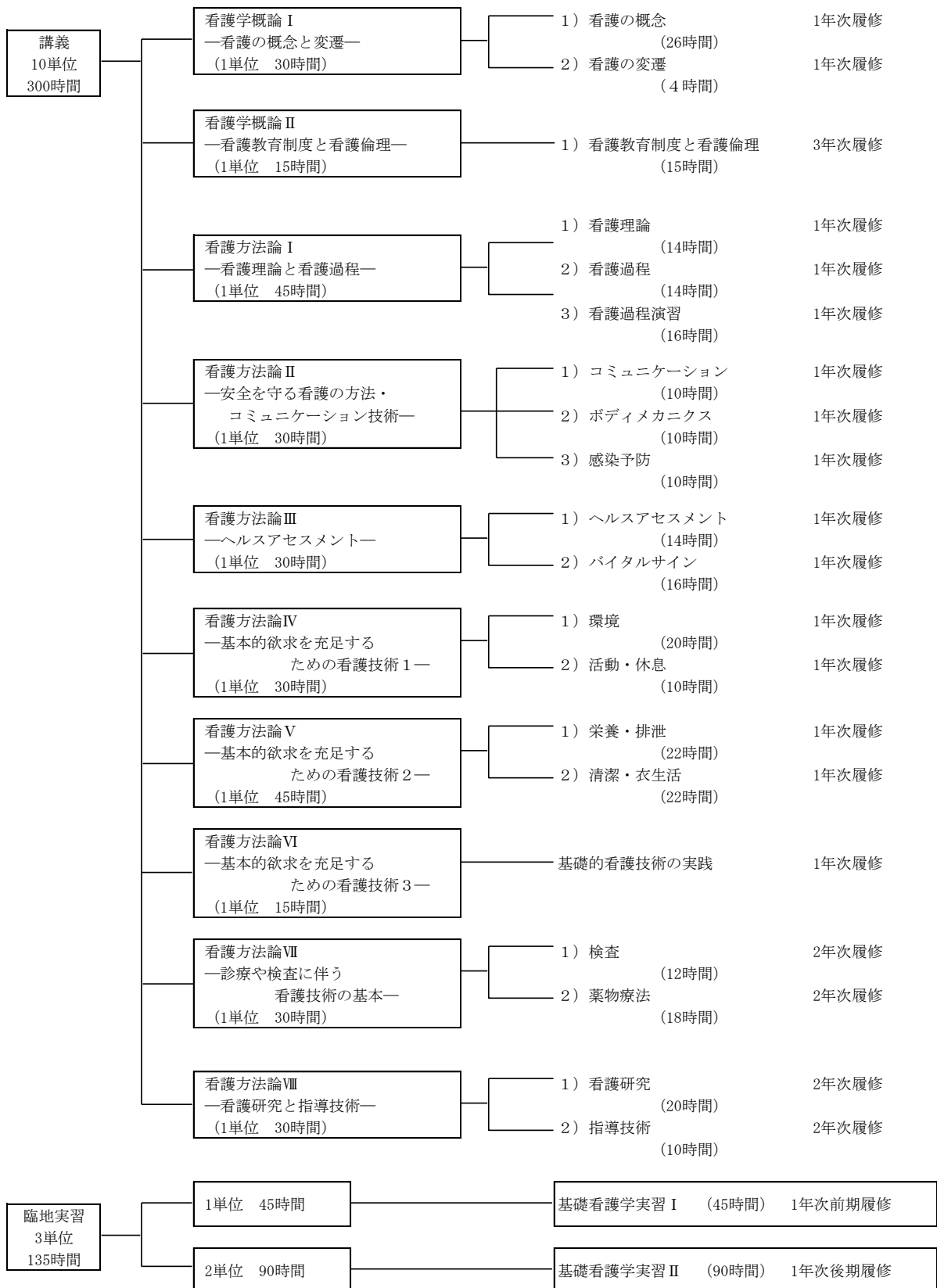
単 位 13 単位 (435 時間)

学習目的 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の役割を知り、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

学習目標

1. 看護の対象について理解を深め、看護の概念及び看護の機能を学び、それをもとにして自己の人間観・看護観を発展させる。
2. 保健・医療・福祉における看護の役割を認識する。
3. あらゆる健康レベルにある対象への看護実践の基礎となる看護技術を習得する。
4. 主体的に学習する態度を身につけ看護実践を科学的に展開するための基礎となる能力を養う。

基礎看護学の構造



科目名：看護学概論 I －看護の変遷と看護の概念－	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 回（30 時間）	
履修学年：1 年次	開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 看護の対象である人間を理解し、保健・医療・福祉における看護の歴史および役割を学ぶ。			
学習目標： 1. 看護歴史学習の意義を学ぶ。 2. 近代看護の誕生をその時代背景とふまえて理解する。 3. 現代看護の課題を考える。 4. 看護の対象である人間を理解する視点がわかる。 5. 環境の概念がわかる。 6. 健康の概念がわかる。 7. 人間・環境・健康・看護のつながりがわかる。 8. 看護の定義と目的について理解できる。 9. 看護の機能について理解できる。 10. 看護専門職の特徴が理解できる。 11. 保健・医療・福祉活動における看護の特徴と課題がわかる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	序論・看護の対象 看護史学習の意義 看護とは何か(1)	1. 看護学を学ぶ意義 2. 看護の概念とは何か	講義
2	看護技術とは何か	1. 看護技術とは何か 2. 看護の質保証に欠かせない要件	講義
3	近代看護の誕生と時代 時代と宗教看護 近代看護の課題	1. 看護の歴史を学ぶ意義 2. F. ナイチンゲールの時代背景と個人史 3. ナイチンゲールの業績 4. 諸外国の看護の歴史	講義
4	日本の近代看護教育	1. はじめの3校の個人史とその著作物にみる看護 2. 日本－近代看護制度の流れと今日の課題 3. 近代看護の特質とは 4. 日本の近代看護の発端	講義
5	人間の理解（1） 「看護の対象としての人間」	1. 人間とは 2. 統一体（統合体）・生活者・精神的存在・社会的存在としての人間	講義
6	人間の理解（2） 「看護の対象としての人間」	1. 人間の発達 2. 人間のニードと行動・基本的欲求 3. 生物体としての人間 4. 人間の共通性と個別性	講義

回数	講義題目	内容	方法
7	人間と健康	1. 人間の特性まとめ 2. 人間の特性と人間の健康 3. 健康とは何か	講義
8	様々な健康の捉え方	1. セルフケアと健康 2. 適応としての健康 3. 存在の満足と健康 4. ヘルスプロモーション 5. 健康・健康増進と予防のまとめ	講義
9	人間と環境	1. 環境とは 2. 外部環境と内部環境 3. 人間と環境の相互関係 4. 環境が健康におよぼす影響	講義
10	看護の定義と目的	1. 看護と法的規定 2. 看護の定義 3. 看護業務基準 4. 看護者の倫理綱領 5. ケア・ケアリングとは何か	講義
11	看護とは何か（2） （臨地実習の体験から看護とは何か考える）	1. 入院生活を送る患者について考える （看護師に求めることは何か） 2. 臨地実習の体験から、あなたが考える「看護とは何か」考える	個人発表
12	看護の役割・機能	1. 看護の役割・機能とは 2. 看護の役割・機能の実際 1) すべての健康段階に応じた専門職としての看護の機能 2) どのような健康段階の人に対しても看護師に求められる共通の機能 3) その他の看護の役割・機能	講義
13	チーム医療から見た看護の役割	1. 保健医療チームとは 2. 協働するチームにおける看護職の役割 3. チーム医療の必要性	講義
14	専門職としての看護 人間・健康・環境・看護 まとめ	1. 専門職とは 2. 専門職に求められる態度 3. 看護のひろがりと専門性 1. 4つの概念の様々な特性と概念間の関連性 2. 概念枠組みの作成と説明	講義
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法： 筆記試験、ナイチンゲール看護覚え書きレポート、個人ワークシートの提出、出席状況、受講態度を総合判定する。</p>
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献： ナーシング・グラフィカ「看護学概論」メディカ出版 「看護六法」</p>
<p>留意事項： 看護の概念は、看護学を学ぶ入り口であり、奥行きであり、今後の看護学の学習および実習、更には卒業後も常に立ち返る重要な科目である。出来るだけ、それぞれが考える授業を組み立て、自分の看護観を見出していけるよう導きたい。</p>
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30に講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護学概論Ⅱ －看護教育制度と看護倫理－		履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）
履修学年：3年次		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 看護専門職としての責務と倫理原則を学び、倫理的感性を高める。 看護行政の実際を学び、今後の看護の課題を考える。			
学習目標： 1. 倫理の意義を理解する。 2. 看護職に求められる倫理を理解する。 3. 看護制度・看護行政と看護活動について理解する。 4. 看護職の養成と看護制度・看護行政について理解する。 5. これからの看護に対する課題を見出す。			
回数	講義題目	内容	方法
1	専門職としての看護 看護に関連する諸制度	1. 看護活動と保健師助産師看護師法 2. 看護制度・看護行政と看護活動	講義
2	看護職の養成と看護制度・看護行政	1. 看護職養成制度の実際 2. 看護職の養成カリキュラムと 教育現場の実際 3. 看護基礎教育の達成目標と 継続教育	講義
3	倫理とは	1. 倫理とは何か 2. 倫理に影響する事柄 3. 事例1	講義
4	看護倫理の基礎知識	1. 倫理の基礎 2. 看護倫理の基礎 3. 看護倫理の歴史的推移 4. 事例2	講義
5	看護倫理のアプローチ	1. 看護倫理教育の変遷 2. ケアの倫理と徳の倫理 3. 原則の倫理	講義
6	倫理的意思決定ステップ その1	1. 看護者の倫理綱領 2. 4ステップモデルによる事例検討 3. 事例3（1）	講義
7	看護活動と倫理 倫理的意思決定ステップ その2	1. 看護倫理に関連する言葉 2. 様々な看護活動と倫理 3. 事例3（2）	講義・GW
8	終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <p>筆記試験、提出用紙、出席状況、グループワークの取り組みを総合判定する。</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>「看護倫理」南江堂 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（1）「看護管理」医学書院</p>
<p>留意事項：</p> <p>1年次で学習した、看護概論をさらに発展させ、実際に看護現場で遭遇するであろう問題を幅広く考え、倫理的感性を磨く。また、倫理観を前提に、今日の看護行政を学び、自分の目指す職業の課題を理解する。さらに、広く社会・政治に目を向け、今後の学びおよび卒業後の継続学習の素地を養う。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30に講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護方法論 I －看護理論と看護過程－	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 45 時間（22 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 看護の概念・看護の理論で学ぶ知識を基に、基本となる看護の方法としての看護過程について理解でき、看護過程について事例を通して学習できる。			
学習目標： 1. 看護理論の歴史的変遷を知るとともに、その必要性と意義を理解する。 2. 代表的な理論家の解説から、それぞれの主要概念を知る。 3. 看護理論の実践への活用方法を知る。 4. 看護過程とは何か、看護過程とは何故必要か理解できる。 5. 看護過程の構成要素を理解できる。 6. アセスメントについて、また考え方の筋道を理解できる。 7. 看護診断とは何か理解できる。 8. 計画立案の具体的方法が理解できる。 9. 看護の実施方法について理解できる。 10. 評価の視点とフィードバックする要点が理解できる。 11. 看護過程演習で、ひとつの事例を用いて看護過程の展開ができる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	看護理論とは	1. 看護理論とは何か 2. 看護理論の構成要素 3. 看護理論の変遷と発展	講義
2	V・ヘンダーソンの理論	1. V・ヘンダーソンの活躍した時代背景と経歴 2. V・ヘンダーソンに影響を及ぼした人々 3. V・ヘンダーソンの人間・環境・健康・看護のとらえかた 4. 基本的看護の構成要素 5. 実践への活用法	講義
3	患者理解のための基礎理論	1. 危機理論（不安について含む） 2. ストレス・コーピング理論	講義
4 ・ 5	理論家について （個人ワークとグループワーク）	1. グループ編成 2. 代表的な理論家の文献検索（オレム・ロイ・ワトソン・ペプロウ等） 3. 発表資料作成 4. 個人ワークの提出	GW
6	看護理論ワーク発表	1. グループごと発表 2. 質疑応答 3. 発表講評 4. 看護への活用の意義と今後の方向性	発表

回数	講義題目	内容	方法
7	看護理論まとめ	代表的な理論家の業績まとめ 看護理論を学ぶことの意義	講義
8	看護過程とは何か	1. 看護過程とは・看護過程はなぜ必要か？ 2. 人間の健康と看護過程 3. 看護過程の定義と概念の変遷 4. 看護過程の必要性 5. 看護過程の構成要素と相互関係	講義
9	アセスメント	1. アセスメントの意義 2. アセスメントのプロセス 3. 情報収集の方法 4. 情報の事実確認と意味 5. アセスメントの種類	講義 一部演習を取り入れる。 課題(事例)の提示
10	アセスメントの実際	1. 事例を用いて、データベースアセスメントを実施する	講義
11	アセスメントから看護診断へのプロセス	1. アセスメントのプロセス 2. 全体像の把握(関連図) 3. 関連図目的 4. 関連図の書き方	講義
12	看護診断	1. 看護問題・看護診断とは 2. 看護診断の利点、欠点 3. 看護診断のタイプ 4. 看護診断の表現方法	講義
13	優先順位決定の意義 アウトカムの設定 計画立案	1. 優先順位の決定 2. アウトカムとは何か 3. 目標の記述の仕方 4. 計画の基準 5. 具体策の決定： 観察・看護行為・指導	講義 マズローの欲求階層説について触れる
14	計画の実施・結果 評価・修正 看護過程まとめ	1. 計画の実施・記録 2. 看護介入の実施及び必要な計画の変更 3. 評価とは何か 4. 評価のステップ 5. 評価の視点 6. 計画の継続、修正、終了 7. 看護過程まとめ	講義
15	看護過程演習 事例紹介	1. 事例の読み込み 2. インタビュー内容の検討	講義・GW
16	インタビュー	1. 情報収集	演習
17	第1段階アセスメント 関連図	1. 情報の整理 2. 全体像の把握	講義・GW
18	第2段階アセスメント	1. 焦点アセスメント	講義・GW

回数	講義題目	内容	方法
19 ・ 20	グループ討議	1. これまでの個人ワークの過程をグループ全体で意見交換し、発表準備を行う	GW
21 ・ 22	全体発表 全体討議	1. 各グループの発表 2. 質疑・応答	発表
23	終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義及び学内演習でおさえた知識の理解度を筆記試験で確認 2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況 			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>ナーシンググラフィカ「看護学概論」 メディカ出版（看護理論）</p> <p>V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 日本看護協会（看護理論）</p> <p>黒田 裕子 著「やさしく学ぶ看護理論」改訂4版 日総研（看護理論）</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院（看護過程・看護過程演習）</p> <p>看護診断ハンドブック リング J. カルペニート 医学書院（看護過程・看護過程演習）</p> <p>看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会（看護過程・看護過程演習）</p>			
<p>留意事項：</p> <p>理論は自ら学ぶものである。ここではその糸口を見つけ、興味ある理論家の理論を知ろうとしてほしい。グループで補いあいながら理解を深めることにより知ることがさらに学問としての理解、実践への活用とつながることを期待する。</p> <p>看護過程は、これから履修する専門分野の学習を進める上で欠かすことのできない基本となる看護の方法の1つである。従って講義でおさえる内容にとどまらず課題学習や自己の学習を積極的に実施し、個々に理解を深めていくことが重要となる。</p> <p>看護過程演習では、看護過程の学習内容を十分に理解しながら、患者事例をもとにアセスメントし、アセスメントの結果としての看護診断を確定する。さらに目標の設定・計画の立案を行う。また、今後の学習に欠かせない、基本となる看護の方法のひとつであることを十分に踏まえ、主体的に学習に取り組んでほしい。講義時間以外で各自が自己学習・グループ学習を主体的にすすめ、看護過程の方法を理解していくことが重要となる。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねて下さい。</p>			

科目名：看護方法論Ⅱ －安全を守る看護の方法・ コミュニケーション技術－		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：安全を守る看護技術の方法・コミュニケーション技術を学ぶ。			
学習目標： <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基礎的知識を理解し、看護におけるコミュニケーションの重要性を理解できる。 2. プロセスレコードを書く意義と方法を理解できる。 3. 看護におけるボディメカニクスの意義について理解できる。 4. 体位変換と安楽な体位保持の技術をボディメカニクスを考慮し、一連の動作として実施できる。 5. 感染予防の意義と目的・方法を理解できる。 6. 清潔・不潔について理解し、清潔操作が実施できる。 			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	コミュニケーションの基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. ミスコミュニケーション 4. コミュニケーションの類型 	講義
2	看護・医療とコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・医療におけるコミュニケーションの目的 2. 看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 3. 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 	講義
3	関係構築のための コミュニケーション プロセスレコード	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接近的行動と非接近的行動 2. 看護者の心得 3. プロセスレコードとは 4. 再構成の枠組み 5. プロセスレコードの活用の意義 6. 再構成の目的 7. プロセスレコードの記載方法と分析の視点 	講義
4	コミュニケーション演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロールプレイとプロセスレコードの記載 	演習
5	傾聴の技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傾聴とは 2. 看護における傾聴 	講義
6	看護におけるボディメカニクス	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボディメカニクスとは 2. 姿勢と安定性 3. 重心と安定性 4. ボディメカニクスに影響を及ぼす因子 	講義

回数	講義題目	内容	方法
7	看護行為に活用していくためのボディメカニクス	1. ボディメカニクスを活用した援助の実際 1) てこの原理 2) 慣性の法則と筋肉の利用 3) 動作経済性の法則 2. 体位変換の実際	講義
8 ・ 9	ボディメカニクス演習	1. 重心・重心線・支持基底面の関係 2. ベクトル(力の量) 3. 摩擦抵抗 4. 体位変換	演習
10	感染予防の基礎	1. 感染予防の意義と原則 2. 感染予防の基礎知識 3. 滅菌と消毒の意義 4. 滅菌と消毒の方法	講義
11	感染予防のための技法	1. 日常的手洗い 2. 手袋の装着	講義
12	感染予防のための技法	1. 滅菌操作・滅菌物の取り扱い 2. 演習に向けて	講義
13	感染予防演習	1. 日常の手洗い 2. 滅菌手袋の装着 3. 滅菌操作 4. 滅菌物の取り扱い	演習
14	院内感染とその予防	1. 近年の動向 2. 隔離とガウンテクニック	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義及び学内演習で押さえた知識の理解度を筆記試験で確認 2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況 			
<p>評価基準：60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>			
<p>留意事項：</p> <p>この単元は「コミュニケーション」「ボディメカニクス」「感染予防」の3つの科目で構成されており、それぞれに講義と演習がある。患者や医療者の安全や安楽を守るための基礎的知識・技術を実践するための重要な科目であるため、講義はもちろんどの演習にも積極的に臨むこと。</p> <p>また、技術は練習しないと身につかない。事前学習はもちろん演習後の事後練習も積極的に実施すること。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：看護方法論Ⅲ －ヘルスアセスメント－		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：看護実践の基礎となる対象の見方とアセスメントの方法を理解する。			
学習目標： 1. 臨床技術としての観察・面接・身体審査について理解できる。 2. 記録・報告の基本を理解できる。 3. フィジカルアセスメントの重要性と方法を理解できる。 4. フィジカルイグザミネーションが実施できる。 5. バイタルサインの重要性と測定の意義がわかる。 6. バイタルサインの正常・異常を理解し、影響する因子が分かる。 7. バイタルサインの測定が正しく実施できる。 8. バイタルサインを正常に保つような基礎的看護方法が分かる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	ヘルスアセスメントとは何か アセスメントスキル	1. ヘルスアセスメントとは何か 2. 科学的思考プロセス・看護過程におけるアセスメントの重要性 3. アセスメントスキルとしての観察・フィジカルイグザミネーションとは 4. 観察の方法・留意点	講義
2	看護における記録・報告の意義	1. 看護記録の必要性 2. 現在の記録様式 3. 報告の重要性と方法	講義
3	フィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントの方法	1. フィジカルアセスメントの意義 2. フィジカルアセスメントの実実施時の基本技術（視診・聴診・打診・触診） 3. フィジカルアセスメント実施時の留意事項 4. フィジカルアセスメントの進め方・呼吸器系のフィジカルアセスメント・循環器系のフィジカルアセスメント・腹部のフィジカルアセスメント	講義
4 5	フィジカルアセスメント演習	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 3. 腹部のフィジカルアセスメント	演習
6	フィジカルアセスメントの方法 フィジカルアセスメントのまとめ	1. フィジカルアセスメントの進め方・脳・神経系のフィジカルアセスメント・筋肉・関節のフィジカルアセスメント 2. まとめ	講義

回数	講義題目	内容	方法
7	バイタルサインの重要性と測定の意義 バイタルサインの測定・観察 循環（脈）	1. バイタルサイン測定の意義 2. バイタルサインが意味するもの（呼吸と循環） 3. バイタルサインに影響する因子 1. 脈拍とは 2. 脈拍の観察（測定部位と測定方法・測定時の注意事項・正常と異常） 3. 末梢循環の観察（褥瘡含む） 4. 循環保持・促進のための基礎的援助	講義
8	バイタルサインの測定・観察 循環（血圧）	1. 血圧とは 2. 血圧の観察（変動因子・正常と異常・測定部位・使用物品・測定時の注意事項・測定方法・随伴症状） 3. 血圧の安定を助ける基礎的援助方法	講義
9	バイタルサイン測定演習①	1. 脈拍 2. 触診法・聴診法による血圧測定	演習
10	バイタルサインの測定・観察（呼吸）	1. 呼吸とは（内呼吸・外呼吸） 2. 呼吸の観察（呼吸運動・測定部位と測定方法・呼吸に影響する因子・観察時の注意事項・正常と異常・随伴症状） 3. 安楽な呼吸への援助 4. 呼吸・循環のアセスメントの視点	講義
11	バイタルサインの測定・観察（体温）	1. 体温とは 2. 耐熱の産生と放散 3. 体温の観察（正常と異常・体温計の種類・測定部位と測定方法・測定時の注意事項・随伴症状と発熱時の観察ポイント） 4. 体温保持のための基礎的援助方法 5. アセスメントの視点	講義
12 ・ 13	バイタルサイン測定演習②	1. 脈拍、血圧、呼吸、体温測定 2. 随伴症状の観察	演習
14	罨法の基礎知識 罨法演習	1. 罨法の意義・目的 2. 罨法の原理 3. 罨法の生体への影響 4. 罨法の効果 5. 実施方法と留意点 6. 効果的な罨法の実際	講義・演習
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義及び学内演習でおさえ知識の理解度を筆記試験で確認 2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 2 「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 3 「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「根拠が分かる基礎看護技術」岡崎美智子 角濱春美 メヂカルフレンド社 「看護がみえる」フィジカルアセスメント メディックメディア</p>
<p>留意事項：</p> <p>この単元は、「ヘルスアセスメント」「バイタルサイン」2 つの科目で構成されており、それぞれに講義と演習がある。生命の兆候であるバイタルサインとは何かを講義で学び、それらを確認な技術で測定できなければならない。また、看護師としてのヘルスアセスメントスキルを身につけるためには、演習で経験するだけでなく、自らも練習を積み重ねなければならない。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護方法論Ⅳ －基本的欲求を充足するための 看護技術 1－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：1 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 人間の健康維持や疾病の回復のために生活環境が果たす役割を知り、生活環境を適切に整える方法を習得し、人間にとっての活動と休息の意義を理解し、対象の基本的欲求に適した援助の方法を習得する。			
学習目標： 1. 健康の維持や疾病の回復のため生活環境の果たす役割について理解できる。 2. 安全・安楽な生活環境調整について学習し、適切な調整方法について理解できる。 3. 日周期リズムと生体リズムについて理解する。 4. 活動の援助の実際について理解する。 5. 休息・睡眠について理解する。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	人間の健康と環境のつながり 生活環境調整の意義と役割	1. 環境とは何か 2. 環境と健康のつながり 1. 環境調整の意義 2. 患者を取り巻く生活環境因子、その特徴 3. 看護師の役割	講義
2	健康と環境条件の調整の必要性 環境条件の調整の方法	1. 病室環境の条件 1) 室内気候 2) 採光・照明 3) 騒音 4) 色彩感覚 5) におい 6) 生活空間・プライバシー 2. 環境因子に伴って起こる問題と解決方法 1) 日常の環境整備の目的 2) 環境整備の方法と実施時の留意点	講義
3	環境整備演習	1. 病床および周囲の環境整備 2. リネン類の準備	演習
4	入院により変化する環境条件	1. 病床の条件 2. 病院・病棟・病床にある設備 3. 安全・安楽な病床の作り方	講義
5 ・ 6	ベッドメイキング演習	1. ベッドメイキング	演習
7	看護介入技術としての安全・安楽	1. 患者のまわりの危険因子と起こる可能性のある事故 1) 事故防止のための環境調整 2) 衛生管理	講義

回数	講義題目	内容	方法
7	看護介入技術としての安全・安楽	2. 快適な入院生活のための援助方法 1) 臥床患者のリネン交換時の留意点	講義
8 ・ 9	臥症患者のリネン交換演習	1. 臥症患者のリネン交換	演習
10	人間にとっての活動	1. 人間にとっての活動とは 1) 活動の意義 2) 活動の種類 2. 活動が生体に与える影響 1) 活動のプロセス 2) 活動の効果 3) 活動制限による影響	講義
11	活動の援助	1. 活動のアセスメント 1) 日常生活動作の分類 2) 活動のアセスメント 2. 援助内容と留意点 1) 歩行の援助 2) 車椅子移乗・移送の援助 3) ストレッチャー移乗・移送の援助	講義
12 ・ 13	移乗・移送演習	1. 車椅子移乗・移送の援助 2. ストレッチャー移乗・移送の援助	演習
14	人間にとっての休息	1. 人間にとっての休息とは 1) 休息の意義 2) 休息の種類 2. 日周期リズムと生体リズム 1) 睡眠の意義 2) 睡眠中の生理的变化 3) 睡眠に影響を与える因子 4) 睡眠の型 3. 休息・睡眠のアセスメント 1) 休息状態の援助 2) 睡眠状態のアセスメント 4. 安楽な休息・睡眠を促す援助	講義
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 講義及び学内演習でおさえた知識の理解度を筆記試験で確認2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>
<p>留意事項：</p> <p>この単元は「環境」「活動・休息」の2つの科目で構成されており、それぞれに講義と演習がある。患者の基本的欲求を充足するための基礎的知識・技術を実践するための重要な科目であるため、講義はもちろんどの演習にも積極的に臨むこと。また、技術は練習しないと身につかない。事前学習はもちろん演習後の事後練習も積極的に実施すること。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>講義や演習・練習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30 に講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護方法論Ⅴ －基本的欲求を充足するための 看護技術 2－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 45 時間（22 回）
履修学年：1 年生		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 栄養・排泄・身体の清潔など人間にとっての基本的欲求を充足するための知識・技術・態度を習得する。			
学習目標： 1. 人間にとっての栄養・排泄の意義と重要性を理解できる。 2. 摂取行動に障害がある人の援助方法を理解し実施できる。 3. 排泄行動に制限のある人への援助方法を理解し実施できる。 4. 日常生活における衣服のもつ意義について理解できる。 5. 健康な生活における清潔の意義を理解できる。 6. 様々な清潔の方法を対象に合わせて選択し、安全・安楽に実施できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	人間にとっての食べることの意義	1. 食事の意義 2. 栄養について 3. 食欲と摂食行動 4. 食事に影響する因子	講義
2	食事援助における看護の役割	1. 患者食の条件 2. 患者食の種類 3. 食事援助の意義 4. 食事摂取状態の観察 5. 食事介助の方法	講義
3	食事介助演習	1. 食事介助の実際	演習
4	経管栄養の基礎知識 胃管の位置確認演習	1. 経管栄養とは 2. 経管栄養の種類 3. 実施に当たっての原則と注意 4. 胃管の位置確認の実際	講義・演習
5	人間にとっての排泄の意義 排泄に関する基礎知識	1. 排泄とは 2. 排泄の意義 3. 排尿・ 排便のメカニズムと排泄行動 4. 便・尿の性状と観察 5. 自然排泄への援助方法	講義
6	排泄障害の基礎知識 排泄行動への援助方法	1. 排泄障害とは 2. 排泄障害の看護 3. 床上排泄の援助	講義
7	床上排泄演習	1. 床上排泄の実際	演習
8	排泄障害に対する援助方法	1. 排尿障害のある患者の看護 1) 導尿の目的と留意点	講義

回数	講義題目	内容	方法
8	排泄障害に対する援助方法	2. 排尿障害のある患者の援助 1) 浣腸の目的と留意点 2) 摘便の目的と留意点	講義
9 10	導尿・浣腸演習	1. 導尿の実際 2. 浣腸の実際	演習
11	吸引の基礎知識 吸引演習	1. 吸引とは 2. 吸引法の種類 3. 吸引の実際	講義・演習
12	人間にとっての清潔・衣生活	1. 健康な生活における清潔・衣生活の意義 2. 清潔・衣生活への援助の必要性 3. 衣類選択と管理における援助 4. 衣類着脱の援助の方法と留意点 5. 衣服の着脱の援助におけるアセスメントの視点	講義
13	身体の清潔	1. 身体（全身）の清潔の目的 2. 援助方法と援助方法の選択	講義
14	部分浴（手浴・足浴） 陰部洗浄	1. 部分浴の目的 2. 手浴・足浴の援助方法、援助方法の選択と留意点 3. 陰部洗浄の目的 4. 陰部洗浄の援助方法、援助方法の選択と留意点	講義
15	部分浴演習	臥症患者の手浴・足浴	演習
16	整容（洗面） 口腔内の清潔	1. 整容の目的 2. 整容の援助方法、援助方法の選択と留意点 3. 口腔内の清潔の目的 4. 口腔内の清潔の援助方法、援助方法の選択と留意点	講義
17	全身清拭・寝衣交換	1. 全身清拭の目的 2. 全身清拭の援助方法と留意点 3. 寝衣交換の援助方法と留意点	講義
18 ・ 19	全身清拭・寝衣交換演習	臥症患者の全身清拭・寝衣交換	演習
20	被髪頭部清潔の基礎知識	1. 被髪頭部の清潔の目的 2. 被髪頭部の清潔の援助方法、援助方法の選択と留意点 3. 洗髪の援助方法と留意点	講義
21 ・ 22	洗髪演習	1. 臥床患者の洗髪の実際	演習
23	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義及び学内演習でおさえ知識の理解度を筆記試験で確認 2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>
<p>留意事項：</p> <p>援助が必要な患者の心理を考え、その意義を理解しながら学習を進める。 演習では看護者としてだけでなく患者役も経験し、患者の心理を考えて実施することも意識して臨むこと。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護方法論Ⅵ －基本的欲求を充足するための 看護技術 3－	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的：基礎看護技術を原理・原則を踏まえて安全・安楽に実施できる。			
学習目標： 1. 基本的な手順に基づいて実施できる。 2. 根拠を明確にし、実施できる。 3. 所定の時間内で実施できる。 4. 対象への細やかな配慮ができる。 5. 対象の安全を第1に考えた行動がとれる。			
回数	講義題目	内容	方法
1 ・ 2	前期技術演習	前期に履修した技術について演習を行う	演習
3 ・ 4	前期技術試験	前期に履修した技術について技術試験を行う	試験
5 ・ 6	後期技術演習	後期に履修した技術について演習を行う	演習
7 ・ 8	後期技術試験	後期に履修した技術について技術試験を行う	試験
評価方法： 基礎的看護技術を原理・原則を踏まえて安全・安楽に実施できているかを、技術評価表を用いて評価する。			
評価基準： 前期技術試験 60 点＋後期技術試験 60 点÷2＝60 点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 「根拠がわかる基礎看護技術」岡崎美智子 角濱春美 メヂカルフレンド社			
留意事項： 各オリエンテーションは全て受け、練習・演習・試験に臨むこと。 専門職として、技術のみにとどまらず、知識・態度にも留意すること。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。			

科目名：看護方法論Ⅶ －診療や検査に伴う看護技術の基本－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 回（30 時間）
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 対象が安全・安楽、かつ正確に検査・薬物療法を受けることができるように看護者としての役割と援助の方法を理解し、実施できる。			
学習目標： 1. 検査の意義と看護の役割が理解できる。 2. 検査に伴う患者の心理が理解できる。 3. 検査に影響を与える因子がわかり、援助方法を理解する。 4. 検査における基本的技術を習得する。 5. 薬物療法における看護師の役割が理解できる。 6. 各与薬法を実施するために必要な基礎知識が理解できる。 7. 正確な知識に基づいて安全かつ安楽な与薬の基本的技術が習得できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	検査を受ける人の看護	臨床検査の目的 検査の種類 検査を受ける人の身体的・心理的影響と看護 検査における看護師の役割 介助の基本 静脈採血を受ける人の看護 尿検査を受ける人の看護	
2	静脈採血・尿検査の看護	静脈採血を受ける人の看護 尿検査を受ける人の看護	
3	静脈採血・尿検査演習	1. 静脈採血の実施 2. 尿検査の実施	
4 ・ 5	穿刺時の看護	穿刺の目的 骨髄穿刺時の看護の方法と留意点 腹水穿刺時の看護の方法と留意点 胸腔穿刺時の看護の方法と留意点 胃液採取の目的 放射線検査及び MRI 時の看護の方法と留意点 放射線治療を必要とする患者の看護	
6	薬物療法における基礎知識 看護者の役割	1. 薬物療法とは 2. 薬物療法の意義・目的 3. 薬物療法に影響する因子 4. 薬物に関する法律 1. 看護者の役割	

回数	講義題目	内容	方法
6	与薬への援助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態の把握 2. 正確な実施 3. 観察・記録・報告 4. 服薬に関する指導 5. 薬物の管理 	
7	薬物療法の種類と特徴・援助の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の適用方法と体内動態 適用方法における作用の違い 2. 経口与薬法（内服法） 3. 口腔内与薬法 4. 直腸内与薬 5. 吸入法 6. 点眼法、塗布・塗擦法 	
8	薬物療法の種類と特徴・援助の方法 ～注射法～	<ol style="list-style-type: none"> 1. 注射における基礎知識 2. 注射における安全安楽上の問題 3. 実施上の原則 4. 援助の方法と留意点 皮内注射・皮下注射・筋肉注射 	
9 ・ 10	皮下注射演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 皮下注射の実施 	
11	薬物療法の種類と特徴・援助の方法 ～注射法 (静脈内注射・点滴静脈内注射)～	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静脈内注射・点滴静脈内注射に おける 基礎知識 2. 援助の方法と留意点 	
12 ・ 13	静脈注射・輸液ポンプの取り扱い 演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. プライミング・ミキシングの実施 2. 留置針・翼状針挿入固定の実施 3. 滴下合わせの実施 4. 静脈内注射施行中の援助の理解 5. 輸液ポンプの取り扱い方法の理解 	
14	輸血の援助と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血における基礎知識 2. 輸血の実際と留意点 	
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 講義及び学内演習でおさえ知識の理解度を筆記試験で確認2. 授業態度、演習態度、課題の提出状況
<p>評価基準：60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院 「根拠がわかる基礎看護技術」岡崎美智子 角濱春美 メヂカルフレンド社</p>
<p>留意事項：</p> <p>人の体表に針を刺す、管を入れるなどの行為は生体に対して侵襲を与えることになる。 目的が明確であり、正確で的確な技術を身につけ、身体的負担および心理的な負担を最小限にする必要がある。このことをしっかり受け止め取り組んでほしい。 看護師等が行う検査や薬物療法は保健師・助産師・看護師法第5条に規定する診療の補助行為の範疇であり、看護師は正しい知識を持ち、確実な技術の習得が必要不可欠である。 検査・薬物療法における看護師の役割や対象の安全・安楽を守るために必要な知識、技術、態度を学んでほしい。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、平日いつでも講師を訪ねてください。</p>

科目名：看護方法論Ⅷ －看護研究と指導技術－		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）・非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的 看護研究：科学的思考に基づいた看護研究の基礎的知識と方法について学習する。 指導技術：患者指導の基本となる地域及び技術・態度を習得できる。			
学習目標 看護研究 1. 看護研究の基本的な方法と研究倫理を理解する。 2. 文献検索の方法と研究への活用方法について理解する。 3. 看護研究の種類と方法について理解する。 4. 自らの研究疑問を用いた看護研究の計画書が作成できる。 指導技術 1. 看護における学習支援の目的と意義を理解する。 2. 健康行動に関連する理論を知り、行動との関係を理解する。 3. 看護場面での学習支援計画が立案できる。 4. 演習を通して患者への学習支援を疑似体験できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	臨床の疑問から研究へ	1. 看護研究とは 2. 看護研究の意義・目的 3. 研究疑問（リサーチクエスション）とは 4. 研究疑問の明確化と研究テーマの選定方法	講義・GW
2	研究と倫理	5. 対象者への倫理的配慮 6. 研究の協力依頼書と同意書 7. 研究活動上の倫理 （責任ある研究行為、不正行為、データの扱い、利益相反など）	講義・GW
臨地実習 ・老年看護学実習Ⅰ ・成人看護学実習Ⅱ			【課題】 臨地実習で研究疑問を探す
3	研究デザインとデータ分析	8. 研究デザインの選択 9. 質的研究と量的研究 10. データ分析	講義・GW
4	研究疑問の焦点化と情報探索	11. 研究疑問の設定 12. 文献検索の方法と整理	講義・GW
5	批判的思考による文献検索検討	13. 論文クリティークとは 14. クリティークの活用方法	講義・GW
6	研究計画書の作成の実際 1	15. 研究計画書の作成方法 16. 研究計画書の作成の実際	講義・GW 【課題】 研究計画書を作成する

回数	講義題目	内容	方法
7	研究の公表	17. 学会発表、論文作成	講義・GW
8	研究計画書の作成の実際2	18. 研究計画書の作成の実際	講義・GW
9	まとめ	19. 研究計画書の発表（数名） 20. 看護研究講義のまとめ	発表・講義
10	看護における学習支援	1. 健康教育の考え方 2. 看護における学習支援 3. 健康にいきることを支える学習支援（健康行動に必要な理論）	講義
11		4. 学習支援（健康教育）の対象者 5. 学習支援（健康教育）におけるアプローチの方法 6. 健康状態の変化に伴う学習支援 7. 学習支援のプロセスに影響を及ぼす要因 8. 学習支援のための教材・媒体の使用 9. 学習支援のプロセス 10. 患者指導時の留意事項	講義
12	学習支援のための計画立案	1. 様々な年齢・疾患の事例紹介 2. 事例ごとに学習グループ編成 3. 事例ごとに患者指導計画の立案	講義・GW
13		1. 患者指導計画の立案 2. グループ学習発表会準備	講義・GW
14	学習支援の実際 （患者指導の疑似体験）	1. 患者指導計画の発表	発表・講義
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義及び学内演習でおさえた知識の理解度を筆記試験で確認 2. 授業態度・演習態度、課題の提出状況
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト：</p> <p>看護における研究 第2版 南裕子・野嶋佐由美 日本看護協会出版会 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ 医学書院</p> <p>推奨参考文献：</p> <p>黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版 黒田裕子 医学書院 2017 看護研究のための文献検索ガイド 第4版 山崎茂明 日本看護協会出版会 2010 Start Up 質的看護研究 第2版 谷津裕子 学研 2015</p>
<p>留意事項：</p> <p>この単元は、「看護研究」「指導技術」2つの科目で構成されている。看護を受ける患者はもとより、看護に携わる人にとっても看護に関連した疑問を、理論的・科学的根拠をもって明らかにするためには、「看護研究」は必要不可欠である。また、患者が退院後の日常生活に戻っていくためには、各理論を理解し活用しながら患者指導の実践ができるよう学びを深めていかなければならない。「指導技術」の後半にグループ発表で学習支援を疑似体験する。個々の患者のための学習支援のプロセスを学ぶ重要な時間である。</p>
<p>学習サポートの方法</p> <p>看護研究：講義内容に関する質問等は、講義時間内および講義直後に対応します。 指導技術：講義や演習・練習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30に講師を訪ねてください。</p>

基礎看護学実習 (臨地実習)

1. 実習時間

内 訳	時 期	時 間	単 位
基礎看護学実習Ⅰ	1年次7月	45 時間	1 単位
基礎看護学実習Ⅱ	1年次2月	90 時間	2 単位

2. 基礎看護学実習のねらい

看護の対象を把握し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。

3. 基礎看護学実習Ⅰ

1) 実習目的

患者の入院生活の実際に触れ、今後の学習の導入とする。

2) 実習目標

- (1) 病院の機能・役割を知る。
- (2) 看護活動の実際を知る。
- (3) 入院患者の生活の場を知る。
- (4) 患者と接して入院生活の実際を知る。
- (5) 受け持ち患者に行われている看護場面を観察する。
- (6) 対象に接近する方法について理解する。
- (7) 看護学生としての基本的な態度を身につける。

4. 基礎看護学実習Ⅱ

1) 実習目的

対象の基本的ニーズを把握し、対象に必要な生活行動に関する援助を実施する。

2) 実習目標

- (1) 必要な情報を意図的かつ系統的に収集できる。
- (2) 収集した情報をアセスメントガイドに沿って整理できる。
- (3) 整理した情報を基本的ニーズの充足した状態から分析・解釈できる。
- (4) 対象の生活行動を援助するための焦点アセスメントが実施できる。
- (5) 対象の看護上の問題（看護診断）を導き出すことができる。
- (6) 対象に応じた日常生活援助が実施できる。
- (7) 対象に応じた看護の実際を知る。
- (8) 看護師としての基本的な態度を身につける。

専 門 基 礎 分 野Ⅱ

各看護学の看護の対象と目的の理解、予防、健康の回復・保持増進および疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学び、臨床実践能力を養う。

成人看護学

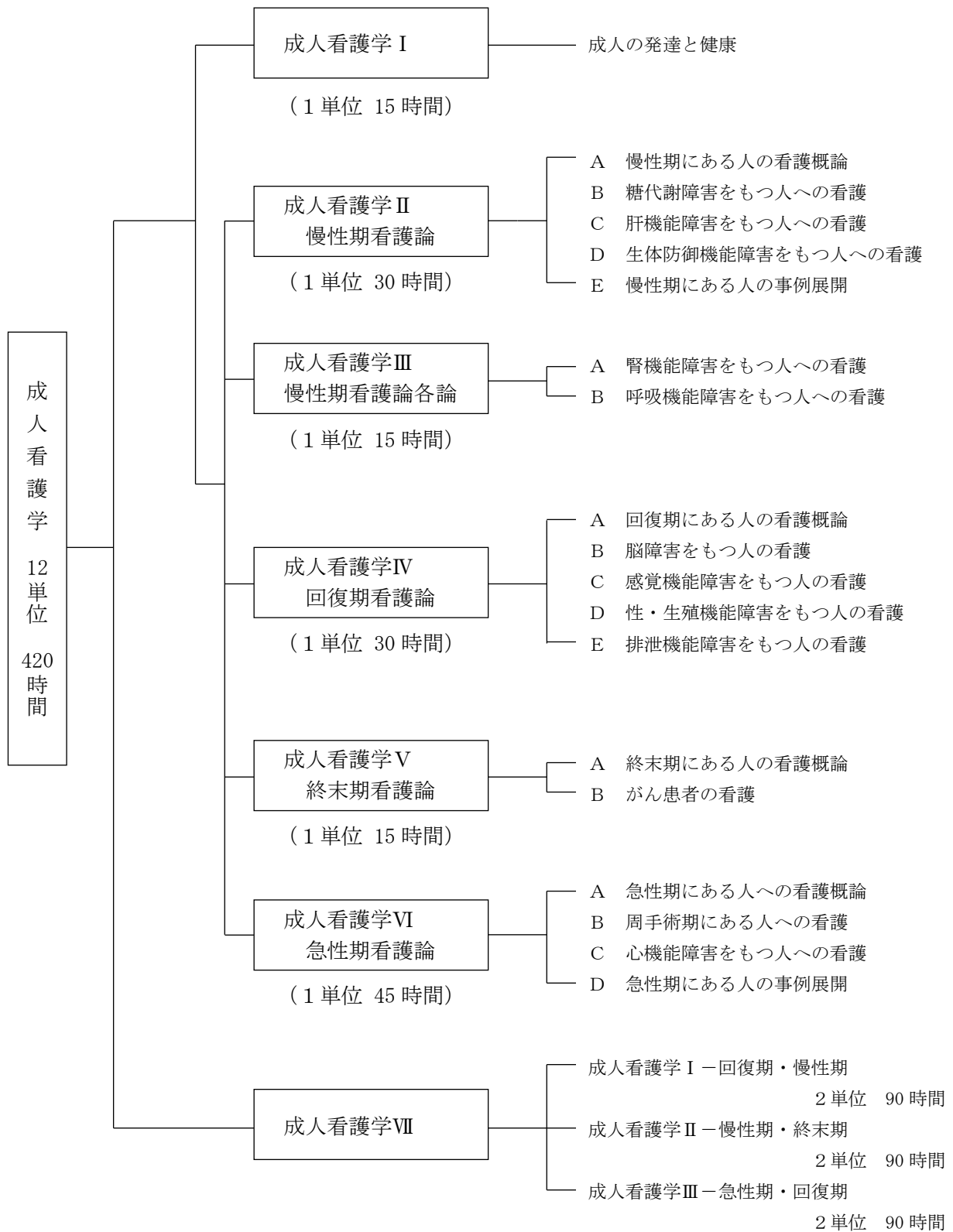
単 位 12 単位 (420 時間)

学習目的 人生の活動期にある成人期の人々を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・促進および健康障害時の看護を実践する能力を養う。

学習目標

1. 成人期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴および発達段階をふまえて、対象を捉える能力を身につける。
2. 成人期にある対象の様々な健康の段階を理解し、それぞれの対象の健康に影響を与える諸因子を理解できる。
3. 成人期にある人の健康上の問題を科学的根拠に基づいて判断し、実践するために必要な知識、技術、態度を身につける。
4. 保健医療福祉チームの一員としての役割、責任を自覚するとともに、人間としての自己成長を大切にできる。

成人看護学の構造図



科目名： 成人看護学Ⅰ（成人の発達と健康）	履修単位： 1単位	講義時間（回数）： 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 成人看護学の対象である成人期にある人の生活と健康を理解し、看護の役割を学ぶ。			
学習目標： 1. 成人期にある人の身体的精神的社会的特徴および発達課題について理解できる。 2. 成人期にある人の生活環境を理解できる。 3. 成人期にある人の健康の動向、成人期の特徴や生活環境と関連させて、健康課題を理解できる。 4. 成人期にある人の健康を増進するための対策が理解できる。 5. 成人看護学の対象者のとらえ方を理解し、看護の役割が理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1 2 3	成人期の特徴 成人期にある人の生活環境	1. ライフサイクルの中の成人各期の身体、精神、社会的特徴・発達課題 2. 家族・学校・職場・地域・個人の生活環境と生活スタイル 3. 生活が健康に与える影響・健康障害が生活に与える影響	講義
4 5 6	成人期にある人の健康と課題	1. 健康とは 2. 成人期の健康課題 1) 保健の動向と疾病概況 人口構成・平均寿命と健康寿命 有病率・受療率・有訴者率 死亡の動向 2) 生活習慣がもたらす健康課題と予防 3) 労働に関する健康課題 4) ストレスに関する健康課題 5) 更年期に関する健康課題 6) セクシュアリティに関する健康障害 7) 健康増進	講義
7	成人看護学の対象のとらえ方	1. 健康レベル 2. 看護の役割	講義
	終了試験		試験

<p>評価方法： 終了試験・提出物・授業への参加状況 100点</p>
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト： 1. 成人看護学 成人看護学概論：編集 大西和子、岡部聡子；NOUVELLE HIROKAWA 2. 国民衛生の動向；財団法人厚生統計協会</p> <p>参考文献： 1. シリーズ生活を支える看護 日本人の生活と看護：坂田三允；中央法規出版会 2. 生涯人間発達論－人間への深い理解と愛情を育むために：服部祥子；医学書院 3. 健康行動理論の基礎－生活習慣病を中心に：松本千明；医歯薬出版株式会社 4. 健康行動理論 実践編－生活習慣病の予防と治療のために：松本千明；医歯薬出版株式会社 5. ライフスタイル療法－生活習慣改善のための行動療法 第2版： 足立淑子；医歯薬出版株式会社</p>
<p>留意事項： 成人看護学Ⅰで学習する内容は、成人期にある対象を理解するうえでの基本的な知識となります。積極的に学習に臨みましょう。</p>
<p>学習サポートの方法： 学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。</p>

科目名： 成人看護学Ⅱ（慢性期看護論）	履修単位： 1単位	講義時間（回数）： 30時間（15回）	
履修学年：2年次	開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 慢性期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、対象が生活調整を行うための看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 慢性期にある人の身体・心理・社会的特徴を理解する。 2. 慢性期にある人の生活調整のために必要な理論について理解する。 3. 慢性期にある人の心身の特徴を呼吸機能・内部環境調節機能・栄養代謝機能・生体防御機能に障害をもつ人の看護を通して理解する。 4. 慢性期にある人の主要症状の病気メカニズムと生活への影響について理解する。 5. 慢性期にある人の検査、治療、処置について理解する。 6. 慢性期にある人の生活調整のためのアセスメントと看護援助が理解できる。 7. 慢性期にある人やその家族への心理的・社会的支援について社会資源の活用を含め理解できる。 8. 健康障害が慢性期にある人の事例を通して、慢性期の特徴をとらえた看護過程が理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1 2	(Ⅱ-A) 生涯、生活調整を必要とする人の看護概論	1. 慢性期にある人の心身の特徴 2. 慢性期にある人の家族の理解 3. 生活調整と看護の役割 4. 疾病の受容過程と看護援助 5. 生活調整を促すために必要な理論	講義
3 4	(Ⅱ-B) 糖代謝障害をもつ人への看護	1. 糖代謝障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 糖代謝障害のメカニズムと生活への影響 3. 糖代謝障害に関連した検査・治療 4. 糖代謝障害をもつ人への看護援助 1) 心理面の援助 2) 教育的アプローチ	講義
5		血糖測定演習	演習
6 7	(Ⅱ-C) 肝機能障害をもつ人への看護	1. 肝機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴 2. 肝機能障害のメカニズムと生活への影響 3. 肝機能障害に必要な検査・治療 4. 肝機能障害をもつ人への看護援助 1) 肝不全の症状と看護 2) 治療と看護	講義

回数	講義題目	内容	方法
8	(Ⅱ-D) 生体防御機能障害をもつ人への 看護	1. 生体防御機能障害をもつ人の 身体・心理・社会的特徴 2. 膠原病をもつ人の看護援助	講義
9		1. 免疫機能障害をもつ人の身体・ 心理・社会的特徴 2. HIV/AIDS感染症をもつ人の 看護援助	講義
10 11 12 13 14	(Ⅱ-E) 事例展開	慢性期にある成人の事例において 看護過程を展開する。	講義 GW 発表
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>1) と 2) を合算 100 点</p> <p>1) A～D 終了試験・提出物・授業への参加状況 80 点</p> <p>2) E 課題レポートと取り組み 20 点</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト：</p> <p>A) 1. 成人看護学 成人看護学概論：編集) 大西和子、岡部聡子；NOUVELLE HIROKAWA 2. 臨床看護学叢書経過別看護：川島みどり；メヂカルフレンド社</p> <p>B) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (6) 内分泌・代謝；医学書院 2. 本糖尿病学会編 糖尿病食事療法のための食品交換表；日本糖尿病協会</p> <p>C) 1. 系統看護学講座 成人看護学 (5) 消化器；医学書院 2. 系統看護学講座 成人看護学 (4) 血液造血器；医学書院</p> <p>D) 系統看護学講座 成人看護学 (11) アレルギー・膠原病・感染症；医学書院</p> <p>E) 事例に関するテキスト</p> <p>参考文献：</p> <p>1. 生活調整を必要とする人の看護Ⅰ：奥宮暁子編集；中央法規</p> <p>2. 生活調整を必要とする人の看護Ⅱ：奥宮暁子編集；中央法規</p>			
<p>留意事項：</p> <p>1. 成人看護学Ⅱは人体の構造と機能、疾病、検査、薬理作用など今までの学習が基盤となります。関連した科目の事前学習を行い講義に臨みましょう。</p> <p>2. 演習・事例展開については事前に要領を配付します。</p> <p>3. グループワークでは、お互いに活発に意見交換を行い、学習を深めていきましょう。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に対する質問は、直接担当教員に尋ねてください。</p>			

科目名： 成人看護学Ⅲ（慢性期看護各論）	履修単位： 1単位	講義時間（回数）： 15時間（7回）	
履修学年：2年次	開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 慢性期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、対象が生活調整を行うための看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 慢性期にある人の心身の特徴を呼吸機能・内部環境調節機能・栄養代謝機能・生体防御機能に障害をもつひとの看護を通して理解する。 2. 慢性期にある人の主要症状の病気メカニズムと生活への影響について理解する。 3. 慢性期にある人の検査、治療、処置について理解する。 4. 慢性期にある人の生活調整のためのアセスメントと看護援助が理解できる。 5. 慢性期にある人やその家族への心理的・社会的支援について社会資源の活用を含め理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	(Ⅲ-A) 腎機能障害をもつ人への看護	腎機能障害のメカニズムから生活への影響について考え、腎機能障害をもつ人の身体・心理・社会的特徴を学ぶ。	講義
2		腎機能障害に必要な検査と治療および腎機能障害をもつ人への看護援助について学ぶ。	講義
3		透析療法を受ける患者の看護について学ぶ。	講義
4	(Ⅲ-B) 呼吸機能障害をもつ人への看護	呼吸機能障害のメカニズムと症状から生活への影響について考え、呼吸障害を持つ人の身体・心理・社会的特徴を学ぶ。	講義
5		呼吸機能障害に関連した検査・治療について呼吸器疾患を踏まえながら学ぶ。そこから呼吸機能障害のある人の看護を考える。	講義
6		呼吸障害をもつ人への看護援助について学ぶ。	講義
7		呼吸に関する援助技術 排痰法、呼吸訓練、酸素療法	演習
	終了試験		試験

<p>評価方法： 終了試験・提出物・授業への参加状況 100点</p>
<p>評価基準： 60点以上で単位習得</p>
<p>テキスト： A) 系統看護学講座 成人看護学 (8) 腎・泌尿器；医学書院 B) 系統看護学講座 成人看護学 (2) 呼吸器；医学書院</p> <p>参考文献： 1. 生活調整を必要とする人の看護Ⅰ 奥宮暁子編集；中央法規 2. 生活調整を必要とする人の看護Ⅱ 奥宮暁子編集；中央法規</p>
<p>留意事項： 1. 成人看護学Ⅲは人体の構造と機能、疾病、検査、薬理作用などこれまでの学習が基盤となります。関連した科目の事前学習を行い講義に臨みましょう。 2. 演習については事前に要領を配布します。</p>
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30の間に講義者を訪ねてください。</p>

科目名： 成人看護学Ⅳ（回復期看護論）		履修単位： 1 単位	講義時間（回数）： 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：前期	
担当講師： 専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的： 回復期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、生活を再構築するための看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 対象の持つ障害と能力をアセスメントするために必要な知識と技術を理解できる。 2. 障害の回復過程で起こる身体・心理・社会的な問題の広がりや家族への影響を理解する。 3. 自己概念の混乱をきたす要因と心理過程を理解し自己価値を支える看護について理解する。 4. 回復期にある人の心身の特徴を脳・運動・高次脳機能・感覚機能障害・性・生殖機能・排泄機能障害をもつ人、ボディイメージの変化に適応していく人を通して理解する。 5. 回復期にある人の主要症状・障害のメカニズムと生活への影響について理解する。 6. 回復期にある人の検査・治療について理解する。 7. 回復期にある人が生活の再構築をするためのアセスメント、看護援助が理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1 2	(Ⅳ-A) 回復期にある人の看護概論	1. 回復期にある成人とその家族の理解 2. 生活の再構築と障害受容プロセスの看護 3. ボディイメージの障害と自己概念 4. 回復に向けての看護	講義
3 4 5 6 7 8	(Ⅳ-B) 脳障害を持つ人の看護	1. 脳障害がもたらす身体的・心理・社会的特徴 2. 主要症状・障害のメカニズムとそれに伴う身体的変化と生活への影響 1) 頭蓋内圧亢進における看護 2) 意識障害における看護 3) 運動機能障害における看護 4) 高次脳機能障害における看護 3. 脳障害に関連した検査・治療 4. 開頭術を受ける人の看護	講義 GW
9 10	(Ⅳ-C) 感覚機能障害をもつ人の看護	1. 感覚機能障害を持つ人の身体的・心理的・社会的特徴 2. 主要症状・障害のメカニズムと生活への影響 3. 感覚機能障害に関連した検査・治療 4. 機能障害のある人への援助と指導	講義 GW

回数	講義題目	内容	方法
11 12	(IV-D) 性・生殖機能障害をもつ人の看護	1. 乳がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導 2. 子宮がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導 3. 前立腺がんをもつ人の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導	講義
13 14	(IV-E) 排泄機能障害をもつ人の看護	人工肛門造設術を受ける患者の看護 1) 治療と看護 2) 障害に伴う生活調整と指導	講義 講義内演習
15	まとめ・終了試験		試験

評価方法：終了試験・提出物・授業への参加状況 100点

評価基準：60点以上で単位修得

テキスト・参考文献：

- A) 1. 成人看護学 成人看護概論：編集）大西和子、岡部聡子；NOUVELLE HIROKAWA
2. 臨床看護学叢書 経過別看護：監修）川島みどり、菱沼典子；メヂカルフレンド社
- B) 1. 系統別看護学講座 成人看護学（7）脳神経；医学書院
系統別看護学講座 別巻臨床外科看護各論；医学書院
2. 系統別看護学講座 成人看護学（10）運動器；医学書院
- C) 系統別看護学講座 成人看護学（13）眼；医学書院
- D) 1. 系統別看護学講座 成人看護学（9）女性生殖器；医学書院
2. 系統別看護学講座 成人看護学（8）腎・泌尿器；医学書院
- E) 1. 系統別看護学講座 成人看護学（5）消化器；医学書院
2. 系統別看護学講座 別巻臨床外科看護各論；医学書院

参考文献：

1. ナーシング・グラフィカ（24）成人看護学 セルフケアの再獲得；メディカ出版
2. 脳血管障害による 高次機能障害 ナーシングガイド；小山珠美；日総研
3. 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅰ；奥宮暁子編集；中央法規
4. 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅱ；奥宮暁子編集；中央法規

留意事項：

1. 成人看護学Ⅳは看護を学ぶ上で既習学習である解剖生理・疾病論の知識が必要不可欠です。講義前に人体の構造と機能、病態・疾患・治療の事前学習をして講義に臨んでください。
2. 講義だけでなく講義内GW・演習も行います。看護を理解し、実践を想定した学習を修得するには互いの活発なGWが重要となります。積極的な姿勢で取り組んでください。

学習サポートの方法：

学習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30に講師を訪ねてください。

科目名： 成人看護学Ⅴ（終末期看護論）	履修単位： 1単位	講義時間（回数）： 15時間（7回）	
履修学年：2年次	開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 終末期にある成人の身体・心理・社会的特徴を理解し、人生の終焉をよりよく生きるための看護援助を学ぶ。			
学習目標： 1. 終末期にある人とその家族の特徴、緩和ケアの定義、QOLの意味を理解する。 2. がんの特徴とがん看護の特殊性を知り、がん治療時の看護、全人的な痛みと緩和ケアを理解する。 3. よりよい生と死を支えるためのQOLを高める看護、平安な死の看取りを理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1 2	(V-A) 終末期にある人の看護概論	1. 終末期にある人とその家族の理解 1) 緩和ケアの定義とQOLの理解 2) 全人的苦痛 3) 死の受容過程 2. ホスピス	講義
3	(V-B) がん患者の看護	1. がんの治療と看護 1) がんの疫学・発がん機序 2) がんによる心身・生活への影響 3) がん看護の特徴と看護の役割 2. 化学療法と看護 1) 化学療法の適応と特徴 2) 化学療法の副作用と看護 3. 放射線治療と看護 1) 放射線治療の適応と特徴 2) 放射線治療の副作用と看護	講義
4 5 6 7		1. 全人的苦痛と緩和ケアの理解 1) 身体的苦痛 2) がんによる身体症状とマネジメント 3) WHO方式がん疼痛治療法 4) 精神的苦痛 5) 社会的苦痛 6) 霊的苦痛 7) 代替療法 8) 臨死期の看護 2. 家族の看護	講義
	終了試験		試験

<p>評価方法： 終了試験・出席状況・提出物 100点</p>
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト： A) 1. 臨床看護学双書 経過別看護：川島みどり、菱沼典子；メヂカルフレンド社 2. 成人看護学 F. 終末期にある患者への看護；廣川書店 B) 3. 成人看護学 E. がん患者の看護；廣川書店 4. 成人看護学 F. 終末期にある患者への看護；廣川書店</p> <p>参考文献： 1. 緩和・ターミナルケア看護論；NOUVELLE HIROKAWA</p>
<p>留意事項： 成人看護学は人体の構造と機能・疾病・検査・薬理作用など今までの学習が基盤となります。関連した科目の事前学習を行い講義に臨みましょう。</p>
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問は、直接担当教員に尋ねてください。</p>

科目名： 成人看護学Ⅵ（急性期看護論）		履修単位： 1単位	講義時間（回数）： 45時間（22回）
履修学年：2年次		開講時期：後期	
担当講師： 専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的： 急性期にある成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生体機能の安定・回復にむけた看護援助の基本を学ぶ。			
学習目標： 1. 急性期にある人の心理的・身体的反応と家族への影響を理解する。 2. クリティカルケアを要する人の状況や病態を理解し、生命維持に必要な基本的な治療、処置について理解する。 3. 急性期にある人の心身の特徴を手術療法、急性疾患の発症をとおり理解する。 4. 急性期にある人に必要な検査、治療、処置について理解する。 5. 急性期にある人に必要な検査、治療、処置に伴う看護について理解する。 6. 急性期にある人やその家族へ身体・心理的な支援のために必要な看護の役割や援助について理解する。 7. 急性期にある人の事例において看護過程の展開ができる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	(Ⅵ-A) 急性期にある人の看護概論	急性期にある人の身体的・心理的・社会的特徴	講義
2 3 4 5 6 7	(Ⅵ-B) 周手術期にある人への看護 1) 周手術期看護概論	1. 周手術期看護の概念 2. 看護の役割 3. 手術前の看護 1) 手術前看護の目標 2) 手術前看護のアセスメントと看護活動 4. 手術中の看護 1) 手術中看護の特徴 2) 手洗い看護師、外回り看護師 5. 手術直後の看護 1) 手術直後の患者の状態と看護 2) 術後合併症と予防のための看護	講義 講義内演習 GW
8		術後観察の手順と方法	演習
9 10	2) 開腹術を受ける人への看護	1. 開腹術を受ける人の身体的・心理的・社会的特徴 1) 病気のメカニズム 2) 治療・検査 3) 前のアセスメントと看護援助 4) 合併症予防・不安の緩和 5) 術後急性期のアセスメントと看護援助 6) 合併症予防・術後疼痛緩和・早期離床 2. 術後回復期のアセスメントと看護援助	講義

回数	講義題目	内容	方法
11	3) 開胸術を受ける人への看護	1. 開胸術を受ける人の身体的・心理的・社会的特徴 1) 病気のメカニズム 2) 治療・検査 3) 術前のアセスメントと看護援助 合併症予防・不安の緩和 4) 術後急性期のアセスメントと看護援助 (1) 合併症予防 (2) 術後疼痛緩和 (3) 早期離床 2. 術後回復期のアセスメントと看護援助	講義
12 13 14 15 16	(VI-C) 心機能障害をもつ人への看護	1. 心機能障害に関する基礎知識 病気・検査・治療 2. 心不全患者の急性期～回復期の看護 3. 急性心筋梗塞患者の急性期～回復期の看護 4. 開心術を受ける人の看護 5. ペースメーカー挿入時の看護 6. 心電図モニターを装着している人の看護	講義 講義内演習
17 18 19 20 21 22	(VI-D) 急性期にある人の事例展開	手術を受ける患者の事例を用いての看護過程の展開	GW 発表
	終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <p>1) と 2) を合算 100 点</p> <p>1) A～C 終了試験・提出物、授業への参加状況 80 点</p> <p>2) D 事例展開の課題と取り組み 20 点</p>
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト：</p> <p>A) 1. 成人看護学 成人看護学概論；NOUVELLE HIROKAWA</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論；医学書院</p> <p>3. 臨床看護学叢書経過別看護；メヂカルフレンド社</p> <p>B) 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論；医学書院</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論；医学書院</p> <p>3. 系統看護学講座 成人看護学（5）消化器；医学書院</p> <p>4. 系統看護学講座 成人看護学（2）呼吸器；医学書院</p> <p>C) 1. 系統看護学講座 成人看護学（3）循環器；医学書院</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論；医学書院</p> <p>D) 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論；医学書院</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論；医学書院</p> <p>3. 系統看護学講座 成人看護学（5）消化器；医学書院</p> <p>参考文献：</p> <p>1. 外科系実践的看護マニュアル；川島みどり；看護の科学社</p> <p>2. 講義から実習へ周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護： 竹内登美子編；医歯薬出版株式会社</p> <p>3. 講義から実習へ周手術期看護 2 術中/術後生体反応と急性看護： 竹内登美子編；医歯薬出版株式会社</p> <p>4. 講義から実習へ周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護： 竹内登美子編；医歯薬出版株式会社</p> <p>5. 生活をささえる看護 クリティカルケアを必要とする人の看護： 深谷智恵子・藤野彰子；中央法規出版</p>
<p>留意事項：</p> <p>1. 成人看護学は看護を学ぶ上で既習学習である解剖生理・疾病治療総論・疾病治療論・薬理作用などの知識が必要不可欠です。</p> <p>2. 演習・事例展開については事前に要領を配付します。</p> <p>3. 講義だけでなく講義内 GW・演習も行います。看護を理解し、実践を想定した学習を修得するには互いの活発な GW が重要となります。積極的な姿勢で取り組んでください。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9：00～17：30に講師を訪ねてください</p>

成人看護学Ⅶ

(臨地実習)

単 位 6単位 (270時間)

学習目的 あらゆる健康段階にある成人とその家族との人間関係を成立させ、総合的に理解し、既得の知識、技術を適応して対象に応じた適切な援助ができる能力を習得する。

学習目標

1. 健康障害が成人期にある対象およびその家族に及ぼす影響を理解できる。
2. 急性期、回復期、慢性期、終末期にある対象を理解し、看護上の問題を判断して個別的な解決法を計画し、実施、評価できる。
3. 成人期にある対象および家族との人間関係を成立し、援助的なかかわりができる。
4. 継続看護の必要性和援助の実際を理解できる。
5. 保健医療福祉チームの一員としての看護者の役割を理解できる。

実習方法 急性期・回復期・慢性期・終末期にある対象を受け持ち看護を展開する。

老 年 看 護 学

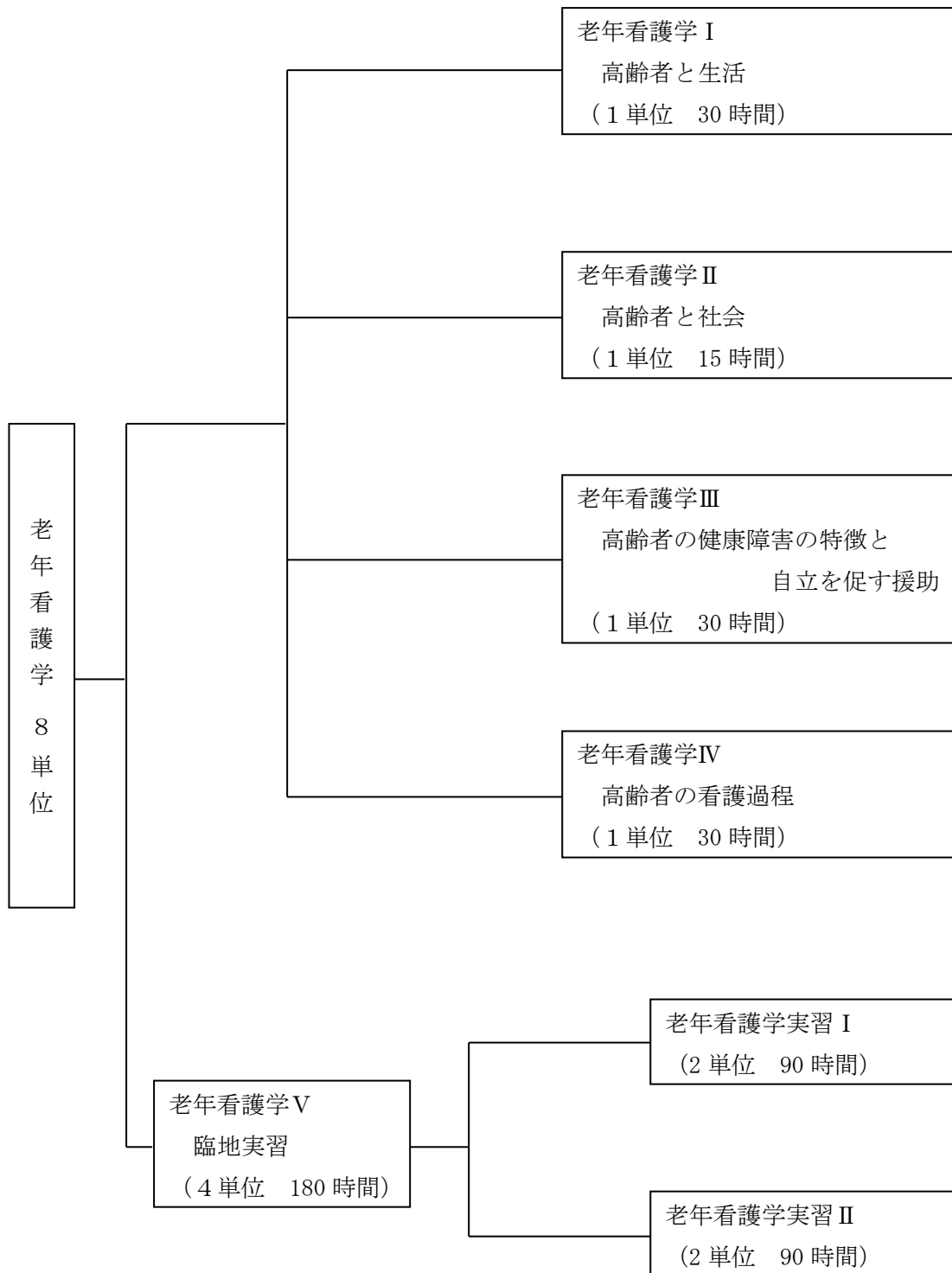
単 位 8単位（285時間）

学習目的 老年期にある人々の生きてきた道のを基盤に、その特徴を理解し加齢に応じた援助と健康障害を持つ高齢者の看護、およびその高齢者・家族への援助を学ぶ。

学習目標

1. 老年期にある人々の発達の過程を知り、加齢による身体的、精神的、社会的な特徴を理解する。
2. 健康な高齢者の日常生活の意義について理解し、保健活動と看護の役割について学ぶ。
3. 健康障害を持つ高齢者について理解し、その看護と家族への援助を学ぶ。
4. 老年期の人々に対して生命の尊厳と、尊敬の念を持ち行動できる能力と態度を養う。
5. 高齢者が能動的に社会参加できるような環境づくりについて学ぶ。
6. 老人医療、福祉行政のあり方が、高齢社会の中の高齢者にとってどのような意味を持つのか、保健活動、看護師の役割を含めて理解する。

老年看護学の構造



科目名：老年看護学Ⅰ 高齢者と生活		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 1. ライフステージにおける老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象である高齢者を理解する。 2. 高齢者の健康を維持・増進するための援助について学ぶ。			
学習目標： 1. ライフステージにおける老年期を理解できる。 2. 老年期にある人々の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 3. 高齢者の身体的・精神的・社会的変化とその特徴を理解し、これらが高齢者の日常生活にもたらす影響について考えられる。 4. 加齢に伴う変化の日常生活への影響をふまえ、高齢者の健康を維持・増進するための援助を考えることができる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	高齢者と老年期の特徴	1. 高齢者・老年期の定義 2. 高齢者の健康状態 3. 高齢者を取り巻く社会環境の変化	講義
2	高齢者模擬体験	加齢による身体的な変化（筋力、視力、聴力などの低下）を知り、高齢者に対する関わり方を体験的に学ぶ	演習
3	高齢者の身体的機能の変化	1. 健康をおびやかす力と守る力 2. 呼吸・循環・消化・吸収	講義
4		3. 腎・泌尿器・内分泌・感覚器・運動器	講義
5	高齢者の社会的機能の変化・精神的機能の変化	1. 社会的役割・地位の変化 2. 家庭における役割の変化 3. 経済的変化と高齢者の生活 4. 知的能力の変化 5. 高齢者の情緒・人格の変化と心理的背景 6. 老いの自覚	講義
6	体験学習	老人いこいの家、老人福祉センターで健康な高齢者の生活を理解する	施設での体験学習
7			
8			
9	生活史	1. 生活史とは 2. 生活史に着目する意義	講義

回数	講義題目	内容	方法
10	加齢に伴う変化の日常生活への援助	1. 高齢者の日常生活 1) コミュニケーション 2) 食生活と栄養 3) 活動 4) 睡眠と休息 5) 排泄 6) 環境 7) 清潔・衣生活	講義
11			GW
12			GW
13			発表
14			
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>次の1)、2)、3)、4)を合算し100点満点とする</p> <p>1) 終了試験(90%)</p> <p>2) レポート・提出物(5%)</p> <p>3) 授業の参加状況・態度5(%)</p> <p>4) グループで作成した資料・発表の内容・グループワークの参加状況</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位習得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ</p> <p>国民衛生の動向 2021～2022年度版 厚生統計協会</p> <p>高齢者福祉のしおり 令和3年度版</p>			
<p>留意事項：</p> <p>老年看護学Ⅰでは、講義のほかに体験学習により地域で生活する高齢者とのふれあいを通して、ライフステージにおける老年期を理解して欲しい。また、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を捉えながら、健康の維持、増進に向けた日常生活支援について学んで欲しい。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：老年看護学Ⅱ 高齢者と社会	履修単位 1単位	講義時間 15時間（7回）	
履修学年：1学年	開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の現状と対策を学ぶ。			
学習目標： 1. 超高齢社会の到来が社会に与える影響と日常の様々な出来事との関連性を理解できる。 2. 高齢者をめぐる保健福祉対策の背景・動向について理解できる。 3. 高齢者をめぐる保健福祉対策の基本方針をふまえ、具体的な施策内容を理解できる。 4. 高齢者のニーズに応じた看護活動の場と、その看護ケアの特徴について理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	高齢者と社会	1. 高齢者の統計的輪郭 1) 高齢者のくらし (1)経済状態 (2)住まい (3)就業 (4)社会参加・教育ニーズ	講義
2	高齢社会と社会保障（1）	1. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者保健医療福祉の変遷 2) 高齢者医療確保法 3) 介護保険制度の概要 4) 介護サービス（施設） 5) 介護予防の位置づけ 6) 新オレンジプラン	GW
3			発表
4	高齢社会と社会保障（2）	2. 高齢者とソーシャルサポート 1) 地域包括ケアシステム 2) 高齢者を支える職種と活動の多様化	講義
5	高齢者の権利擁護（1）	1. 高齢者虐待	講義
6	高齢者の権利擁護（2）	2. 高齢者に対するスティグマと差別 3. 権利擁護のための制度 1) 成年後見制度 2) 日常生活自立支援事業	講義
7	高齢者に対する看護	1. 高齢者看護の活動の場 2. 老年看護の役割 3. 老年看護に関わるものの責務	講義 GW
	終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <p>次の1)、2、) 3) を合算し100点満点とする</p> <p>1) 終了試験(90%) 2) 提出物(5%) 3) 授業の参加状況・態度(5%)</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位習得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 2021～2022</p>
<p>留意事項：</p> <p>この授業では、超高齢社会にある現在の情勢に目を向けるために、新聞やニュースにも興味を持って臨むこと。また、様々な社会保障や関係法規についても学ぶので、講義の前にテキストを熟読し臨むことをお勧めいたします。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>

科目名：老年看護学Ⅲ 高齢者の健康障害の特徴と 自立を促す援助		履修単位 1 単位	講義時間 30 時間 (15 回)
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）4、5、6、8、9回			
学習目的： 1. 健康障害を持つ高齢者を理解し、治療処置・健康段階に応じた看護について学ぶ 2. 認知症高齢者の症状・特徴を学習し認知症高齢者とその家族への援助を知る			
学習目標： 1. 加齢による機能の変化と健康障害の関連性が理解できる 2. 高齢者に特徴的な症状・疾患に対する看護について理解できる 3. 医療的援助を受ける高齢者と看護について理解できる 4. 認知症の病態や症状と高齢者に現れる生活上の課題を理解することができる 5. 認知症高齢者の実際の生活を理解し、支援の方法を考えることができる 6. 健康障害にある高齢者の健康段階に応じた看護について理解できる 7. 高齢者の死について考え、死の看取りの援助を理解できる			
回数	講義 題 目	内 容	方 法
1	高齢者の健康障害の特徴	1. 高齢者の疾病をめぐる特徴 2. 高齢者のアセスメント	講義
2	高齢者に多い主要疾患 主要症状とその看護(1)	1. 骨折 1) 高齢者に多い骨折 2) 大腿骨頸部骨折 2. 骨粗鬆症 3. 転倒予防 4. 身体拘束	講義
3		演習1. 良肢位の取り方・抑制 演習2. 嚥下機能訓練・とろみ摂取体験	演習
4		5. 嚥下障害 6. 肺炎	講義
5		7. 前立腺肥大症 8. 白内障	講義
6		9. 脳梗塞 10. 脱水	講義
7		11. パーキンソン症候群	講義

回数	講義題目	内容	方法
8	認知症高齢者の看護	1) 認知症とは 2) 認知症の臨床像 3) 認知症の評価 4) 認知症の症状 5) BPSD と看護の考え方 6) 認知症看護の基本姿勢 7) 家族への支援 8) 認知症高齢者の日常生活 9) 日常生活への援助 ①コミュニケーション ②食事 ③排泄 ④清潔 ⑤更衣 ⑥睡眠 10) 施設での認知症高齢者への看護の特徴	講義
9			講義
10	医療的援助と看護	1. 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
11		2. 検査を受ける高齢者の看護 3. 手術療法を受ける高齢者の看護	講義
12	高齢者に多い主要疾患 主要症状とその看護(2)	1. 廃用症候群 2. 褥瘡 3. 静脈血栓症	講義
13	老年期における 健康段階と看護	1. 高齢者および家族の看護	講義
14		2. 健康段階と看護 ①急性期 ②リハビリテーション期 ③慢性期 ④終末期	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>次の1)、2、) 3) を合算し100点満点とする</p> <p>1) 終了試験(100%) 2) 提出物(減点) 3) 授業の参加状況・態度(減点)</p>			
<p>評価基準：60点以上で単位習得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 ニューヴェルヒロカワ 認知症ケアガイドブック 日本看護協会</p>			
<p>留意事項：</p> <p>老年看護学Ⅲでは、健康障害を持つ高齢者・認知症の高齢者を理解しながら、各健康段階における看護を学んで欲しい。また、多数の演習を取り入れながら自立を促す援助を学び、実習の場で活用できるような基礎的知識と技術を習得して欲しい。また認知症高齢者の看護については、老年看護学実習Ⅰでの学習の基盤になります。事前学習や復習など積極的に授業に臨んでください。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：老年看護学Ⅳ 高齢者の看護過程		履修単位 1単位	講義時間 30時間（15回）	
履修学年：2学年		開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）				
学習目的： 1. 健康障害を持つ老年期の対象を理解し、健康段階に応じた看護を考える。				
学習目標： 1. 高齢者の特徴を捉えた生活援助技術を理解する。 2. 老年期に特徴的な疾患を理解し、看護過程が展開できる。 3. 老年期の特徴を捉え、看護の方向性を明確化し診断が導き出せる。 4. 対象に必要な援助の実際を考えることができる。 5. 健康障害にある高齢者とその家族の特徴について理解できる。 6. 個人学習、グループワークを通し学びが深められる。				
回数	講義題目	内容	方法	
1	高齢者の特徴を捉えた生活援助技術	演習1. 口腔ケアと義歯の管理	演習	
2		演習2. 排泄援助 爪切り		
3	高齢者の特徴を捉えた看護過程	概要	講義	
4		第1段階アセスメント	発表・講義	
5		関連図	講義・GW	
6		関連図(個人)	発表・講義	
7		関連図・看護問題	GW	
8		関連図(全体)	発表・講義	
9		第2段階アセスメント	講義・GW	
10		患者目標・計画	GW	
11		援助計画・具体的援助の立案	GW	
12		援助場面の実際 ロールプレイ		発表
13				
14	老年看護のまとめ		講義	
15	まとめ・終了試験		講義・試験	

<p>評価方法：</p> <p>次の1)、2、) 3) を合算し100点満点とする</p> <p>1) 終了試験(50%) 2) 提出物(50%) 3) 授業の参加状況・態度(減点)</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位習得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 スーヴェルヒロカワ</p>
<p>留意事項：</p> <p>高齢者の事例展開では、加齢に伴う変化と健康障害の特徴も含め、多様性に富んだ個別性を考慮した看護が必要不可欠です。高齢者の特徴を捉えた生活援助技術を学ぶ演習とともに高齢者である対象に必要な看護を展開するための看護過程を行い、看護の実際の一場面をロールプレイすることで具体的な看護を学習します。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>

老年看護学Ⅴ (臨地実習)

1. 実習時間・単位

内 訳	実施時期	実習場所	時間及び単位
老年看護学実習Ⅰ	2年次 11月	介護施設	90時間 2単位
老年看護学実習Ⅱ	3年次	大学病院	90時間 2単位

2. 老年看護学実習Ⅰ

1) 実習目的

老年期にある人々の加齢および健康障害による問題を把握し、看護を実践できる基礎的能力を養う。

2) 実習目標

- (1) 老化の状態（身体的・精神的・社会的特徴）が個人によって異なることを理解する
- (2) 高齢者のライフステージにおける発達課題と個別の問題を理解する
- (3) 老人福祉、高齢者医療、保健対策から実際の社会資源の活用方法を知る
- (4) 高齢者の生活史を理解し、日常生活行動・生活背景・生活習慣との関連性を把握する
- (5) 老人保健・福祉の関連職種との連携と看護の役割を知る
- (6) 高齢者に対し、生命の尊厳と尊敬の念を持ち行動できる能力と態度を養う
- (7) 豊かな老年観と専門職者としての主体性や社会性を養う

3. 老年看護学実習Ⅱ

1) 実習目的

健康障害のある高齢者・家族に対し・対象に応じた看護が実践できる

2) 実習目標

- (1) 老年期の対象における健康障害の特徴を理解し、健康上の問題についてアセスメントできる
- (2) 健康上の問題を解決するために、計画が立案でき、実施、評価できる
- (3) 健康障害を持つ高齢者の自立を高めるための援助が工夫できる
- (4) 健康障害を持つ高齢者の家族への援助ができる

小 児 看 護 学

単 位 6 単位

学習目的 小児期の形態・機能・心理・社会的特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対する看護を学ぶ。

学習目標

1. 小児の特徴と小児看護の特徴を理解する。
2. 小児各期の成長・発達と発達課題を理解する。
3. 小児を取り巻く環境をとらえ、その環境が小児に及ぼす影響を理解する。
4. 小児各期の生活と養護を学ぶ。
5. 小児の健康が、小児および家族に及ぼす影響を理解する。
6. 健康障害をきたした小児の看護上の問題をとらえ、小児の特徴をふまえた看護を理解する。
7. 小児や家族へ健康レベルに応じた看護を実践する。

小児看護学の構造



科目名：小児看護学Ⅰ 小児の発達と健全育成のための援助		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：1学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 小児期の成長発達促進や健康増進のための小児看護の役割について学ぶ。			
学習目標 1. 小児期にある子どもの特徴と小児看護の特徴を理解する。 2. 小児各期の成長発達段階と発達課題を理解する。 3. 小児各期の生活と養護を知る。			
回数	講義題目	内容	方法
1	I. 小児とは（小児の特性） II. 小児期の分類（ライフサイクルから見た小児期）	1. 出生前期 2. 新生児期 3. 幼児期 4. 学童期 5. 思春期	講義
2	III. 小児看護の変遷	1. 小児観の変遷 2. 小児医療の変遷 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護の場 5. 小児看護の目標	講義
3	IV. 小児の成長発達	1. 成長と発達 2. 発達の領域 3. 成長発達のすすみ方（一般的原則）	講義
4	V. 形態的成長、機能的発達	1. 形態的成長 2. 形態的成長の評価方法（身体的発育の評価）	講義
5		3. 機能的発達	講義
6		4. 精神・運動機能の発達 5. 知的機能の発達 6. 機能的発達の評価方法	講義
7	VI. 学童期の発達 VII. 思春期の発達 VIII. 発達課題	1. 運動機能 2. 知的発達 3. 情緒 4. 社会性 1. 知的発達 2. 社会性 3. 性的発達 1. ハヴィガースト 2. エリクソン	講義
8	中間試験 グループ学習導入	1. 1回目～7回目講義を対象とした中間試験 2. グループ学習の説明	試験・講義

回数	講義題目	内容	方法
9	IX. 乳幼児の日常生活に必要な養護（グループ学習）	1. 食事 2. 睡眠 3. 排泄 4. 衣服の着脱 5. 遊び	GW
10		1. 食事 2. 睡眠 3. 排泄 4. 衣服の着脱 5. 遊び	GW
11	グループ学習発表会	グループ学習での学びを発表する	発表
12	グループ学習発表会	グループ学習での学びを発表する	発表
13	X. 小児の栄養の特徴と重要性	1. 小児期の栄養の特徴 2. 小児の食事摂取基準の特徴 3. 新生児・乳児期の栄養 4. 母乳栄養	講義
14		5. 人工栄養	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>次の1)、2)、3)を合算し、100点満点の評価とする</p> <p>1) 中間試験(40%)、2) 終了試験(50%)、3) 出席状況(10%)</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院</p>			
<p>留意事項：</p> <p>小児看護学Ⅰは講義だけではなく、グループ学習も行います。グループ学習ではメンバー各自の学習姿勢がグループ全体での学習の深まりや、全体発表会での発表内容の充実度を左右します。グループ学習には積極的姿勢で臨んで下さい。また、小児看護学Ⅰで取り扱う内容は、小児看護学を実践する上で基礎的知識となる部分です。ここで学ぶ基礎的知識をしっかりと確立してほしいので、評価には中間試験と終了試験を取り入れています。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。</p>			

科目名：小児看護学Ⅱ 小児保健論	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）	
履修学年：2学年	開講時期：前期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 講義・体験学習を通して、様々な状況にある小児の成長発達や健康がどのように守られているのかを理解するとともに、小児を取り巻く家庭や社会のあり方について考える。			
学習目標： 1. 小児を取り巻く環境と、小児の成長発達・健康問題との関連性について理解する。 2. 小児の疾病予防・早期発見・健康増進のための、保健行政および福祉について理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	オリエンテーション	1. 小児看護学Ⅱのすすめ方について 2. 小児看護学Ⅱ体験学習について 3. 小児看護学Ⅱ体験学習グループ編成について	講義
2	I. 小児にとって環境とは	1. 社会・地域・家庭と小児 1) 現代社会の特徴 2) 現代家庭の特徴 3) 小児の健全育成上の諸問題 2. 小児の健康が小児および家族に及ぼす影響 1) 健康障害のある小児とその家族の背景 2) 健康を障害された小児の治療環境 3) インフォームドアセントとプレパレーション	講義
3	II. 小児保健に関する法的根拠と、保健・福祉	1. 児童憲章 2. 児童の権利に関する条約 3. 小児看護領域で留意すべき子どもの権利と必要な看護行為 4. 児童福祉法	講義
4		5. 児童虐待防止法 6. 障害児	講義
5	体験学習前学習	体験学習前に出された課題の整理 体験学習自己目標の立案	GW
6～9	体験学習	養護学校・聾学校・乳児院等での体験学習	体験
10～11	体験学習発表会	体験学習での学びを整理する	発表
12	II. 小児保健に関する法的根拠と、保健・福祉	5. 母子保健法 6. 学校保健	講義
13		7. 予防接種法 8. 少年法	講義

回数	講義題目	内容	方法
14	Ⅲ. 小児の事故と安全教育	1. 事故の定義 2. 事故発生のメカニズム 3. 小児各期の安全能力と安全教育 4. 小児の事故と救急処置	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>次の2つを合算し、100点満点の評価とする</p> <p>1) 体験学習後学習レポート…30点</p> <p>2) 終了試験…70点</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 小児看護学 [1] 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会</p>			
<p>留意事項：</p> <p>小児看護学Ⅱでは、講義の他に「地域で生活を送る様々な子ども」と触れ合い学ぶ、養護学校・聾学校・乳児院などでの体験学習の時間を設けています。看護学校に入学後、初めての外部施設での学習となります。各人が学習者としての自覚と責任を持って体験学習に臨むことを期待します。また、小児看護学Ⅱでは、体験学習での学びを重視しています。そのため、評価は終了試験だけではなく、体験学習での学びをまとめたレポートも評価対象とします。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：小児看護学Ⅲ 小児基本看護援助		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）		非常勤講師	
学習目的： 健康障害をきたした小児の診断・治療法や基本的な看護技術を学ぶ。			
学習目標： 1. 小児の健康が小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 2. 小児に出現しやすい疾患とその診断・治療法を理解する。 3. 小児に出現しやすい症状とその看護を理解する。 4. 小児看護に必要な基本的看護技術を理解する。 5. 小児看護に興味を持って、自分なりの小児看護観が形成できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1～8	小児に特有な呼吸器系疾患とその診断・治療法	小児の呼吸生理・呼吸窮迫症候群・気管支喘息 低出生体重児の生理、治療	講義
	小児に特有な循環器系疾患とその診断・治療法	小児の循環器系の特徴・先天性心疾患	
	小児に特有な消化器系疾患とその診断・治療法	小児の消化と吸収・肥厚性幽門狭窄症・ヒルシュスプルング病・先天性胆道閉鎖症・腸重積症・乳児下痢症	
	先天性疾患とその診断・治療法	染色体異常・外表奇形（口唇裂と口蓋裂）・その他の症候群	
	小児に特有な悪性腫瘍とその診断・治療法	小児の血液と造血器の生理・白血病・ウイルス腫瘍・悪性リンパ腫・脳腫瘍	
	小児に特有な腎・泌尿器系疾患とその診断・治療法	小児の腎臓および尿路系の働き・ネフローゼ症候群・急性糸球体腎炎	
	小児に特有な感染症とその診断・治療法	小児の免疫とその機能・感染症（麻疹ほか）・川崎病	
	小児に特有な神経系疾患とその診断・治療法	小児の神経系とその機能・脳性まひ・熱性けいれん	
	小児に特有な代謝性疾患とその診断・治療法	小児の糖尿病（1 型・2 型）	
	小児に特有な筋・骨格系疾患とその診断・治療法	上腕骨顆上骨折・筋性斜頸・先天性内反足・先天性股関節脱臼	
	小児に特有な皮膚疾患とその診断・治療法	アトピー性皮膚炎・熱傷	
9	小児臨床看護総論	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	講義

回数	講義題目	内容	方法
10～12	小児の症状と看護	1. 症状と看護 2. 小児の痛みと看護 3. 小児の発熱と看護 4. 小児のけいれんと看護 5. 小児の脱水と看護 6. 小児の下痢と看護	講義
13～14	小児看護に必要な基本的看護援助演習	1. 小児の身体測定（身長・体重） 2. 小児のバイタルサインズ測定 3. 小児の抑制、口鼻腔吸引 4. 小児の入浴 （CVカテーテル挿入中の場合） 5. 小児の輸液管理 （小児用輸液セットでの滴下計算と流量調節）	演習
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法： 筆記試験・手順書・出欠席状況・講義演習への参加姿勢などから評価を行う。</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献： 系統看護学講座 小児看護学〔1〕医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕医学書院 看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 メヂカルフレンド社</p>			
<p>留意事項： 「小児に特有な疾患とその診断・治療法」は、大学病院の第一線で活躍されている小児科医師による講義です。小児看護を実践していく上で、診断・治療法の理解は欠かせません。小児看護学IV（臨床看護）の学習をすすめる前に、ここでの講義内容をしっかり理解しておいて下さい。 「小児看護に必要な基本的看護援助」では、成人との違いについて理解が深まるように、基礎看護学で学習した看護技術を復習してから講義に臨んで下さい。</p>			
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。</p>			

科目名：小児看護学Ⅳ 発達段階に応じた看護援助		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：2学年		開講時期：後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 認定看護師			
学習目的： 健康障害をきたした小児および家族への看護を理解する。			
学習目標： 1. 小児の病気が小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 2. 小児各期の成長発達段階をふまえた看護を理解する。 3. 疾患経過や症状に応じた看護を理解する。 4. 様々な状況に置かれた小児の健康問題をアセスメントする能力を養う。 5. 小児看護に興味を持って、自分なりの小児看護観が形成できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	I. 新生児期にある小児の看護	1. 低出生体重児の看護	講義
2	II. 乳児期にある小児の看護（1）	1. 先天性疾患を持つ小児の看護 1) 染色体異常 2) 外表奇形 3) 消化器系の先天性疾患 4) 先天性心疾患 2. 手術療法を受ける小児の看護	講義
3	II. 乳児期にある小児の看護（2）	1. 乳児下痢症の看護 2. 熱傷の看護 3. 乳児期の成長発達面への援助	講義
4	III. 幼児期にある小児の看護（1）	1. 感染症の看護 2. 川崎病の看護 3. 小児気管支喘息の看護 4. 幼児期の成長発達面への援助	講義
5	III. 幼児期にある小児の看護（2）	1. 白血病の看護 2. ターミナル期にある小児の看護	講義
6	IV. 学童期にある小児の看護	1. 慢性疾患を持つ小児の看護 2. ネフローゼ症候群の看護 3. 糖尿病の看護 4. 学童期の成長発達への援助	講義
7	V. 思春期にある小児への看護 VI. 小児の在宅ケア VII. 児童虐待の看護	1. 摂食障害児の看護 2. 小児の在宅ケアを支える社会的資源 3. 小児の在宅ケア 4. 被虐待児への看護	講義
8～11	VIII. 小児各期にある小児の事例展開	1. 疾患の病態生理・看護の学習 2. 小児各期の発達段階・発達課題の学習 3. 乳児・幼児・学童児からグループ毎に1事例を選択し、看護過程を展開	GW

回数	講義題目	内容	方法
12～13	事例発表	1. グループごとに選択した事例で展開した看護過程を発表 2. 立案した看護計画の一場面を取り上げ、ロールプレイングを行う	発表
14	事例展開まとめ	発表の講評	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>次の2つを合算し、100点満点の評価とする</p> <p>1) 1回目～8回目までの講義内容を対象とした終了試験…80点</p> <p>2) 9回目以降の事例展開での課題…20点</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>系統看護学講座 小児看護学〔1〕医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学〔2〕医学書院</p> <p>看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 メヂカルフレンド社</p>			
<p>留意事項：</p> <p>小児の臨床看護の視点を軸に、様々な状況にある小児へのアセスメント能力を養い、小児を対象とした看護過程の展開ができるようになることを目指しています。</p> <p>事例展開は、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの統括学習となります。事例展開のグループ学習には、各自が今まで学習してきた小児看護学を復習した上で参加して下さい。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。</p>			

科目名：小児看護学Ⅴ 臨地実習	履修単位 2単位	講義時間（回数） 90時間
履修学年：3学年	開講時期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）		
<p>学習目的：</p> <p>小児を取り巻く背景（健康段階・成長発達段階・環境）を総合的に把握し、必要とされる看護を実施するための基礎的能力を養う。</p>		
<p>学習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の安全を守るために必要な援助を実施できる。 2. 対象およびその家族との関係を形成することができる。 3. 対象の健康段階・成長発達段階・環境に応じた看護過程を展開することができる。 4. 対象の特性を考慮した援助（日常生活行動に関する援助）を実施できる。 5. 小児に関わる保健医療福祉チームとの連携・協力を図ることができる。 		
<p>学習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護の特徴と役割 2) 小児病棟における小児とその家族に応じた看護過程の展開 2. 保育園実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な小児の成長発達段階を知る 2) 園児の生活を知る 3. 小児外来見学実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児外来における看護の役割や実際を知る 4. 新生児高度医療センター見学実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) NICUにおける看護の役割や実際を知る 2) 低出生体重児の特徴を知る 3) 療養環境の実際を知る 		

母 性 看 護 学

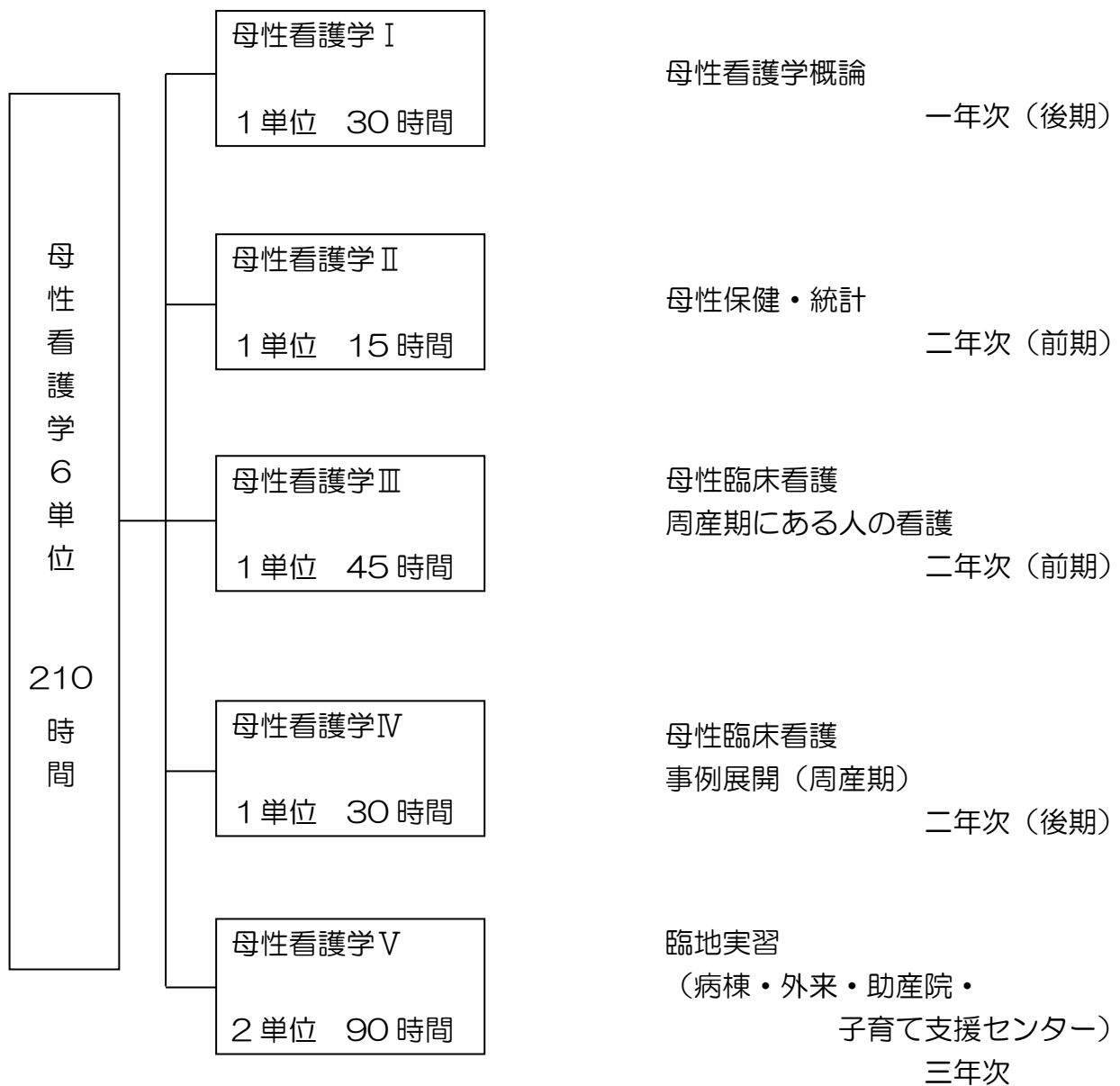
単 位 6単位（210時間）

学習目的 母性看護の対象と特徴を理解し、生涯を通じた性と生殖に関する健康の保持・増進および健康課題解決への看護を学び、次世代育成への支援ができる能力を養う。

学習目標

1. 母性看護の対象および身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
2. 人間の性と生殖の概念と意義について理解する。
3. 生命の誕生に関心を持ち、生命倫理について考えが深まる。
4. 女性の健康とライフサイクル各期における健康課題を理解し、健康教育（指導）方法を身につける。
5. 母性を取り巻く環境が、日本社会に与える影響について考察できる。
6. マタニティサイクルにある女性と、その子供・家族の健康を支援するための基礎的技術と援助方法を身につける。
7. 学習者自身が自己の中の母性・父性を意識し、健全な母性・父性の形成をはかる。

母性看護学の構造



科目名：母性看護学Ⅰ 母性看護学の基盤と 女性のライフサイクル	履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）	
履修学年：1学年	開講時期：後期		
担当講師：専任教員（看護実務経験有）		外部講師（医学部産婦人科）	
学習目的： 母性看護の基盤となる概念を学ぶことで、母性看護の対象および特徴を理解し、性と生殖の健康をまもるという母性看護の意義・役割について考えられる。			
学習目標： 1. 女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する健康や健康問題について説明できる 2. 母性看護を必要とする対象を理解し、母性看護の意義・役割・専門性について説明できる 3. 母性及び母性看護の概念を学び、母性看護の特徴が説明できる			
回数	講義題目	内容	方法
1	I. 母性看護学の概念と理論	1. 母性看護の基盤 2. 周産期看護の基盤 3. ライフサイクルと看護の対象 4. 女性と胎児の尊厳と権利擁護	講義
2	II. 胎児期の性と幼児期の性 III. セクシュアリティ	1. 胎児期の性の特徴 2. 性分化疾患 遺伝疾患 3. 性自認 同一性 性指向 4. アイデンティティの形成と確立 5. セクシュアルリプロダクティブ ライツ	講義
3	III. 思春期の性と健康課題	1. 性周期 2. 性意識と感染症	講義
4	IV. 成熟期の女性の性と家族形成	1. 身体・心理・社会的特徴 2. 生き方の選択 3. 家族形成と役割 4. 親役割獲得	講義
5	V. 周産期にある対象の理解①	1. 妊娠期の生理と検査	講義
6	V. 周産期にある対象の理解②	1. 妊娠期の異常と産科処置	講義
7	V. 周産期にある対象の理解③	1. 分娩期の生理と異常	講義
8	V. 周産期にある対象の理解④	1. 産褥期の生理と異常	講義
9	VI. 成熟期の女性の健康課題	1. 月経困難症と月経異常 2. 不妊症 3. 家族計画 受胎調節	講義
10	VII. 更年期・老年期の性と健康課題	1. 身体・心理・社会的特徴 2. エイジングの捉え方 3. セクシュアリティの特徴 4. 骨盤底筋群の弛緩 排泄障害	講義

回数	講義題目	内容	方法
11 12	VIII. 性と命について考える①	1. 課題テーマの調査 *課題は事前に提示	GW
13 14	VIII. 性と命について考える②	1. 発表 ディベート形式をとる	GW
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>以下の4項目を総合して100点満点にて評価する</p> <p>1. 終了試験 2. GWの参加姿勢、メンバーシップ 3. 提出物 4. 小テスト</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>『母性看護学Ⅰ概論：ライフサイクル』南江堂 『産婦人科疾患13』南江堂</p>			
<p>留意事項：</p> <p>母性看護学Ⅰでは、対象を理解するための大切な概念を学習します。女性のライフサイクルという視点では、周産期の特徴も学びます。また、人の一生を「性」という側面からとらえ、性と生殖に関する健康の保持・促進への援助とは何かを考えます。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：母性看護学Ⅱ 母子保健論		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）
履修学年：2 学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 母子保健の変遷と社会状況との関係、母子に関する法規・社会資源について学習し、 その中での看護の役割を考察する。			
学習目標： 1. 母性に関係する統計と社会状況との関係について理解できる。 2. 母子を取り巻く社会的環境・関係法規を理解できる。 3. 母子保健施策と現状について説明できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	I. 母子保健の歩み	主な母子保健施策 少子化対策	講義
2	II. 周産期にまつわる法律	母子保健法・母体保護法・予防接種法 母性の就労にかかわる法律	講義
3	III. 母子保健統計	人口動態統計と母子保健の関係 諸外国における日本の母子保健統計	講義
4	IV. 母子保健施策の現状	母子にかかわる社会資源 少子化問題と育児の課題	講義
5 6	V. 母子保健施策の現状と考察	現代の日本社会における母子保健施策 の利用方法の課題と考察	GW・発表
7	VI. 母子保健医療制度	母子医療システムと現状 周産期医療ネットワーク	講義
	終了試験		試験
評価方法： 以下の4項目を総合して100点満点の評価とする。 1. 終了試験 2. GWの参加姿勢、メンバーシップ 3. 提出物 4. 小テスト			
評価基準： 60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献： 「母性看護学Ⅰ：概論・ライフサイクル」南江堂 「母性看護学Ⅱ：マタニティサイクル」南江堂 「国民衛生の動向」			
留意事項： 母子保健を現代の日本社会情勢に焦点を当て学習をします。テキストのみにとどまらずGW などを通して新たな社会情勢にも目を向けて学習しましょう。GWではメンバー各自の学習 姿勢がチーム全体での学習の深まりや、全体発表会での発表内容の充実度を左右します。 GW学習には積極的姿勢で臨んで下さい。			
学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねて下さい。			

科目名：母性看護学Ⅲ 周産期基本看護援助		履修単位 1単位	講義時間（回数） 45時間（22回）
履修学年：2年次		開講時期：前期	
担当講師：担当講師：専任教員（看護実務経験有） 外部講師（看護実務経験有）			
学習目的： マタニティサイクルにある母子と家族の体とこころ・社会生活への適応と健康逸脱時の援助を学ぶ。			
学習目標： 1. 妊娠・分娩・産褥の生理的経過と必要な看護について説明できる。 2. 新生児の生理的特徴と必要な看護が説明できる。 3. マタニティサイクルにおける健康管理と逸脱予防及び逸脱時の援助について理解できる。 4. マタニティサイクルにおける健康・逸脱予防指導について説明できる。 5. マタニティサイクルに必要な技術を習得することができる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	妊婦への基本看護	妊娠経過と心理的適応 妊婦の健康状態と胎児の健康状態 妊婦の生活への影響	講義
2	妊娠初期の援助	母体の変化と日常生活への影響 妊娠初期のヘルスアセスメント	講義
3	妊娠中期の援助①	母体の変化と日常生活への影響 妊娠中期のヘルスアセスメント	講義
4	妊娠中期の援助② 逸脱と異常	母体の変化に伴う逸脱予防 妊娠糖尿病	講義
5	妊娠末期の看護①	母体の変化と日常生活への影響 妊娠末期のヘルスアセスメント	講義
6 7	妊娠健診の実際	妊婦健診に必要な技術 レオポルド触診・子宮底長計測・NST 腹囲測定・骨盤外計測 全身の観察	演習
8	妊娠末期の援助② 逸脱と異常	母体の変化に伴う逸脱予防 妊娠高血圧症候群 付属物の異常と援助	講義
9	産婦と家族への 基本看護①	自然分娩 その経過と援助	講義
10	産婦と家族への 基本看護②	自然分娩 生活の中での出産 分娩経過と産婦の心理	講義
11	産婦への基本看護③ 逸脱と異常	分娩期に逸脱した産婦の援助	講義
12	母乳育児支援	褥婦と新生児のための母乳育児	講義
13	褥婦のヘルスアセスメントと看護①	退行性変化と援助	講義
14	褥婦のヘルスアセスメントと看護②	全身の回復と援助	講義
15	褥婦のヘルスアセスメントと看護③	進行性変化とその援助	講義

回数	講義題目	内容	方法
16	褥婦の健康を支える技術援助	バックケア	演習
17	褥婦のヘルスアセスメントと看護④ と新生児の特徴と援助	新生児の特徴と育児技術	講義
18	産褥期逸脱時の援助	帝王切開術にて分娩した褥婦への援助	講義
19	褥婦のヘルスアセスメントと看護⑤	母親役割獲得への援助	講義
20	褥婦への基本看護技術	褥婦への援助 退行性変化の観察 母乳育児支援技術 全身の回復への援助	演習
21	新生児への基本看護技術	早期新生児への援助技術 沐浴と衣服・おむつの着脱 早期新生児の観察とアセスメント	演習
22	褥婦のヘルスアセスメントと看護⑥	退院後の生活調整への支援	講義・GW
	終了試験		試験
<p>評価方法：</p> <p>以下の4項目を総合して100点満点にて評価する</p> <p>1. 終了試験 2. GW演習の参加姿勢、メンバーシップ 3. 提出物 4. 小テスト</p>			
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>『母性看護学 II：マタニティサイクル』 南江堂 『産婦人科疾患 13』 南江堂 『母性看護技術』 メヂカルフレンド社 『母性看護学 I 概論：ライフサイクル』 南江堂</p>			
<p>留意事項：</p> <p>周産期にある対象に実践する基本的なケアを学習します。対象の特徴を捉え、ヘルスプロモーションを意識したかわりを通した援助実践ができることを期待したい。</p> <p>1年次の学習を基盤に予習を行い、日々の復習を大切にして学習に臨んでほしい。</p>			
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：母性看護学Ⅳ 周産期の各期に応じた看護援助		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 年次		開講時期：後期	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： マタニティサイクルにある対象に必要な健康教育・指導内容を生理的・心理的・社会的要因を用いて導き出し、看護援助の実践を学習する。			
学習目標： 1. マタニティサイクルにある対象に応じた看護の特徴を考察できる。 2. マタニティサイクルにある対象の健康状態について分析・解釈できる。 3. 事例展開を通して母性看護学における看護過程について説明できる。 4. 看護援助の実践内容を導き出すことができる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	妊娠期	ヘルスプロモーション 母性看護の援助思考 外来での援助・妊婦健診	講義
2	妊娠期	事例：外来での援助 妊婦健診 どのような計画が必要か 保健指導内容を導き出し実践する	ロールプレイ 演習
3	分娩期	分娩中の看護援助 ・分娩の3要素・心理的变化適応 ・適応と対処能力	講義
4	事例（産褥1日目） 情報収集と分析	情報収集と分析解釈（産褥1日目） ・退行性変化・全身の回復・進行性変化	講義 ロールプレイ
5	事例（産褥期1日目） 情報収集と分析	情報収集の追加と分析解釈（産褥1日目） ・基本的育児技術・親子関係の確立・ セルフケア能力・心理精神的側面・ 新生児	講義 ロールプレイ
6	事例（産褥1日目） 関連図 目標設定と援助計画立案	関連図 産褥1日目の情報を基に産褥2日目の 計画を立案 母子の課題と目標設定 1日の援助計画を立案	GW
7	援助実施（産褥2日目）	産褥2日目の援助計画実施 申し送り聴取 夜間の情報を確認し計画修正 援助実施及び情報収集 実施後の評価と課題	ロールプレイ 演習
8	日々の目標設定 援助計画立案	産褥2日目の情報を基に産褥3日目の計画 を立案 母子の課題と目標設定 1日の援助計画を立案	GW

回数	講義題目	内容	方法
9	援助の実施（産褥3日目）	産褥3日目の援助計画実施 申し送り聴取 夜間の情報を確認し計画修正 援助実施及び情報収集 実施後の評価と課題 退院後に向けた保健指導の必要性の検討	ロールプレイ 演習
10	日々の目標設定 援助計画立案	産褥3日目の情報を基に産褥4日目の計画を立案 母子の課題と目標設定 1日の援助計画を立案 産褥の経過を意識した全体的な計画立案 保健指導内容を具体的計画	GW
11	援助の実施（産褥4日目）	産褥4日目の援助計画実施 申し送り聴取 夜間の情報を確認し計画修正 援助実施及び情報収集 退院後に向けた保健指導の実施 実施後の評価と課題	ロールプレイ 演習
12	日々の目標設定 援助計画立案	産褥4日目の情報を基に産褥5日目の計画を立案 母子の課題と目標設定 1日の援助計画を立案 退院に向けての援助と保健指導を計画	GW
13	援助の実施（産褥5日目）	産褥5日目の援助計画実施 申し送り聴取 夜間の情報を確認し計画修正 援助実施及び情報収集 退院後に向けた保健指導の実施 産褥期全体を通しての退院サマリー	ロールプレイ 演習
14	まとめ 課題：帝王切開事例	妊娠期・分娩期・産褥期・退院後の看護援助 対象を理解し尊重した援助とは何か 役割獲得をしていく援助とはどのようなことか 社会の中での子育てによる看護者の課題とは何か	講義
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <p>以下の4項目を総合して100点満点にて評価する</p> <p>1. 終了試験 2. GW・演習の参加姿勢、メンバーシップ 3. 提出物</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>『母性看護学Ⅰ概論：ライフサイクル』南江堂</p> <p>『母性看護学Ⅱ：マタニティサイクル』南江堂</p> <p>『産婦人科疾患13』南江堂</p> <p>『母性看護技術』メヂカルフレンド社</p>
<p>留意事項：</p> <p>母性看護学実習での受け持ち援助を想定し、看護展開・看護援助の実施・評価まで実習と同様に一連を学習します。母性看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学習した基本的知識を活用し、事例を通して個別性を捉えた看護実践へと発展させることを学びます。GWでのロールプレイ演習を講義方法に随時取り入れているので、効果的な共同学習を進められるようにメンバーシップ能力も評価対象としています。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>

母性看護学 V

(臨地実習)

単 位 2単位 (90 時間)

学習目的 対象の生活する環境を捉え、周産期にある母子・および家族に必要な看護を学ぶ。

- 学習目標**
1. マタニティサイクルにある対象者の生理的・心理的・社会的特徴を捉え、成長発達を促す看護実践ができる。
 2. 対象者のセルフケア能力を高められる看護実践ができる。
 3. 対象者へ看護を実践するために、研究成果としての文献を活用した看護実践ができる。
 4. マタニティサイクルにある対象者の健康問題を捉え、看護学生としての役割・責務を自覚し、看護職者及び連携機関との調整について考えることができる。
 5. 母子看護の実践を通して、具体的な看護・学習についての自己課題を見出し、課題に対する具体的方法を明確にできる。
 6. 人の生命誕生にかかわる機会を通して、命の尊厳、母性・父性・育児性について自己の考えを述べる事が出来る。
 7. 母性看護に対する自己の看護観を述べる事ができる。

精 神 看 護 学

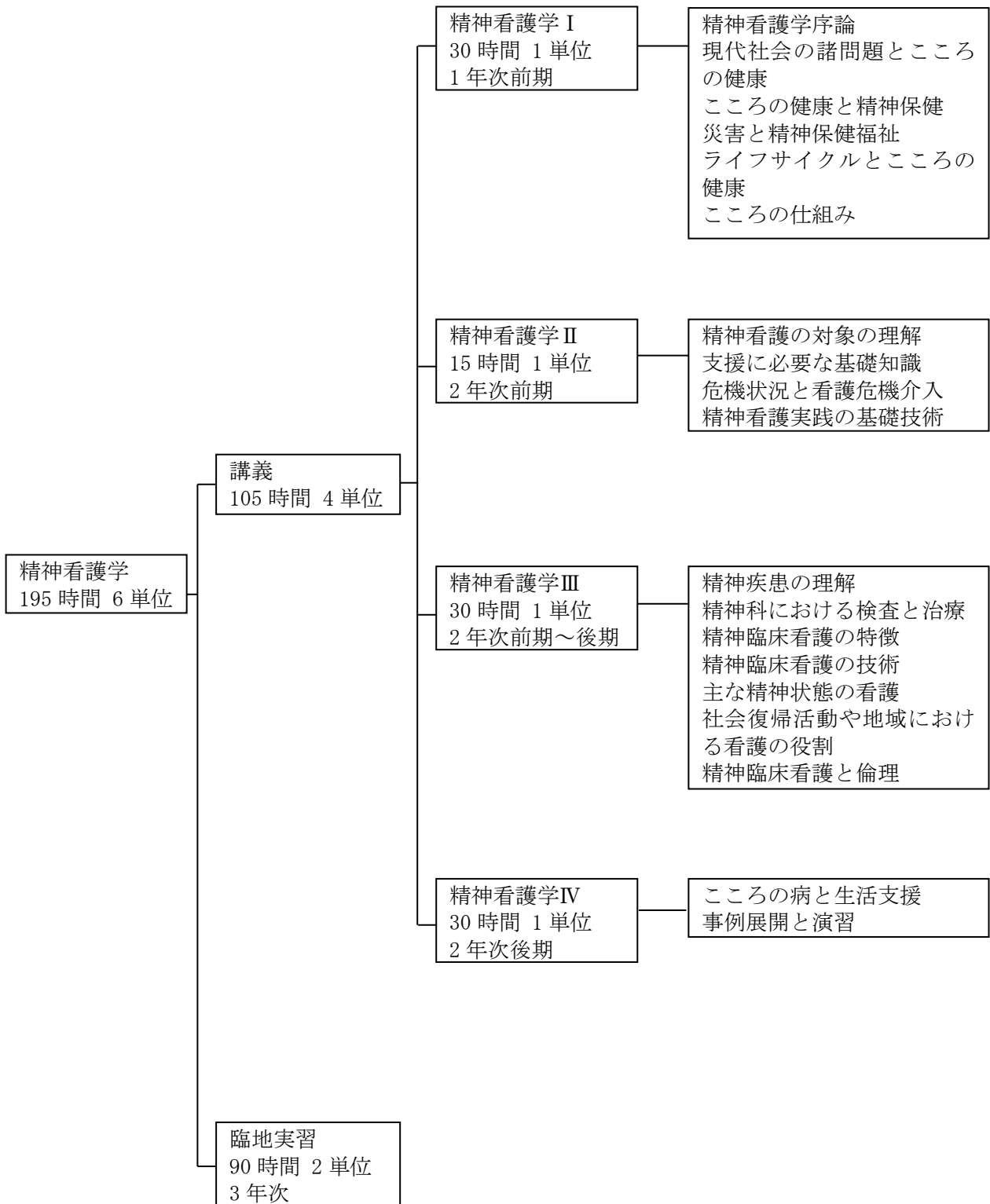
単 位 6 単位 (195 時間)

学習目的 心の健康に関する問題をライフサイクルの視点でとらえ、心の健康を保持するための援助、及び心のバランスをくずしている人々や精神障がい者と家族に対する看護を学ぶ。

学習目標

1. 人間の心の発達と心の健康に関連する要因、心の健康の維持・増進の為に必要な知識を学ぶ。
2. 心のバランスをくずしたり、心を病む人への理解と看護は看護の基盤として看護全般に必要なであることを理解し、援助のための知識と技術を学ぶ。
3. 精神障がい者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解する。そして、精神障がい者と家族の理解、援助方法を学ぶことにより精神障がい者に対する偏見の誤りを認識し、患者を一人の人間として尊重することの重要性を理解する。
4. 精神障がい者の社会復帰活動の促進が強調される一方、社会復帰を困難にする要因も存在する実状を知り、今後の精神医療と地域社会との結びつきの重要性を保健・医療・福祉関連において理解する。

精神看護学の構造



科目名：精神看護学Ⅰ (生活とこころの変化)		履修単位 1単位	講義時間(回数) 30時間(15回)
履修学年：1年次		開講時期：1年次 前期	
担当講師：専任教員(看護実務経験有) 非常勤講師(看護実務経験有)			
学習目的： 人間の精神的成長や人格発達、あるいは疾患と関連する発達課題や精神的諸問題・精神現象について、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルと生活の変化を通して学ぶ。			
学習目標： 1. こころの健康の概念を理解し、精神保健の重要性を理解する。 2. 人間のこころの発達を理解する。 3. 現代社会に生きる人々が直面する健康上の問題を精神保健上の視点から捉え、こころの健康を保つための適応のあり方を理解する。 4. 看護に活かすカウンセリングの基礎について理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	精神看護学を学ぶ意味	1. 現代社会と「こころのケア」 2. 精神の健康 3. 人と人とのふれあい	講義
2	こころの健康と人間関係	1. 人と人との関係 2. 「自分」を知ることの意味 3. 「自分」を知る	講義
3	こころの健康と人間関係	1. 「自分」と「相手」を知る手がかり 2. 人と人との関わりを持つための方法	講義
4	ライフサイクルとこころのしくみ	1. こころのしくみ 2. ライフサイクルとこころ	講義
5	ライフサイクルとこころの健康	乳幼児期～学童期のこころの健康	講義
6	ライフサイクルとこころの健康	学童期～思春期のこころの健康	講義
7	ライフサイクルとこころの健康	思春期～青年期のこころの健康	講義
8	ライフサイクルとこころの健康	成人中期～老年期のこころの健康	講義
9	こころのしくみ・はたらき	1. こころをつくる物質 (神経伝達物質) とそのはたらき 2. 精神分析理論によるこころのしくみイド・自我・超自我	講義
10	こころのしくみ・はたらき	1. 防衛機制 2. 臨床心理検査でわかるこころのはたらき	講義
11	災害被災者・災害救援者のこころの健康	1. 災害によるこころの反応 2. 災害がもたらすこころの問題 3. 被災者に対するメンタルヘルス 4. 救援者に対するメンタルヘルス	講義

回数	講義題目	内容	方法
12	精神科以外での精神看護	1. 身体疾患とこころの看護 2. 看護に活かすカウンセリングの基礎	講義
13	精神科以外での精神看護	1. リエゾン精神看護 2. 感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義
14	まとめ	精神看護学イメージマップ記載	講義
15	終了試験		試験
<p>評価方法： 平常考察・終了試験 100点満点の評価とする</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献： 明解看護学双書 精神看護学 第3版 金芳堂 精神看護学 精神保健 第5版 医歯薬出版</p>			
<p>留意事項： 人のこころがどのように発達していくのかを知ること、またこころのしくみを知っていくことは、私達が自分を知ることにも繋がります。この授業を通して、看護実践の基盤となる、自分を知ること・他者を知ること・人のこころを知ることについて考えていきましょう。</p>			
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に学内講師を訪ねてください。</p>			

科目名：精神看護学Ⅱ (こころの健康維持増進の援助)		履修単位 1単位	講義時間(回数) 15時間(7回)
履修学年：2年次 前期		開講時期：2年次 前期	
担当講師：専任教員(看護実務経験有)			
学習目的： 精神看護は看護全般に必要なことを理解し、こころの健康維持・増進のための基礎的知識と技術を学ぶ。			
学習目標： 1. 精神看護では自らの精神的な健康を保つことが重要であることを理解する。 2. 精神看護の対象を知り、精神看護は看護全般に必要なことを理解する。 3. 精神看護を必要とする援助のための基礎的な知識と技術を理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 精神(こころ)の機能について	講義
2	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 人間の心理社会的ニーズ 1) 自己概念 2) 役割機能 3) 相互依存	講義
3	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. こころのバランスを崩した状態 1) 自尊心の低下 2) 無力	講義
4	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. こころのバランスを崩した状態 1) 不安・恐怖 2) 喪失・悲嘆	講義
5	精神看護の対象と援助 こころの理解と援助	1. 危機的状況と看護の危機介入 1) ストレス反応と行動 2) 危機の概念 3) 危機モデルに基づいた看護援助 *セリエ理論・ラザルス理論・フィンクの理論・ アギュレラとメズニックの理論	講義
6	看護実践の技術	1. 患者－看護者関係 1) 患者－看護者の特徴 2) 援助者としての役割 3) 関係の展望過程 4) 関係を成立させる要素	講義
7	看護実践の技術	1. 治療的対人関係を促進する コミュニケーション技術	講義
8	終了試験		

<p>評価方法： 平常考察・終了試験 100 点満点の評価とする</p>
<p>評価基準： 60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献： 明解看護学双書 精神看護学 第3版 金芳堂 精神看護学 精神保健 第5版 医歯薬出版</p>
<p>留意事項： 開講前の春休暇中に学習課題がある。精神看護学 I で学習したところのしくみや働きから、こころのバランスが崩れた状態、こころの健康を維持するための働きについて学ぶ。また、患者—看護者関係が相互作用の中でどのように構築されていくかを学び、その後の患者との関わりに活かしてほしい。</p>
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30 に講師を訪ねてください。</p>

科目名：精神看護学Ⅲ (精神に障害のある人の治療と援助)	履修単位 1単位	講義時間(回数) 30時間(15回)	
履修学年：2年次	開講時期：2年次 前期・後期		
担当講師：専任教員(看護実務経験有) 非常勤講師			
学習目的： こころ病む人とその家族を理解し、支援のための知識と技術を学び、その人を尊重することの重要性を理解する。			
学習目標： 1. 精神障がい者が呈する症状や行動、主な精神疾患に関する知識を理解する。 2. 治療・検査を受ける人への支援を理解する。 3. 精神障がい者がたどる治療過程を理解する。 4. 精神臨床看護の特徴と技術を理解する。 5. 精神障がい者が呈する症状や行動に応じた看護を理解する。 6. こころ病む人がたどる回復過程とその時々々の看護を理解する。 7. 精神看護における倫理的問題と対象の権利擁護の重要性を理解する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	精神の健康	1. 精神の健康－不健康 1) 精神医学からの説明 2) 精神分析理論からの説明 3) 脳科学からの説明	講義
2	精神障害とは	1. 主な精神症状と問題行動 1) 不安 2) 幻覚・妄想 3) 攻撃、自傷・自殺	講義
3	精神障害とは	1. 主な精神症状と問題行動 1) 自閉、ひきこもり、無気力 2) 強迫、依存、操作	講義
4	精神科治療	1. 精神医療システムの現状と課題 1) 外来医療と入院医療 2) 入院形態 3) 精神保健指定医 2. 薬物療法 3. 精神療法の基礎 4. 特殊精神療法の主な治療様式 5. 電気痙攣療法 6. 隔離・拘束	講義
5	主な疾患の理解	1. 統合失調症の知識、治療 2. 気分障害の知識、治療	
6	主な疾患の理解	1. 神経症性障害ストレス関連障害の知識、治療 2. 境界性人格障害の知識、治療 3. 摂食障害の知識、治療	講義

回数	講義題目	内容	方法
7	主な疾患の理解	1. てんかんの知識、治療 2. アルコール・薬物依存の知識、治療 3. 老年期精神障害の知識、治療	講義
8	精神科看護と倫理	1. 精神医療看護の歴史的変遷と法律 2. 精神保健福祉法と看護 3. こころを病む人への看護援助の基本	講義
9	気分障害にある人の看護	1. 鬱状態の人の看護 2. 躁状態の人の看護 3. 自殺防止	講義
10	幻覚妄想状態にある人の看護	1. 幻覚・妄想状態にある人の看護	講義
11	幻覚妄想状態にある人の看護	1. 統合失調症にある人の看護（経過別） 2. SST（社会生活技能訓練）	講義
12	神経性障害・ ストレス関連障害のある人の看護	1. 不安障害のある人の看護 2. 強迫症状のある人の看護	講義
13	人格障害にある人の看護	1. 衝動行為のときの看護 2. 攻撃・操作する人の看護 3. 摂食障害のある人の看護	講義
14	依存する人の看護	1. アルコール依存のある人の看護	講義
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法： 平常考察・終了試験 100点満点の評価とする。 (1～7回目医師 50点、8～14回目看護教員 50点)</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献： 明解看護学双書 精神看護学 第3版 金芳堂 精神看護学 精神保健 第5版 医歯薬出版 精神看護学第2版 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版会</p>			
<p>留意事項： 夏期休暇中に宿題を課す。精神看護学Ⅰ・Ⅱの学習を基盤に、精神機能の障害のある人への理解をすすめていく。</p>			
<p>学習サポートの方法： 学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>			

科目名：精神看護学Ⅳ (こころの病と生活支援)		履修単位 1単位	講義時間(回数) 30時間(15回)
履修学年：2年次		開講時期：2年次 後期	
担当講師：専任教員(看護実務経験有) 非常勤講師(看護実務経験有)			
学習目的： こころ病む人とその家族を理解し、生活支援のための知識と技術を学び、その人を尊重することの重要性を理解する。			
学習目標： こころ病む人への生活支援が演習の中でできる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	社会復帰活動・地域における看護の役割	1. 地域精神保健対策と看護 2. 家族支援	講義
2	社会復帰活動・地域における看護の役割	1. 社会復帰対策と看護 2. 退院に向けた生活支援	講義
3	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義
4	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 GW
5	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 GW
6	事例展開	気分障害のある人の生活支援の事例	講義 GW
7	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
8	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
9	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
10	事例展開	統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
11	事例展開グループ発表準備	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
12	事例展開グループ発表準備	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	講義 GW
13	事例展開グループ発表	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	発表
14	事例展開グループ発表	気分障害のある人の生活支援の事例 統合失調症のある人の生活支援の事例	発表
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：</p> <p>平常考察・終了試験</p> <p>2事例の看護過程の展開による評価が30点、筆記試験70点の試験を合算する。</p> <p>事例展開の内容は、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したことも含まれる。</p> <p>したがって試験内容も、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したことも出題される。</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>明解看護学双書 精神看護学 第3版 金芳堂</p> <p>精神看護学 第2版 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版会</p>
<p>留意事項：</p> <p>具体的な内容・日程は、開講時に別途資料配布と説明をする。</p> <p>精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したこともふまえて対象のこころを理解しようとする姿勢を大切に、対象の見えないところがどのような形で表現されているのかを考えながら必要な看護について考えてほしい。</p> <p>また、患者の健康的な部分にも着目し、強みを見出しながら看護を考えてほしい。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p>

精神看護学 V

(臨地実習)

単 位 2 単位 (90 時間)

学習目的 精神の健康問題を抱える人を理解し、自分を最大限に生かして看護することを学ぶ。

学習目標

1. 対象の問題を解決、健康な部分を維持・向上するための、看護計画を立案し実施することができる。
2. 患者－看護者関係の段階を理解し、関係を発展させる必要性がわかる。
3. 自己の内面の変化に気づき、自己洞察することができる。
4. 治療の場における様々な活動（治療やレクリエーション）の意味を考え、積極的に参加することができる。
5. 精神の健康問題を抱えた人々を取り巻く社会福祉制度を理解し、患者が活用できる社会資源を考えることができる。
6. 保健医療チームの一員としての自己の役割を果たすことができる。

行動目標

- 1－1) 患者の精神の健康問題や、健康な部分を明らかにすることができる。
 - 2) 患者の精神の健康問題はなにからもたらされたのか、明らかにできる。
 - 3) 精神の健康問題が、患者や家族の心理や日常生活にどのように影響しているかを捉えることができる。
 - 4) 患者の健康な部分を維持・向上して行く看護の視点を持ち、計画を立案することができる。
 - 5) 患者の家族の状況に応じた計画を具体的に立案することができる。
 - 6) 患者のその人らしさを尊重しながら、自立心と自信を高める援助が実施できる。
 - 7) 患者の反応を客観的にとらえ、実践した看護を評価することができる。
- 2－1) 患者を脅かさない心理的距離をとりながら関わるることができる。
 - 2) 患者が何を訴えたいのか、言葉と非言語的な部分から読みとることができる。
 - 3) 患者が表現する事柄だけでなく気持ちにも焦点をあて話を聴き、共感することの大切さがわかる。
 - 4) 患者との関係が発展している過程であることを理解できる。
 - 5) 患者－看護者関係の段階に応じた関わりかたをしようと努力できる。

- 3-1) 患者と関わったときに自分に生じた感情や思考に着目できる。
- 2) 自分の対人関係における傾向を考えることができる。
- 3) 他者と関わるその時その場での自分の感情や思考を意識することができるようになる。
- 4) 自分の感情や考えを相手が受け入れやすいような形で、できるだけ率直に伝えることができる。
- 4-1) 治療の場における活動にどのような意味があるのか理解することができる。
- 2) 治療の場における活動が、どのような人間的な交流を生み出しているのかを観察しながら積極的に参加することが出来る。
- 5-1) 精神の健康問題を抱えた人々を取り巻く社会福祉制度を理解することができる。
- 2) 受け持ち患者が活用できる社会資源を考えることができる。
- 6-1) 看護者として「治療環境の一部」の機能を担っているという自覚を持ち、行動することができる。

統合分野

基礎分野・専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱで
学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し。
知識・技術を統合する能力を養う。

在宅看護論

単 位 6単位（195時間）

学習目的 地域住民の健康増進・予防における看護の役割を学ぶとともに、保健・医療・福祉におけるソーシャルサポートシステムを理解し、疾病や障害を持ちながら在宅で療養する人々とその家族の自己実現へ向けての看護を学ぶ。

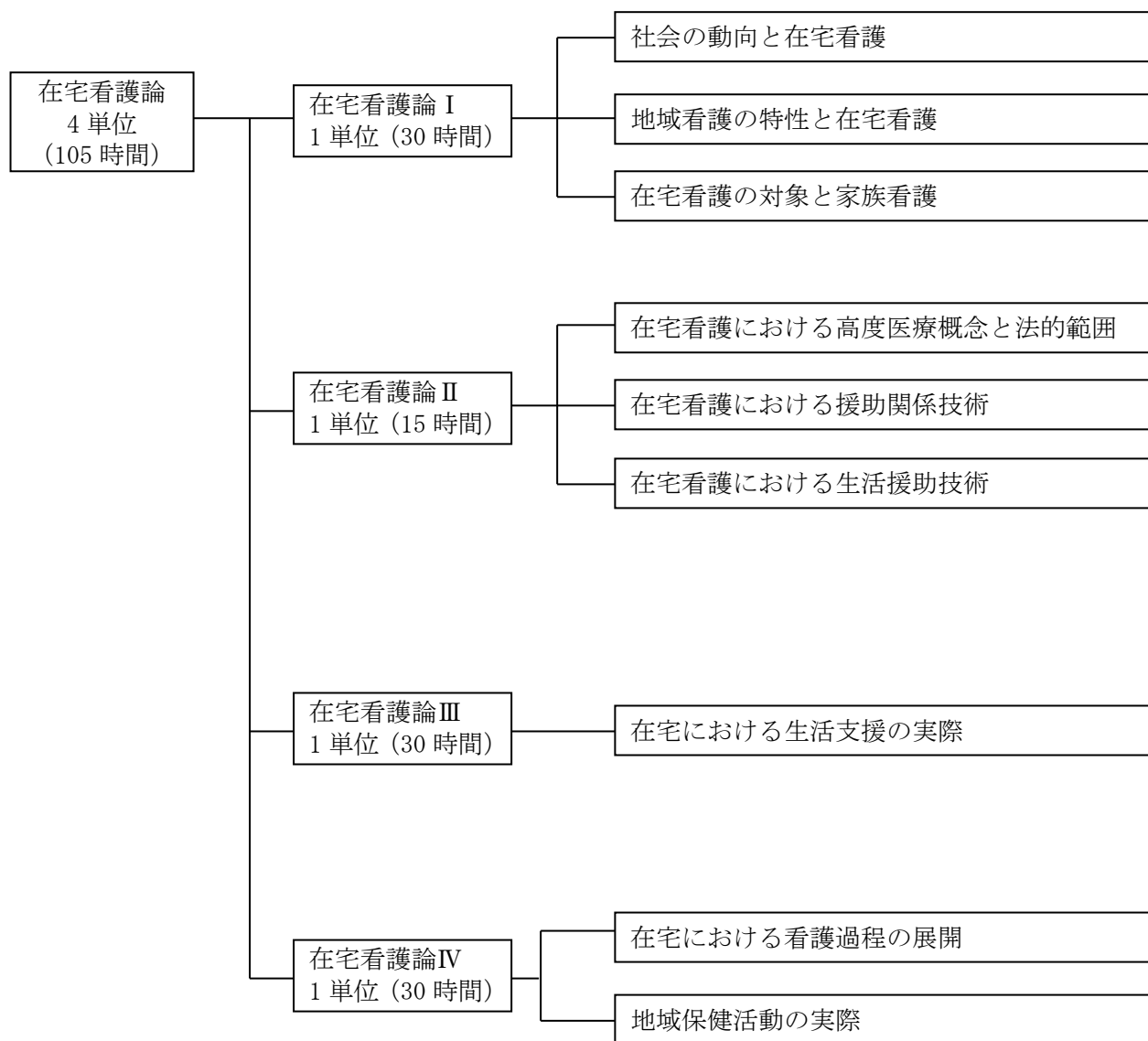
学習目標

1. 地域で生活する人々の健康生活の保持増進と健康回復に対する保健・医療・福祉システムについて理解する。
2. 在宅で療養する意義を理解し、対象の主体性を尊重したかかわりを考える。
3. 在宅看護の基本的な方法と技術を理解する。
4. 在宅看護の展望と看護者が果たす役割について考える。

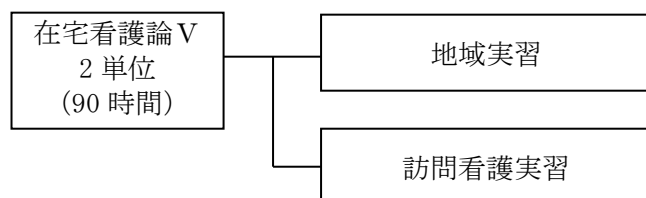
在宅看護論の構成

在宅看護論のカリキュラムを以下のように大きく「講義」と「実習」に分け、各単位と単位数概要を以下に示す。

【講義】



【実習】



科目名：在宅看護論 I 在宅看護概論と保健医療福祉対策		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：2 学年		開講時期：5 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有） 非常勤講師			
学習目的： 地域で生活する人やその家族及びそれを取り巻く保健医療福祉対策を理解し、在宅看護の役割を学ぶ。			
学習目標： 1. 地域看護の位置づけを理解し、在宅看護の機能と役割を明確にできる。 2. 在宅看護の社会支援システムが理解できる。 3. 在宅看護の歴史的変遷と現状が理解でき、世界の動向に目を向けることができる。 4. 在宅看護の対象者の特徴を理解し、療養者と家族への支援について理解できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	社会の動向と在宅看護①	1. 在宅看護とは 2. 在宅看護の歴史 3. 在宅看護の背景	講義
2	社会の動向と在宅看護②	1. 地域看護の概念 2. 在宅看護ケアと在宅看護 3. 在宅看護の場と対象者	講義
3	地域看護の特性と在宅看護①	1. 訪問看護の実際	講義 (外部講師)
4	地域看護の特性と在宅看護②	1. 地域包括ケアシステム 2. 多職種連携と看護師の役割 3. 在宅看護におけるマネジメント 4. 地域療養を支える制度①	GW
5			
6			
7	保健医療福祉対策と在宅看護①	1. 社会資源の活用の実際	講義 (外部講師)
8	保健医療福祉対策と在宅看護②	1. 地域療養を支える制度②	GW
9	地域看護と在宅看護の倫理的側面	1. 在宅看護の倫理と基本概念	GW
10	在宅看護の対象と家族看護①	1. 在宅看護の対象者の特性 2. ケアの対象となる家族 3. 家族の生活 4. もたらされる プラス面とマイナス面 5. 家族看護を支える理論	講義
11	在宅看護の対象と家族看護②		GW
12			GW
13			GW 発表
14	在宅看護の対象と家族看護③		講義
15	まとめ・終了試験		試験

<p>評価方法：100点満点評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終了試験 2. グループワークとその成果物 3. 授業内提出物（必要時、課題レポート及び小テスト） 4. 平常点（出席状況、講義への参加態度、グループワークへの参加と貢献度）
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト：</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p> <p>参考文献：</p> <p>看護師のための地域看護学 PILARPRESS</p> <p>家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第4版 日本看護協会出版会</p> <p>家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 第2版 南江堂</p> <p>看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 第2版 南江堂</p> <p>国民衛生の動向 2018-2019</p> <p>事例で考える訪問看護の倫理 日本看護協会出版会</p> <p>在宅看護体験学習ノート 医師薬出版株式会社</p> <p>家族看護学 医学書院</p> <p>家族看護学 理論と実践 第5版 日本看護協会出版</p>
<p>留意事項：</p> <p>統合分野であるため各領域の看護の対象の特性を受講の項目ごとに確認して授業に臨んで欲しい。同時平行で進む社会福祉論や予防医学の内容との関連性が高いため、常に関連させながら想起する。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>通常は授業終了後での質問と学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。実習時間で不在なことも多いため事前にアポイントメントを取っていただくと確実。</p> <p>※基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談</p>

科目名：在宅看護論Ⅱ 在宅における生活支援の基本		履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）
履修学年：2学年		開講時期：9月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有） 非常勤講師（看護実務経験有）			
学習目的： 在宅での生活支援・調整に必要な看護師技術・態度・対応能力を学ぶ。			
学習目標： 1. 技術を提供するにあたっての法的範囲や他職種との連携を考えることができる。 2. 在宅看護における基本的な日常生活援助の方法を考えることができる。 3. 在宅看護に必要な技術の応用がわかる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	在宅看護における高度医療の概念と法的範囲	1. 在宅における高度医療の概念と法的範囲 2. 在宅療養を支える他職種連携	講義
2	在宅における生活援助技術について①	1. 在宅における意思決定について 2. 日常生活援助技術の概念（国際生活機能分類の考え方）	講義
3	在宅における生活援助技術について②	1. 日常生活援助におけるリスクマネジメント（感染防止・医療事故防止・災害時） 2. 安全性の確保のための日常生活応用技術	講義 （外部講師）
4	在宅看護における援助関係技術の考え方	1. 在宅における指導技術の基本 2. 在宅における相談対応技術（社会的スキル）	講義
5	在宅看護における援助関係技術演習①	1. 初回訪問における面接対応技術（ラポールの形成・マナー等の社会的スキル）	演習
6			
7	在宅看護における援助関係技術演習②	1. 自分自身の面接対応技術のリフレクション（客観的に自分を見つめる）	GW
	終了試験		試験

<p>評価方法：100点満点評価</p> <p>終了試験や、演習時の態度、レポート、出席等</p>
<p>評価基準：</p> <p>60点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p>
<p>留意事項：</p> <p>在宅において基本的な技術の概念を捉えてほしい。また、訪問においての社会的スキルを演習で経験し、実習の場で技能として使えるための基本として技術を学んでほしい。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>学習内容に関する質問等があれば、9:00～17:30に講師を訪ねてください。</p> <p>※基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談</p>

科目名：在宅看護論Ⅲ 在宅における生活支援の実際		履修単位 1単位	講義時間（回数） 30時間（15回）
履修学年：2学年		開講時期：7月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 対象のライフサイクルやライフスタイル、ニーズを促らせ、慢性期から終末期までをも視野に入れた生活援助の方法を学ぶ。			
学習目標： 1. 在宅看護における基本的な生活援助の方法を考え、実施できる。 2. 在宅療養者と家族のライフスタイル・ニーズを考慮した援助技術が理解できる。 3. 在宅における終末期看護の基本がわかる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	学習ガイダンス 在宅における日常生活支援・調整について	1. 授業方法の説明と講義のスケジュールの確認 2. 生活の場での日常生活支援・調整の考え方	講義
2	事例の紹介・学習	1. 事例の紹介 2. 事例の理解のための個人学習	講義 個人ワーク
3	1回目演習準備	日常生活援助技術を実施するための手順書の作成	GW
4	1回目演習実施 実施後の振り返り	1. グループで考えた個別手順書を実施 2. グループで実施後の記録、個別手順書の評価・修正	演習 GW
5	在宅酸素・人工呼吸器を必要とする療養者と家族への援助	1. 在宅酸素療法の管理 2. 在宅における人工呼吸器の管理 3. 家族への指導・社会資源 4. 在宅酸素療法や非侵襲性の人工呼吸器の装着体験演習	講義 演習
6	技術演習	1. 気管カニューレを装着している状態での吸引方法 2. 移動用リフトの使い方 3. 胃ろうの管理と経管栄養注入	演習
7	2回目演習準備	3回目・4回目同様	GW
8	2回目演習実施 実施後の振り返り		演習 GW
9	3回目演習準備	3回目・4回目同様	GW
10	3回目演習実施 実施後の振り返り		演習 GW
11	4回目演習準備	3回目・4回目同様	GW
12	4回目演習実施 実施後の振り返り		演習 GW

回数	講義題目	内容	方法
13	在宅における終末期看護	1. 在宅における終末期の意思決定について 2. 在宅で終末期を送るための条件 3. 在宅で死を迎えるための援助 4. 終末期療養者を支える家族への支援（グリーフケア含む）	講義
14	まとめ	1. 日常生活支援・調整における看護師の役割 2. 在宅における生活支援に必要な視点	講義 GW
15	まとめ・終了試験		試験
<p>評価方法：100点満点 ①グループワーク・演習の参加態度 ②記録物の提出状況・記載内容 ③終了試験</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト・参考文献： ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p>			
<p>留意事項： ①在宅看護論Ⅰの家族看護、在宅看護論Ⅱの講義内容とタイアップしているため、学習した内容が手順や振り返り・課題に活かされていること ②演習準備前に課題を配布するため、事前に終わらせておくこと ③演習は、グループで作った手順や物品を基に実施するため、本科目は積極的な学習を基本とする。そのため、授業に必要な文献は予め準備をし、手順に活かすこと ④終末期を在宅で過ごす療養者と家族を理解するために、他の科目の終末期の講義内容を理解しておくこと ⑤演習時の服装は、実習時に準ずるため、あらかじめ準備しておくこと (ガイダンス時に伝える)</p>			
<p>学習サポートの方法： ①演習事例・記録について：9:00～17:30の間で科目担当者を訪ねること ②演習の練習について：科目担当者に練習したい日時を伝え確認すること ※基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談</p>			

科目名：在宅看護論Ⅳ 在宅における看護過程		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：3 学年		開講時期：4 月	
担当講師：専任教員（看護実務経験有）			
学習目的： 対象のライフサイクルおよび回復期、慢性期そして在宅への継続看護ならびに終末期までも視野にいたした看護過程の実際を学ぶ。			
学習目標： 1. 療養者と家族について必要な情報を意図的かつ系統的に収集できる。 2. 家族の介護上の問題や困難性を理解し、家族を単位とした援助であることを理解できる。 3. 収集した情報を基に、療養者と家族を統合的に捉え、看護の方向性を導き出すことができる。 4. 看護の方向性から看護計画を立案できる。 5. 社会資源の活用状況が理解できる。 6. 地域で暮らす人々への健康の保持増進システムとして、保健行政システムと事業について法的根拠および目的が理解できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	在宅看護における看護過程	1. PDCA サイクルについて 2. 訪問時の情報収集の視点とアセスメント 3. 目標設定と評価 4. 事例展開の流れ	講義
2	保健事業について	1. 地域みまもり支援センターの役割 2. 地域住民の健康維持増進事業の仕組みとその活動（保健師の役割）	講義
3	地域保健活動の実際	1. 地域包括ケアシステムにおける行政の実際と健康維持増進事業活動について	各区地域 みまもり支援センター訪問と 学内地域活動
4	地域保健活動の実際		
5	地域保健活動の実際		
6	地域保健活動の実際		
7	看護過程の展開	1. 事例の発表、看護過程の実施 2. 療養者記録 NO. 1～NO. 3 を用いた個人作業とグループワーク 3. 模擬訪問の実施	GW 訪問演習
8	看護過程の展開		
9	看護過程の展開		
10	看護過程の展開		
11	看護過程の展開		
12	看護過程の展開		
13	方向性の発表	ポスターセッション	発表
14	方向性の発表		発表
15	まとめ	講義内小テスト実施 記録物の提出	講義

<p>評価方法：100 点満点評価</p> <p>①グループワークの参加度・貢献度 ②記録物の提出状況と記載内容 ③講義内小テスト</p>
<p>評価基準：</p> <p>60 点以上で単位修得</p>
<p>テキスト・参考文献：</p> <p>ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p>
<p>留意事項：</p> <p>在宅看護論 I ～ 3 を履修前必ず見直しておくこと。科目履修に際し、春休みの課題を掲示するため、期間内で提出すること。その課題を活用しながら地域活動・看護過程を進める。</p> <p>①春休み中に保健所の役割、関係法規、統計について既習科目で使用した資料等をすべて活用した上で学習しレポートする。</p> <p>②各保健所でのオリエンテーション時の服装は、原則スーツを着用する。他注意点は、別途オリエンテーションする。</p> <p>③各保健所でのオリエンテーション内容や資料は各自整理し、看護過程展開の授業や実習に活かせるようにする。</p> <p>④学内でのワークについては別途オリエンテーションする。</p> <p>⑤在宅看護過程展開の進め方として、情報収集・アセスメントを重要視している。 具体的には、模擬訪問をし、情報収集していくため、2年次に既習済みの訪問マナーなどの技術も必要となる。既習知識を生かしながら授業を進めてもらいたい。</p> <p>⑥統合分野の位置付けとしての授業構成としているため、他分野の資料・文献を活用してもらいたい。</p>
<p>学習サポートの方法：</p> <p>①看護展開に関して：9:00～17:30 の間で科目担当者を訪ねること ※基本 mail での質疑応答はしないが、状況に応じて対応可能なため、要相談</p>

在宅看護論 V

(臨地実習)

単 位 2単位 (90 時間)

学習目的 地域で生活する人々、または障害を持ちながら生活をする人々とその家族の特徴を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を養う。

- 学習目標
1. 訪問看護ステーション (看護小規模多機能型・療養型通所介護施設を含む)
 - 1) 在宅で療養する人々の健康上の問題を捉えることができる
 - 2) 在宅療養を継続していく上で、療養者を支えている家族の健康や生活への影響が理解できる
 - 3) 療養者及び家族に対しての援助方法を考えることができる
 - 4) 療養者及び家族の主体性を尊重した関わりができる
 - 5) 社会資源や多職種連携について理解できる
 2. 地域みまもり支援センター
 - 1) 地域の健康に関する特徴と課題、特徴を生かした保健活動と看護職の役割を理解できる
 - ①保健活動を利用している住民に接し、その保健サービスが個々人の健康問題に果たす役割を理解できる
 - 2) 地域における保健医療福祉間の連携と関係する機関及び人々について理解ができる
 3. 地域把握・地域連携マップ作り・地域アセスメント・健康教育事業作成
 - 1) 地域で生活している人々の特徴、生活している場・施設が理解できる
 - 2) 地域を多面的に理解し、健康・福祉という面での課題を解決するための対策が考えられる
 4. 障害者在宅支援施設
 - 1) 身体・知的・精神それぞれの障害及びライフスタイルに応じて最適な生活を獲得・維持するための支援やそこに関わる専門職の役割が理解できる
 5. 入退院支援部門
 - 1) 入退院支援を受ける対象 (患者及び家族) の背景が理解できる
 - 2) 入退院支援の視点が理解できる。
 - 3) 入退院支援に係わる多職種との連携や社会資源について理解できる
 6. 多職種連携実習施設
 - 1) 多職種との連携について理解できる

看護の統合と実践 5単位

看護の統合と実践Ⅰ 1単位 15時間（1年次）
・手話の実際 6時間
・市民救命士講習 8時間

看護の統合と実践Ⅱ 1単位 30時間（3年次）
1）医療安全の基礎知識 6時間
2）災害看護 12時間
3）国際保健活動論 10時間

看護の統合と実践Ⅲ 1単位 30時間（3年次）
1）医療と法 12時間
2）看護マネジメント 16時間

看護の統合と実践Ⅳ 1単位 15時間（3年次）
・看護研究 15時間

看護の統合と実践Ⅴ 1単位 45時間（3年次）
1）看護の技術の統合 20時間
2）看護の知識の統合 25時間

科目名：看護の統合と実践 I	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 15 時間（7 回）	
履修学年：1 学年	開講時期：後期		
担当講師：専任教員			
学習目的： 医療を学ぶ一市民として、地域に貢献できる能力を身につける。			
学習目標： 1. 手話の基本を習得する。 2. 救急蘇生法の基本的知識を学び、基本的技術を習得する。			
回数	講義題目	内容	方法
1	手話の基本的知識	1. 手話とは 2. 手話の基本形	講義
2	手話の実際（1）	3. 手話を使ったコミュニケーション	演習
3	手話の実際（2）		演習
4	市民救命士講習（1）	一次救急蘇生法+AED 実地訓練	講義・演習
5	市民救命士講習（2）		講義・演習
6	市民救命士講習（3）		講義・演習
7	市民救命士講習（4）		講義・演習
	終了試験		試験
評価方法： レポート、出席状況、授業態度を総合的に評価する。			
評価基準： 60 点以上で単位修得			
テキスト： 医療の手話シリーズ①手話で必見！医療のすべて（外来編）全日本ろうあ連盟			
留意事項： ここでは、地域における貢献能力を高めるため、手話を通じたコミュニケーション手法の学習や、上級市民救命士講習に参加し救急蘇生法を習得します。学習内容は、ろうあ協会・川崎市消防局員・救急蘇生法のインストラクターによる身体を動かしながらの演習が主で、より実践に即した内容となっているため、皆さんの積極的な参加姿勢を期待します。また、上級市民救命士講習の修了後は、「川崎市上級市民救命士修了証」を取得することができます。			

科目名：看護の統合と実践Ⅱ 1. 医療安全の基礎知識 2. 災害看護 3. 国際保健活動	履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）	
履修学年：3 学年	開講時期：前期		
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 1. 医療安全に必要な基礎知識を学ぶ。 2. 災害および災害看護に関する基本的知識を身に付け、災害時に求められる看護の役割と方法について学ぶ。 3. 国際保健の動向および現状を学び、国際的視野で健康問題を捉え、国際保健医療協力のあり方を学ぶ。			
学習目標： 1. 医療安全に必要な基礎知識を理解する。 2. 医療・看護の法的側面を理解する。 3. 医療安全のための感性を高める。 4. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。 5. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。 6. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を理解する。 7. 災害場面で行われるトリアージの基本的知識を理解する。 8. 国際保健医療協力の概要、国際看護の概念を知り、国際看護に必要な視点を理解する。 9. 開発途上国の保健医療の現状を知り、健康に関わる要因について考える。 10. プライマリヘルスケアの理念を学び、国際保健医療協力における看護職の役割について考える。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	医療安全の基礎知識（1）	1. 医療と医療安全 2. 医療安全のための基礎知識 1) 医療安全とは 2) 医療安全と看護 3) 人間の3つの行動モデル	講義
2	医療安全の基礎知識（2） 法律・制度	3. 医療安全にかかわる法律・制度 1) 国の医療安全施策 2) 医療法施行規則の一部改正 3) 医療法改正 4) 医療事故に係る調査の仕組み 5) リスクマネジメント	講義
3	医療安全管理について	4. 事故防止の考え方を学ぶ 1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故の防止の考え方 4) 診療の補助の事故防止 5) 療養上の世話の事故防止 6) 組織的な医療安全体制への取り組み	講義

回数	講義題目	内容	方法
4	災害と医療	1. 災害とは	講義
5		2. 災害と災害医療 3. 我が国の防災医療体制 4. 特殊な災害（放射線災害他）	講義
6	災害看護概論	1. 災害医療と災害看護	講義
7		2. 災害看護の変遷 3. 災害サイクルと災害看護 4. 被災者特性に応じた災害看護（災害看護と倫理含む）	講義
8	災害看護の実際	1. 災害フェイズと心のケア 2. 急性期から亜急性期のケア 3. 医療者自身のメンタルケア 4. トリアージ概要	講義・演習
9	災害看護の実際	1. 災害時のトリアージの実際	講義・演習
10	国際保健・看護とは	1. 国際保健医療協力の概要	講義
11		2. 国際看護の概念 3. 国際看護に必要な視点	講義
12	国際保健医療の現状と課題	1. 開発途上国の保健医療の現状 2. 健康にかかわる要因	講義
13	プライマリヘルスケア	1. プライマリヘルスケアの理念 2. 国際保健医療協力における看護職の役割 3. 活動事例紹介	講義
14	国際援助の実際	1. 国際援助における看護の役割と活動の実際	講義
15	まとめ・終了試験（1時間）		試験
<p>評価方法： 終了試験、レポート、出席状況、授業態度を総合的に評価する。</p>			
<p>評価基準： 60点以上で単位修得</p>			
<p>テキスト： 系統看護学講座 統合分野 「医療安全」 医学書院 系統看護学講座 「災害看護学・国際看護学」 医学書院</p>			
<p>留意事項： 1. 医療安全の基礎知識：ここでは、医療安全対策室で活躍している講師による講義が行われます。医療安全に関する基礎知識のほか、医療現場で生じるインシデントやアクシデントの実際を知り、医療現場で行われている事故防止対策について学習します。ここでの学習は、皆さんの臨地実習においても大いにいかされる内容と考えます。興味をもって主体的に講義に参加することを期待します。</p>			

留意事項：

2. 災害看護：ここでは、大学病院クリティカルケア部門で活躍し、現地での災害活動も経験している看護師が講師を務めます。実際現場を踏まえた災害看護の基礎知識やトリアージ演習は、より実践に即した内容となっています。大規模地震発生の確率が高まる現在、医療者を目指す看護学生として興味を持って積極的に講義・演習に参加することを期待します。
3. 国際保健活動論：当校の教育目標でもある広い視野で看護を探求し、国内外の情勢に関心に向け、社会や国をこえた看護の役割を現状の国際看護の問題及び実践から学び、他の専門看護の統合及び教育目標の達成に向けられるよう高い意識を持って学んでほしい。

科目名：看護の統合と実践Ⅲ 1. 医療と法 2. 看護マネジメント		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 30 時間（15 回）
履修学年：3 学年		開講時期：医療と法：後期 看護マネジメント：前期	
担当講師：非常勤講師			
学習目的： 1. 医療・看護の法的側面を理解した上で医療の専門職者としての倫理的感性と責任について学ぶ。 2. 患者ケア提供者として必要な看護管理の理論と実践的な知識、技術を習得し、看護専門職としての態度を養う。			
学習目標： 1. 医療訴訟と医療者の法的責任について知る。 2. 医療者の法的責任と職業倫理について考えられる。 3. 看護管理の目的と機能が解る。 4. 看護管理の要素とプロセスがわかる。 5. 日本の医療と看護サービス提供システムの実際がわかる。 6. 看護管理の今日的課題と課題がわかる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	医療訴訟と医療者の法律上の責任概要	1. 医療訴訟 2. 医療者の法的責任	講義
2	専門職としての法的責任・職業倫理	1. 判例事例の紹介 2. GWを通し、判例事例における法的責任・職業倫理について考える	GW
3			
4	看護職と医療裁判	医療裁判を経験した看護職の話聞き、専門職としての法的責任・職業倫理について考える	講義
5	専門職としての法的責任・職業倫理	1. 今までの学習のまとめ 2. GW及び発表を通し、「私が考える専門職としての法的責任・職業倫理」を明確にする。	GW 発表
6			
7	管理とは、組織とは	1. 管理のサイクル 2. 病院の基本的成り立ち、看護部門の基本的成り立ち	講義
8	病院の基本的構造と経営	1. 目標管理 2. 医療機関の機能分化（協働・チーム医療） 3. 質保証	講義

回数	講義題目	内容	方法
9	看護部門の基本的役割とマネジメント	1. 人事、労働管理 (時間・ストレス・労働条件) (薬剤・物品)	講義
10		2. 業務管理 (業務上の危険・基準、手順)	講義
11		3. キャリア開発 (ジェネラリスト・スペシャリスト・ キャリアラダー・新人教育制度)	講義
12	各看護単位での看護管理	1. チームマネジメント 2. シフトワーク	講義
13	スタッフナースに求められる 管理的役割	1. リーダーシップ、 フォロアーシップ 2. チーム医療、パートナーシップ 3. セルフマネジメント 4. 業務遂行マネジメント	講義
14	看護管理の今日的課題	1. 医療サービスと情報管理 2. 診療報酬制度と看護 (看護必要度と人事配置) 2. 看護師の法的責任 (静脈注射について)	講義
15	まとめ・終了試験 (1時間)		試験

評価方法：

医療と法：レポート、出席状況、授業態度を総合的に評価する。

看護マネジメント：筆記試験、出席状況、課題レポート

評価基準：

60点以上で単位修得

テキスト：

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 (1)「看護管理」医学書院

参考文献：

看護サービス管理 第3版

留意事項：

1. 医療と法：これまで学んできた様々な専門知識を統合し、専門職業人としての役割責任を法的側面から学んで欲しい。また判例事例の分析、考察、および講演を通して職業倫理を各自が考え、共有することで倫理的感性を高めていってほしい。
2. 看護マネジメント：今日の医療機関を取り巻く環境は大きく変化し、医療サービスに対する要求も厳しくなっています。提供する看護の質は看護ケアと看護管理の双方によって決まってきます。看護管理は資源を効果的、安全にアセスメントし、適切な看護ケアを提供することにあります。社会、医療、福祉、健康の動向と法的条件、看護学概論、経営組織論、学習理論をもとに実践的な看護管理の知識、技術を統合し、卒後専門職としての業務、自己管理に応用してゆけることを目指します。

科目名：看護の統合と実践Ⅳ 看護研究		履修単位 1単位	講義時間（回数） 15時間（7回）
履修学年：3学年		開講時期：前期	
担当講師：専任教員			
学習目的： 1. 臨床で生じる問題を通して、論理的・科学的なものの見方や考え方を養う 2. 看護実践の結果を論文にまとめて発表する			
学習目標： 1. 研究デザインが決定できる。（実験研究・調査研究・事例研究・文献研究等） 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究計画書に従い、主体的に研究を進めることができる。 4. 研究論文としてまとめることができる。 5. 研究成果を発表できる。			
回数	講義題目	内容	方法
1	研究テーマの決定	1. 研究テーマの決定 2. 研究動機の明確化 3. 研究目的の明確化 4. 研究方法の決定 5. 文献検索 6. 研究仮説の明確化	講義 個人ワーク 個別指導
2	研究計画書の作成	1. 研究テーマの絞り込み 2. 研究計画書の作成 3. 研究の進め方の決定	個人ワーク 個別指導
3	研究論文作成 1	1. 論文形式にのっとり記載する。 1) はじめに 2) 研究方法 3) 看護の実際（結果）の記載	個人ワーク 個別指導
4	研究論文作成 2 抄録の作成	1. 論文形式にのっとり、記載する。 1) 考察 2) 結論 3) おわりに 2. 研究論文に基づき、抄録としてまとめる	個人ワーク 個別指導
5			
6			
7	研究発表の方法	1. 研究発表原稿の書き方 2. 研究発表時の留意点	講義
	終了試験		研究論文提出
評価方法：研究論文・抄録・研究発表および研究姿勢を総合的に評価する。			
評価基準：60点以上で単位修得			
テキスト・参考文献：各自で検索する。			

留意事項：

研究方法は事例研究、調査研究、実験研究、文献研究から選択する。臨地実習での体験が研究に取り組む動機となっていること。また、論文形式にのっとり最後まで個人でまとめる。最後に研究の成果を発表し、意見や講評を得ることで看護研究まとめとし、さらに3年間の学びの集大成となるように取り組んでほしい。

科目名：看護の統合と実践V 1. 看護の技術の統合 2. 看護の知識の統合		履修単位 1 単位	講義時間（回数） 45 時間（35 回）
履修学年：3 学年		開講時期：後期	
担当講師：専任教員 非常勤講師			
学習目的： 1. 臨地実習の学習成果の定着を図り、個別性を尊重した適切な技術を実践できる。 2. 3年間の総括として、主体的に学習する能力を養う。			
学習目標： 1. 精神・運動・情意領域において総合的に看護計画を立案することができる。 2. 的確な看護判断と適切な看護技術に基づき、生活援助ができる。 3. 学習過程を具体的にリフレクションすることができる。 4. 専門基礎分野・各専門領域の知識の統合をはかることができる。 5. 最新の医療界・看護界の知見を学習できる。 6. 自己の知識について理解できる。			
回数	講義題目	内 容	方 法
1	授業ガイダンス	1. OSCE とは 2. 事例の提示 (データベース用紙 I、II、 フローチャート) 3. ワークシートの使用方法 4. リフレクションシートの 使用方法	講義
2	個人学習	1. 事例の整理、ワークシートの 個人学習、看護計画立案 2. シナリオの知識確認試験 3. OSCE の実技演習、 看護計画の修正 4. まとめについての オリエンテーション	個人ワーク
3			
4			
5			
6			
7	OSCE (objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験)	1. タイムスケジュール、試験問題、 試験会場などは掲示で確認 2. OSCE 終了後、 リフレクションシート記入	技術試験
8			
9	まとめ	グループでのワーク、発表 リフレクションシートの提出	GW 発表
10			
11	看護の知識の統合準備試験 1	1. 人体の構造と機能 I II 2. 社会保障と医療関係法規・ 予防医学	準備試験
12			

回数	講義題目	内容	方法
13	看護の知識の統合準備試験 2	1. 病気の発生とメカニズム・薬理学・臨床検査 2. 呼吸器・循環器・消化器・内分泌・血液・免疫 3. 脳神経・運動器・排泄機能・男女生殖器系	準備試験
14			
15	看護の知識の統合準備試験 3	11、12、13、14 時間目の振り返り	準備試験
16			
17	看護の知識の統合準備試験 4	1. 基礎看護学 2. 母性看護学 3. 小児看護学 4. 看護の統合と実践	準備試験
18			
19	看護の知識の統合準備試験 5	1. 成人看護学 2. 老年看護学 3. 精神看護学 4. 在宅看護論	準備試験
20			
21	看護の知識の統合準備試験 6	17、18、19、20 時間目の振り返り	準備試験
22			
23	人体の構造と機能 I	人体の正常な構造と加齢に伴う変化について	試験
	人体の構造と機能 II	人体の各臓器の機能を理解し、それらが統合されて体内の環境の恒常性が保たれる仕組みについて	
24	薬理作用と健康	主な薬物の作用と副作用・薬物の管理・疾病に対する薬物療法・薬害	試験
	病気の発生とメカニズム	1. 細胞の障害・生体の障害 2. 感染	
25	社会保障制度と医療関係法規	1. 社会保障制度 (社会保険法規・福祉関連法規) 2. 保健サービスの実際 3. 保険医療福祉分野での連携について	試験
	生活者の健康 (予防医学)	1. 健康と公衆衛生 (公衆衛生の基本・保健統計) 2. 公衆衛生における感染症対策 3. 保健活動の基盤となる法と施策 (医事法規・薬務、労働衛生、環境関連法規・保健衛生法規・生活衛生法規) 4. 生活習慣病の予防と施策	

回数	講義題目	内容	方法
26	疾病の成り立ちと回復の促進 1	1. 手術麻酔 (手術療法と生体侵襲)・放射線 2. 臨床検査・リハビリテーション・ 救命救急処置・人間の死 3. 主な症状と徴候	試験
	疾病の成り立ちと回復の促進 2	呼吸器・栄養と消化・内分泌・血液・ 免疫	
27	疾病の成り立ちと回復の促進 3	1. 循環器・脳神経系・運動機能・ 排泄機能系(腎泌尿器) 2. 男性生殖器・女性生殖器系・乳腺	試験
28	基礎看護学 1	1. 看護学概論 I・II 2. 看護方法論 I	試験
	基礎看護学 2	看護方法論 II・III・IV	
29	基礎看護学 3	看護方法論 V・VII・VIII	試験
	看護の統合と実践	看護管理・看護研究・医療安全と 基礎知識・災害看護	
30	成人看護学 1	成人看護学 I・II・III	試験
	成人看護学 2	成人看護学 IV・V・VI	
31	老年看護学 1	老年看護学 I・II	試験
	老年看護学 2	老年看護学 III・IV	
32	小児看護学 1	小児看護学 I・II	試験
	小児看護学 2	小児看護学 III・IV	
33	母性看護学 1	母性看護学 I・II	試験
	母性看護学 2	母性看護学 III・IV	
34	精神看護学 1	精神看護学 I・II	試験
	精神看護学 2	精神看護学 III・IV	
35	在宅看護論 1	出題基準の在宅看護論 目標 1、3	試験
	在宅看護論 2	出題基準の在宅看護論 目標 2	
<p>評価方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の技術の統合：シナリオの知識確認試験、OSCE（客観的臨床能力試験）、 リフレクションシートを総合し 100 点とする。 2. 看護の知識の統合：25 科目（23 回目から 35 回目）1 科目 100 点満点とする客観試験を 実施し、その結果から総合評価する。 			

評価基準： 60 点以上で単位修得
参考文献： 中村恵子編著：看護 OSCE メヂカルフレンド社 2011 年 他
留意事項： 1. 看護の技術の統合：卒業時の看護実践能力を一定以上に確保するため、OSCE を取り入れた。看護実践能力育成において、学生の到達レベルの確認が必要であり、それまで行ってきた実習の集大成と考えて頂きたい。従って責任感、専門的知識、情報収集力、コミュニケーション力、実行力、論理的思考力、状況把握力、判断力を必要とすることを理解し積極的に個人学習と OSCE に臨んでほしい。 2. 看護の知識の統合：3 年間で学んだ知識と臨地実習で培った能力を活用し、知識の集大成として自己の能力を自覚できることと課題を明確にしてほしい。